土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　　報　　Ｎｏ.４１９
発行責任者　　所　長　　加藤　紀久朗
発 行 日　　平成１９年　４月２７日
題　　字　　白　石　　聰　教育長

「ぼくたち　もうなかよしだよ」　　撮影　　下石幼稚園　副園長　宮島朝子 先生

「わかりません、できません、間違えました」は駄目ですか

土岐市教育研究所長　　**加藤　紀久朗**

新学期も始まり、間もなく１か月が過ぎようとしています。子どもたちも先生方も新しい学期に向けてよいスタートがきれたことと思います。

私たち、先生の仕事は、子どもたちに「夢」や「憧れ」を持たせることが大きな役目でもあり仕事です。そのことは先生方誰もが思っていることです。だから、間違えることや弱い心を見せることはできません。絶対に、間違いやわからないこともあってはいけませんし､子どもに向かっては、がんばれと言い続けることが身に付いています。しかし、間違えることや弱い心を見せることが、夢や憧れを壊してしまうものでしょうか。

私の教員経験の中で､自分の弱さを認めたとき、今までの教育観と違う新しい教育観が芽生えてきたことを今でも鮮明に覚えています。自分の言うことを聞かせることが指導と強く信じていました。そのことすべてが、今でも間違ったものとは思いませんが、その指導には限界がありました。指導に従わない子どもの姿から、指導には子どもから学ぶということもあることを、その時初めて知りました。自分の限界を見つけることにより、子どもを更に深く知ることや新しい指導方法や教育観が培われた気がします。

先生といえども年齢や経験、指導力の違いは当然あります。その違いがあるからこそ学び合えるのではないでしょうか。自分を知ること、「わからないことは教えて下さい」と言えること、「これ以上はできません」と言うことは恥でしょうか。逆に、わからないから、できないから教えて欲しいと思って実践できる先生にこそ､子どもたちは｢憧れ｣を持つのではないでしょうか。

長い１年間がスタートしました。肩に力を入れすぎないで、子どもに軸足をおいた教育実践と自分を素直に語れる職員のチームワークが１年間を充実させるものと信じています。

教育の再生について
―教育基本法の改正等をどうみるか―

教育長　　白　石　　聰

今年は、暖冬かと思えば三月中旬になって突然「名残り雪」が降ったことで、桜の開花期間が例年よりも長く、今も「名残り桜」となっていますが、これも地球温暖化の影響でしょうか。

さて、昨年は教育界にとって忘れることの出来ない大きな事件として、「中津川市で起こった事件」や「いじめ問題」そして「未履修問題」などに加えて、戦後６０年間、一度も改正されなかった教育基本法の大幅な改正がありました。

また、教育再生会議による提言は、「ゆとり教育」の見直し、「いじめ」や「体罰」の定義や範囲の見直し、副校長や主幹、指導教諭の配置、教員免許更新制度の導入、教育委員会制度の抜本改革などがあり、現在、これらを内容とする教育関連三法案が国会で審議中であります。

こうした急激な教育の変化に、どう子どもたちに不安を与えないで導いていくかが、私たちに大きく問われていますが、どのように法律や制度が改正されても、教育の基本は人と人との関わりであり、教師の情熱と子どもたちの意欲が高まらなければ、よくはならないと思います。

そのため教師は、崇高な思いと情熱（使命感）を持ち、子どもの目線に立った教育をあらゆる機会を捉えて指導していくことが必要であると思います。

この度、教育基本法が改正され、義務教育については、「個人の能力を伸ばし、社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる資質を養うこと」が、同法の第五条第二項に新たに規定されました。

また、第十条には、「保護者は、子の教育について第一義的な責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせ、自立心を育成し、心身の調和のとれた発展を図るよう努めなければならない」と家庭教育の重要性が規定されました。学校、家庭、地域の役割と責任および連携も第十三条に規定されるなど、今回の教育基本法の改正により、教育の目的等が明確になったことはよいことだと思いますが、教育再生会議の提言にもあるような教育に対する国からの指導が強くなってくることには、懸念を感じています。

それは、義務教育の責任をどう果たしていくかであり、学校や市教委の力量が問われていることでもあります。

私は、教育の責任と権限は、より子どもたちに近いところにあるべきだと思っていますが、これまで、ややもすると国や県の指導に頼り過ぎてきたのではないでしょうか。

明治５年の学制公布により近代学校制度がスタートしたのが「第一の教育改革」で、戦後の教育改革が「第二の教育改革」とすれば、今回の一連の改革は「第三の教育改革」ではないかと思います。

そして、少なくとも第一および第二の教育改革には、教育に対する国民の熱い思いがあったと思いますが、第三の教育改革に対し、果たしてどれだけ多くの熱い思いが国民にあるのか少し疑問を感じています。

何れにしましても、こうした変革期こそ、目先の現象にとらわれ過ぎないよう、教育の基本を確かに見据え、教育に対する責任と自信を持って、学校と市教委が主体的に対応していかなければならないものと思います。

そして、どの子も笑顔で、たくましくあって欲しいと思っていますので、それには第一線の先生が、先ずは子どもたちの前に立つとき笑顔で元気であって欲しいものと思っています。

昭和４０年代にわが子の成長を願って、「わんぱくでもいい、たくましく育って欲しい」というコマーシャルありました。今、たくましく「生きる力」が求められていますが、当時のことを思い出しているところであります。

教育改革の流れの中で土岐市小中学校教育研究会の役割

土岐市小中学校長会長　　山田　利彦

１　はじめに

桜の花が咲くとともに陽光も変わってきました。先生も子どもたちも、どこかはつらつとした勢いを感じます。季節の変化によって、どの子もどの先生方も気分一新して、新しい気持ちで取り組もうとしていることが伝わってきます。人知を超えた自然の力を感じます。教育改革の流れの中で、９月新学期という声も聞きますが、義務教育はやはり４月新学期がよいと思います。

２　教育改革の流れの中で

教育改革といえば、最近の改革は教育再生とか制度面からの大きな改革が、本当に速く矢継ぎ早の感があります。それに対してどんな対応があるのかを川の流れにたとえてみましょう。

・流れに抗して川上へ上ろうとする人
・流れに身を任せて流されていく人
・流れに乗ってどんどん先へいく人
・土手に座って眺めている人
・杭にしがみつきその場でふんばっている人
・そんな人たちの足を引っ張ったり突き飛ばしたりする人

しかし、我々義務教育のなすべきことは「児童生徒を無事に対岸（社会）へ送り届け、そこから自力で歩んでいかせること」です。そのために我々は方向を決め、力を合わせて一緒に精一杯オールを漕ぐことです。それは「子どもと授業を大切にし、『生きる力』をはぐくむ」ことです。そして、そのために「学ぶ楽しさのある授業」をすることです。

しかし、今日の学校教育は「学力不足、いじめ、自殺、裏金、未履修、安全管理、教師の資質」といった問題を背負い、それが解決出来ないと厳しい批判と不信にさらされます。それに対して我々はどう応えればよいのでしょう。

３　土岐市小中学校教育研究会の役割

もう我々は小学校、中学校と共に教育委員会、教育研究所と手を取り合っていくしかありません。それがこの「土岐市小中学校教育研究会」の場です。皆さんのお手元に配布されている「平成19年度土岐市小・中学校教育の方針と重点」の「教育推進の主な活動」をそういった観点で改めてもう一度ご覧下さい。毎年やっているから、去年どおりでいい、自分は授業をきちんとやっているからよいなどと言ってはおられません。こういうことをしっかり行い、地域・家庭・保護者に対して我々はこんなに研修し教育活動をしているのだということを本当に理解してもらい、協力を得るしかありません。

土岐市の小中の先生方が地域・家庭・保護者という船に乗り、土岐市小中学校教育研究会というオールを使って、力を合わせて漕いでいくしか教育改革の波を乗り切る事は出来ません。そして自ら歩む力を付けて、子どもたちを無事に対岸へ送り届けようではありませんか。

平成19年度
土岐市　幼稚園、小・中学校教育の方針と重点

「子どもと授業（保育）を大切にする」ことは、土岐市の教育が、長年にわたって**非常に大切にしてきたこと**です。私たちは、子どもたちの実態を的確に把握し、**常に授業（保育）の改善に努めるなかで、『方針と重点』の具現を図っていくことを大切にしてきました。**

各園、学校によるこれまでの取組の様子や評価から、学ぶ楽しさを味わう姿や夢中になって遊ぶ姿がかなり具現され、「教育課題」が着実に解決されつつあることを実感しています。**さらに質を高めていきたい**、平成１９年度です。

『第五次土岐市総合計画』に基づいています！

市政の向かうべき方向をとりまとめた『土岐市第五次総合計画』では、教育施策を土岐市の最重要施策のひとつととらえ、以下のように記しています。

～「緑」は土岐市の豊かな自然の象徴です。つくることから鑑賞、体験まで陶磁器産業・文化・観光の幅広い象徴が「陶芸」です。さらに「先端技術」は土岐市の持つ新たな、大いなる可能性の象徴です。

「緑」「陶芸」「先端技術」は、土岐市の魅力であり、対外的に強く訴えかける重要な交流財産といえます。今後は、恵まれた自然を大切に守りながら、伝統と先端技術を両輪とした活力あるまちづくりを進め、子どもから高齢者まで土岐市に住む一人ひとりが、元気で、豊かさやうるおい、安らかさやゆとりを実感できる快適なまちを、みんなで協力し、助けあって築き上げていくことをめざします。（抜粋）～

６つの基本目標

- **参　画**
- **活　力**　～自立と協働のまち～
- **安　心**　～元気を生み出すまち～
- **安　全**　～みんなの笑顔が輝くまち～
- **創　出**　～潤いと安らぎのあるまち～
- **育　成**　～ゆとりを実感できるまち～
  - ～豊かな心を育むまち～

～「地域で人を育て、人が地域を育てる」という理念に基づき、未来を担う子どもたちがたくましく生きる力を身につけ、健やかに成長する姿を市民が実感できる地域づくりを進めます。～

２　学校教育の充実

（1）　**地域と一体となった学校教育の推進**

（2）　**学習環境、指導体制の充実**

（3）　**学校施設の整備・充実**

「方針」、「重点」、「教育課題」にはこんな性格があります

『方針』：長期的な見地から土岐市の学校教育がこれから進むべき方向

子ども保育を大切にし、「生きる力」の基礎をはぐくむ（幼稚園）
子どもと授業を大切にし、「生きる力」をはぐくむ（小・中学校）

『重点』：短期的な見地から方針具現のために最も大切にすべき点

「園、学校経営」　「研　修」　「指　導」　の３つの側面から

『教育課題』：各校の「学校課題」と同様、土岐市内の各地域、各学校、幼児・児童生徒の実態、地域や保護者の願い等を踏まえて、土岐市の学校教育が一丸となって解決すべき課題。一方で、『方針』や『重点』の具現状況を見極める上でのいわゆる到達目標としての性格も併せ持つ。

夢中になって遊ぶ保育（幼稚園）
学ぶ楽しさのある授業（小・中学校）

具現のために、こんなことを大切にしたい！

『方針と重点』の策定にあたっては、各学校における評価結果や市教育委員会による学校訪問時の状況、国・県・市における学校教育の今日的な課題等を総合的に判断し、かつ、岐阜県の学校教育の方針と重点の趣旨を踏まえました。また、以下の点を大切にしたいと考えました。

☑　「人間尊重の精神に基づく」「人権尊重の気風がみなぎる」園・学校づくり、学級経営の一層の充実

→子どもたちに「自他を大切にする心」を育むことは、喫緊の課題であり、その基盤となる「人間尊重の精神」を全教育活動にわたって大切にします。

☑　具体的に評価システムを機能させることによる開かれた学校づくりの推進および教育の質の向上

→自己評価や外部評価を園・学校経営の改善に生かして、その結果を公表することにより、開かれた園・学校づくりを推進するとともに、学校の教育の質の向上に努めます。

☑　情報機器や教育用コンテンツの授業での積極的な活用及び情報モラル育成指導についての研修の充実

→年度末の小・中学校の評価結果において、具現状況（評価点）が他の項目と比較して低かった部分です。子どもたちにとって「楽しい授業」「わかる授業」を展開するために積極的に活用していきます。

☑　「夢中になって遊ぶ保育」「学ぶ楽しさのある授業」具現のための不断の授業（保育）改善

→最も大切なことは、やはり子どもたちを目の前にした授業であり、保育です。研修・研鑽に努め、日々の授業（保育）改善に誠心誠意取り組みます。

☑　道徳教育、総合的な学習の時間、進路指導の一層の充実

→小・中学校の年度末の評価で、具現状況（評価点）が少々気になりました。各学校で、趣旨やねらいを十分理解し、確実に実施していきます。

☑　生徒指導の一層の充実（「早期対応」のみならず「未然防止」の視点の強化）

→積極的な生徒指導を展開し、自己指導能力の育成をさらに図ります。

☑　特別支援教育の着実な推進

→特別支援学校等と連携しながら一人一人の特別な教育的ニーズを正しく理解し全教職員が組織的に指導できるよう校内支援体制の確立に努めます。

引きこもっている子に光を
浅野に来ている子に活力を

浅野教室　室長　尾石　忠正

１　現在の浅野教室の役割

浅野教室は、肥田町の土岐市学校給食センターのすぐそばにあります。南側は山になっていて、緑の多い所です。１年中小鳥のさえずりが聞こえ、キジも時々姿を見せます。

さて、知られない方も多いと思うので、浅野教室が主にどのような役割をしているかについて、まず説明をしてみます。（「浅野教室」は通称で、正式には「土岐市教育相談適応指導教室」と言います）

①　通級生の指導

それぞれの理由で、学校へ行け（か）ない状態の子が、浅野教室に通っています。その子たちの指導をしています。午前中は学習、午後は１時間程度学習し、あとは思い思いに過ごしています。

指導してくださるスタッフは充実していて、浅野教室へ通ってくる生徒は、そのうちに大概元気になり力をつけています。

②　各種相談への対応

直接来室される方や、電話による教育問題の相談にお応えしています。（５５－８５５５）

③　土岐市の各小中学校の不登校･いじめ関係諸問題の全体的な把握

毎月各学校から、直接報告をいただいて集計しています。

④　各小中学校と連携し、その支援

各学校が抱えている不登校などの問題について、手助けできることは積極的にさせていただきたいと考えています。

⑤　各小中学校相談員研修の主催

市教委の指導の下、各学校の相談員の研修会を学期に１回の目安で、中学校区ごとに行っています。他に講演会も１度行います。

⑥　「夜の保護者会」(通称) の開設

毎月第２火曜日に、「浅野教室」を会場とし、夜の７時から９時まで行っています。

誰でも参加できます。

２　土岐市不登校生徒の現状

次に土岐市の不登校生徒の現状（４月当初）について述べてみます。

結論から言えば、土岐市の場合、不登校生徒は減少というよい傾向にあります。

減っていることは好ましいことで、減っている原因はいろいろありますが、特にあげられることは、各校の意識の高まりと、各校の具体的な取組が功を奏しているということでしょう。

つまり、学校へ行けない子が登校した場合、その子に対する学校の対応が、きめ細かく丁寧になってきたり、より一層ある方針を持って対応に当たったりしているということです。それは、当然のことながら、校内の教育相談体制が整ってきたことと相関していると言えます。これによって、不登校という事実が起こった場合、担任だけで抱え込むのではなく、学校としての対応が見られるようになったということです。

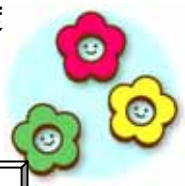
担任は民主的な学級をつくるべく努力をせねばなりません。しかし、必ずしもそうならない場合、学校としての適切な対応が定着しつつあるということだと思われます。

また、学校の相談体制が整っていれば、それぞれの立場の人が、同じ認識の基でそのことに関われるということになります。校内適応指導教室の相談員、スクール相談員、校内の相談員、スクールカウンセラーの先生、そして、担任や学年主任などが有機的に関連し、ことに対処できることになるわけです。

今後の方針としては、一層の校内相談体制の整備とそこに関わる人の有機的な連携が望まれます。

蛇足ですが、校内の相談体制がいくら整っても、「その子」にとって、鍵になるのは常に「担任の先生」であることを付け加えておきます。

平成１９年度



本年度の助成･訪問･研修事業等について

土岐市教育委員会

助成事業等

市指定　「土岐市教育課題研究推進指定園、指定校」

鶴里小学校＜１１月２２日発表＞　　駄知小学校＜中間報告＞
濃南中学校＜１０月３０日発表＞　　西陵中学校＜中間報告＞
肥田小学校附属幼稚園＜１１月 8 日発表＞

東濃地区教育推進協議会指定　「学級経営　研究推進指定校」

泉小学校＜１１月２１日発表＞　→2 年間の研究の成果を発表

文部科学省指定「児童生徒の心に響く道徳教育推進指定校」

泉西小学校　命を大切にする心をはぐくむ教育の推進に関する研究＜＜H19/20 年度＞

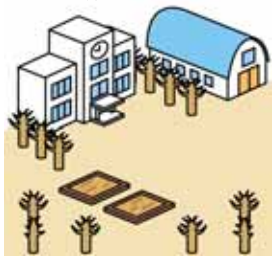
研究委託　心のサポーター設置推進事業

駄知小学校、肥田小学校に配置　市の教育相談員と兼務しながら不登校対策等にあたる。

講師派遣・配置

■ＡＬＴ派遣　→2 名の ALT を幼稚園、小・中学校に派遣
■小学校国際理解教育講師派遣　→小学校の英語活動等を支援する人材の派遣
■はつらつ人材バンク　→特色ある教育活動展開のための地域人材の派遣
■出前講座　→教育研究所職員の現職研修等への派遣
■小学校教育相談員　土岐津小・下石小・妻木小・駄知小・肥田小・泉小・泉西小
■中学校教育相談員　全中学校　学校内適応指導教室相談員　土岐津中・西陵中・泉中
■スクールカウンセラー等配置　全中学校
■きめ細かな学校支援事業　12 人　→「市支援員」として配置
■外国人児童生徒学校適応支援事業　→外国人児童生徒支援のために派遣

教育振興・補助等



■キャリア教育推進事業補助金　特色ある学校づくり補助金
■科学作品・発明くふう展
■ハートフルプラザ土岐
■小・中音楽会
■市美術展幼少年部　市民文化祭音楽会
■小学校陸上記録会
■中体連競技大会
■スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業　→浅野教室を拠点として
■生徒指導トライアングル活動推進事業　全中学校区

教育表彰

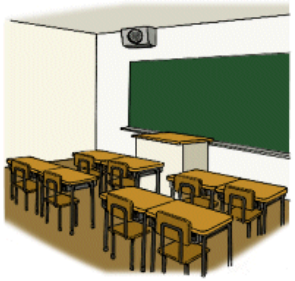
■教育文化賞
■教育実践論文

訪問・研修事業等

学校訪問

■教育長訪問　各幼・小・中　年１回　→教育事務所の学校管理指導訪問と兼ねる。
■研修訪問　各小・中　　年１回　→校内主題研に研究所が訪問
■管理訪問　随時　→庶務課が訪問

研修会



■校長研修会　月２回程度
■教頭研修会　月１回程度
■教務主任研修会　月１回程度
■生徒指導主事研修会　月１回程度
■情報教育主任研修会　月別行事予定に記載
■保健主事研修会　月別行事予定に記載
■人権同和教育主任研修会　月別行事予定に記載
■給食主任研修会　月別行事予定に記載　→給食センターが中心となり実施
■養護教諭研修会　月１回程度
■事務職員研修会　月１回程度
■教育相談研修（講演）会　年２回　→各校相談員、教職員対象
■園長研修会　月１回程度
■副園長研修会　月１回程度
■幼稚園教務主任研修会　月１回程度
■その他必要に応じた研修会

研修事業

■マイプラン研修　幼３名、小・中６名　→研究発表会への参加等に係る費用の補助
■初任研　→県及び市教育委員会、各学校の計画に従って実施
■2 年目研修　→2 年目教員が授業実践を通して研修
■専任講師派遣　小・中　3 校程度　→大学教授等専門的な知見を有する指導者の招聘に係る費用の補助
■サマーセミナー　→本年度は７／２４，２７，３１　８／１，３日を予定
■教職員特別研修　小 2 名・中 2 名　教育委員会より先進校視察に派遣

研究委員会

■嘱託研修員会　月 3 回程度　→4 名の研修員による市の教育課題解決のための研究・研修の実施
■学校所員会　年 8 回　→各校の校内研究推進に資する研究・研修
■学力対策委員会　年４回　→学力調査等の分析、改善点等の提案

「心にひびく言葉」

「あなたはわたしの宝物だよ」

鶴里小学校　中山　雄二

「あなたはわたしの宝物だよ」
「みなさんは、この言葉をお子さんにどれくらい言ってあげていますか？」
これは、私がある研究会に参加したとき、講演してくださった講師の方が私たち教員に投げかけた質問です。また、こんなこともおっしゃっていました。「会話が成り立つのは『あなた』がいるから成り立つのです。『わたし』一人では決して成り立ちません。そして、あなたのことを思う心から発せられた言葉は『心にひびく言葉』となるのです。とかく私たちは『わたし』が先に来がちです。自分本位の考えで話しても、相手の欲する言葉とはなりません。『あなたがいて、わたしがいる』という思いで話してくださいね」とおっしゃる講師のお言葉です。

つまり、「あなたはわたしの宝物だよ」といくら言っても、子どもが今、その言葉を欲していなかったらなんの意味もありません。本当に必要なときに言ってこそ、初めて『心にひびく言葉』になると思います。

子どもたちの置かれた環境はますます悪くなりつつあります。私たち教師も一人一人の子どもに寄り添った、時と場に応じた言葉かけができること。このことが児童、生徒理解につながり、ひいては信頼される学校となることにつながるのかなと考えています。

「先生は、自分のことを分かってくださる」こんな先生が、たくさんいることが子どもを幸せにする大きな力だといつも思っています。

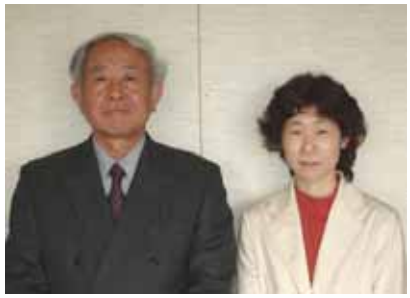
掲　示　板

本年度もよろしくおねがいします

【教育研究所】
（前列左より）
主　　任　　橋本　勇治
所　　長　　加藤　紀久朗
（金山小学校より）
指導主事　　小栗　祥吾
（泉中学校より）
（後列左より）
研 修 員　　熊崎　克朗
ＡＬＴ　　コーリー・カネダ・マサキ
事　　務　　酒井　美智子
ＡＬＴ　　ジョウゼン・タモリ・ギブソン

◇お世話になりました
指導主事　　三宅　裕一
（下石小学校へ）

【浅野教室】
（左より）
室　長
尾石　忠正
相談員
加藤　弘子



土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４２０
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発　行　日　平成１９年　５月３１日
題　字　白　石　聡　教育長

朝の活動より
じゃんけん列車　楽しいよ！

撮影…泉小学校　仙石　悟　先生

まずは,「わかりやすい・かんたん・シンプル」でどうでしょうか？

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

各学校ではＰＴＡ総会，学年・学級懇談会，家庭訪問も終わり，学校・学級・担任の先生と保護者との新しい出会いがありました。学校が地域・保護者・児童生徒の存在の上に成り立っている限り，この出会いは大変重要なことです。

私たちの仕事は，児童生徒に対しても当然ですが，保護者にもわかっていただくこと，理解していただくことが大切です。しかし，お互いがわかりあうことは難しいことです。自分の思いが相手に伝わる確率は決して高くありませんし，自分が相手を理解することも同じです。

先生という職業は,「簡単」より「難しい」ことに価値を置きがちです。私も授業の中で子どもたちに対して「そんな簡単なことができないのか」逆に「こんな難しいことがよくできたね」ということばを何回も使ってきたことを覚えています。簡単なことがわかることは価値が無いのでしょうか。どんなことでも最初から難しいことが理解できたりやれたりするわけではありません。例えば,総会や懇談会の資料に保護者からみて理解できない言葉はありませんでしたか。私たちが学校現場で使っていることばには専門性があり，保護者には理解できなかったり，余りにも多くの内容で読む意欲を無くしてしまったりすることがあるのも事実です。わかりやすいことは理解を深めます。

年度当初はこれだけのことはわかって欲しい，わからせたいと思いがちですが，最初から大きな期待をするとすれ違いが生じます。まずは，先生・子ども・保護者が同じ土俵に立つことから始めたいものです。少しぐらい授業がうまくなくても，明るい笑顔で元気に子どもの前に立つというシンプルな発想が土俵つくりになるのではないでしょうか。

自分の子どもへの思いが強い保護者が増えていることも確かですが，間違っているわけではありません。その出し方に個人差があるだけです。その思いを生かす対応が学校・先生に求められています。同じ土俵にのる支援・対応を個人としてだけでなく，学校全体でつくりあげていくことは，明るく元気な先生つくりの大きな力にもなると考えます。

自然とのふれあい

土岐市幼稚園長会長　　田中　和正

よく見ればなずな花咲く垣根かな　　芭蕉

春になれば，桜に目が行くのが世の常ですが，垣根の下で一生懸命，春をうたっている小さくて，可憐ななずなの花を心より応援している芭蕉の思いやりに思わず脱帽です。

私は，この句がとても好きです。そして，時々，何かにつけて引用をすることがあります。退職をして，少しは余裕ができたのか，土手の草花に目をやる余裕が出てきました。

自然は本当に素晴らしく，どの草花も精一杯，生命力を発揮しています。

１　草花の楽器

私の園では，毎週，月曜日に全園集会があります。この時期の子どもたちを集中させるには具体的な話でないとだめです。図や絵に描くとか，具体物を持ち込むとか，小道具を使うとかしないとなかなか集中しません。

冒頭にある芭蕉の句にヒントを得て，ある集会でチューリップの花となずなの花を見せて，「皆さん，どちらの花が好きですか？」と，聞いてみました。予想通り大部分の子どもたちがチューリップに手を挙げました。「そうね！園長先生もチューリップが好きだけど，運動場の隅のほうに咲いているこのなずなにも，とってもいいところがあるんだよ」「ほら！こうして種を少しずつ，ずらしていって，耳元で回すととてもいい音がするんだよ」と音の出る楽器を作って見せてやりました。子どもたちは，私の作る様子を興味深かそうに見入っていました。どんな音がするの？私もやってみたい，という子が出てきました。

私の園は，町中に位置していて，自然と触れる機会が少ないので，できるだけ自然に興味を持たせる工夫をしています。

２　帰化植物

次の週は，どんな話をしようかと田んぼの土手を見てみますと，私たちが子どもの頃には見なかった草花が目に付きます。今，どこへ行っても目に付く植物に“オオイヌノフグリ”，“マツバウンラン”，“ヒメオドリコソウ”，“ニワゼキショウ”，“ナガミヒナゲシ”“シロツメクサ”，“アカツメクサ”等。

連休に遠出してみましたが，やはり，どこへ行っても勢力を伸ばすかのごとく咲き誇っていました。

子どもたちに帰化植物を紹介しながら，人間もいろいろな国の人とくらしているように草花もいろいろな国から来て一緒に生活しているんだよ，と話してやりました。

３　色水遊び

今，園庭では，色水遊びが盛んに行われています。春先から咲き続けてきたパンジーやチューリップもそろそろ枯れかかったので，その花をすり鉢ですって色素を搾り出し，美しい色水を作ったり，花のエキスで絵を描いたりして遊んでいます。

新しい草花を持ち込むと，子どもたちは，飛びつくようにして遊びを工夫･発展していきます。

自然とのふれあいの中で知的な刺激を与えることがとても大事だと思います。

わが国の幼児教育の基礎理論を集大成された倉橋惣三先生は，幼児教育は**「生活の中へ教育を」**と言われていますが，今一度，かみしめてみたいと思います。

『学ぶ楽しさのある授業』の具現をめざして

学校所員会・学力対策委員会・嘱託研修員会

土岐市教育研究所では，学校所員会・学力対策委員会・嘱託研修員会を独自の研究組織として位置付け，土岐市の教育課題「学ぶ楽しさのある授業」の具現を目指して研究を進めています。

この３つの委員会は長い伝統があり，本市の教育推進に大きく寄与しています。教育改革が進められ，教育のしくみや内容が変わる中で，これらの委員会には大きな期待がかけられています。児童生徒に「生きる力」を育むためには，具体的にどんな手立てがあるのか，日々の授業実践を大切にしながら，市内へその成果を広めていきます。

委員会での内容を校内でも話題にし，委員会と校内での研究の深まりが，市の教育課題の追究や研究推進につながることを強く願っています。

嘱託研修員会

土岐市学校教育課題の具体的追究とその具現を図り，その結果を市内の学校及び教育関係諸機関に問います。また同時に，研修員自身の指導力や論理力を高めていきます。H19 年度も、真の「学ぶ楽しさ」について追究したいと考えています。

4名　(小学校2名・中学校2名)

教育課題

学ぶ楽しさのある授業

学校所員会

教育課題「学ぶ楽しさのある授業」を踏まえ，学校における効果的な研究推進の在り方を探る中で，各校の研究の充実を図るとともに，所員個々の力量を高めることを目指して活動します。

15名　(各学校　1名)

学力対策委員会

本年度は平成18年度の県の学力状況調査及び市の学力調査の結果を分析・考察し、児童生徒の基礎学力に関わる提言を行っていきます。

15名　(各学校　1名)

嘱託研修員会

『学ぶ楽しさのある授業』の具現をめざして

嘱託研修員会では，土岐市教育課題『学ぶ楽しさのある授業』について，具体的な授業の姿，そのための授業づくりの在り方を研修しています。今年度も，『真の「学ぶ楽しさ」とは』を合い言葉に，日々実践していきたいと考えています。

今年度の嘱託研修員です

泉小学校
清本　直子　教諭
（体育）

子どもが運動に夢中になることができる授業

そのために，運動の特性にふれる・仲間と一緒に運動する「楽しさ」や，できる・上達する「喜び」を味わうことができるよう学習展開を工夫する。

運動好きな児童に

肥田中学校
小久保拓哉　教諭
（数学）

仲間との練り合いの中で『より簡単にできる』・『いつでも言える』ことに気づき，数学的な見方や考え方のよさを味わうことができる授業

そのために,「これまで学んだことのどんな考え方を使えばいいのか」に立ち戻ることを心がける。

数学的な見方や考え方を用いることができる生徒に

泉西小学校
土本　晴美　教諭
（体育）

自分の目指す姿が分かり，そうなるための方法が分かり，実際にやってみて評価ができる授業

そのために,具体的に目指す姿･方法を示し，自己評価・相互評価ができる授業を仕組む。

楽しんで運動する児童に

泉中学校
西尾　　新　教諭
（国語）

言葉への感性が磨かれ，豊かに表現できる自分を実感できる授業

そのために，必然性があり生徒の意識が連続する単元を構想したり，個で学習の見直しや振り返りができる場を設定したりすることを大切にする。

言葉への感性が育ち，豊かに表現できる生徒に

『一年間，よろしくお願いします』

学校所員会，今年度の活動

各校の研究実践の充実

校内研究の充実を通して，学校全体の実践力を高め，
学ぶ楽しさのある授業をつくり出す

＜こんな活動をします＞

①具体的な授業実践を通して校内研究を推進する

・研究内容や方法を交流し，願う子どもの姿の具体化を図ります。授業実践（１人１回の授業公開）を通して，自校の研究の充実を図ります。

②各校の研究の成果を共有する

・研究の状況や成果をまとめ，「教育とき」を通して市内の先生方に紹介し，研究の成果を子どもの姿で積極的に広めます。

③実践力向上のための研修をする

・先進的実践校の視察，市指定中間報告の授業参観や教育の今日的課題について研修し，自己の実践力を高めます。

子どもの姿で成果を示します

◇授業改善の視点

【成果と課題の明確化】
・何を　どのように
　　評価するのか？
・生まれた姿は？

【取り組みの具体化】
・何を　どんな方法で？
・手立ては？

【願う姿の共有】
・具体的にどんな姿を
　　目指すのか？

◇各学校の研究主題

土岐津小	「求め合い，鍛え合う子」の育成 ～言葉や文にこだわり，仲間との交流を通して言語能力を高める国語科の授業～
下石小	「仲間と共に高め合える子」の育成　～国語科における「読むこと」を通して～
妻木小	学び方を身に付け，主体的に学び合う子の育成
鶴里小	たくましく学ぶ子どもの姿を求めて
曽木小	「生き生きと」伝え合う子の育成 ～少人数学級の特色を生かし，一人一人の伝え合う力を伸ばす国語科の指導法の工夫～
駄知小	「書く能力」を高める指導の工夫
肥田小	仲間とかかわり合って学ぶ子の育成 ～「生き生きとした話し合い活動」を求めて～（国語科の指導を核として）
泉　小	学年経営を基盤としてよりよい仲間関係を育む学級づくり
泉西小	命を大切にする心をはぐくむ道徳教育～自他を見つめ，よりよく生きようとする子の育成～
土岐津中	学び合いの中で基礎・基本を身につける生徒の育成～「協同学習」を取り入れた授業を通して～
西陵中	学ぶ力を育てる　～学び方を身につけた生徒を育てるための工夫～
濃南中	生徒が生き生きと取り組み，確かな学力を身につける授業づくり
駄知中	仲間と学びを深める授業　～ねがい・とらえ・ふかまり～
肥田中	確かな学力を育てる教科指導のあり方　～小集団を活用した指導・援助の工夫～
泉　中	仲間と共に高め合う生徒の育成

平成１９年度　土岐市小中学校教育研究会の活動

第１回の活動において，各部会のテーマ及び役員が決定されました。授業研究を中心として活動計画が立案されています。役員さんを中心に，主体的・創造的な部会運営を通して，教科の仲間としての連携を深め，研究の歩みや成果を財産として残していきましょう。

【研究の視点】

学ぶ楽しさのある授業

＜自ら学び自ら考える力の育成するための授業の工夫＞
＜基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のための指導目標と評価規準の明確化＞
＜学習集団の質を高めるための，各教科の学び方を身に付けさせる指導の充実＞

平成１９年度　各部会研究テーマ

部会		研究テーマ
教科別研究会	小国語	一人一人の言語能力を育てる国語科指導の在り方
	小社会	調べ，考え，練り合い，社会的事象の意味をとらえる社会科学習
	小算数	学ぶ楽しさと，充実感を味わう算数教育の創造
	小理科	科学的に追究し，自然に感動する子を育てる理科学習の創造
	小生活	対象や自分自身とのかかわりを強め，自立への基礎を培う生活科学習 ～知的な気付きの質を高める指導の在り方～
	小音楽	確かな音楽的能力を身に付け，表現できる子の育成
	小図工	つくり出す喜びを味わい，確かな力を培う造形活動をめざして
	小家庭	家族とのかかわりの中で，自らの生活を創り出していく力が育つ家庭科学習
	小体育	運動の楽しさや喜びを味わう授業の創造
	中国語	明日に生きる言語能力の育成　～言葉の感性が育ち，学びがいのある国語教育の創造～
	中社会	自主性を育て，思考と認識を深める社会科指導
	中数学	自ら学び考える力を育てる数学教育の創造～数学的な見方や考え方を育てる授業づくり～
	中理科	『自然を探究する能力や態度』を育む理科指導の在り方
	中音楽	一人一人の心に豊かな感動を生み出す指導の在り方
	中美術	みたもの感じたものを色や形にできる生徒の育成 ～一人一人の発想・構想の能力を高める授業の在り方～
	中保体	運動習熟及び社会的発達の効果的な指導の在り方を求めて
	中技家	新たな生活をきりひらく力が育つ学習活動
	中英語	実践的コミュニケーション能力の基礎を養うための指導の在り方 ～スキルと『心』を育てる英語教育の実践～
各種研究会	道　徳	自らよりよい生き方を求め，実践する児童生徒を育てる道徳教育はどうあるべきか ～一人一人のよさを生かすことを通して～
	特　活	個と集団の結びつきを深め，実践力を育てる特別活動の在り方
	図書館	読書の楽しさを広げ，調べる場を目指した図書館運営の在り方
	特　支	豊かな心をもち，たくましく生きる子を育てる教育
	養　教	児童生徒が自主的に健康管理できる健康教育の在り方　～性教育を通して～
	事　務	学校事務職員の資質の向上と事務の合理化　～より正確・迅速な事務処理をめざして～

平成１９年度　各部会 部会長・役員一覧

部 会		部会長	学校名	主務者	学校名	世話役	学校名	県代議員	学校名
小学校教科研	国語	楓　正敏	土岐津小	宮本　雅江	妻木小	小木曽寛美	泉　小	宮本　雅江	妻木小
	社会	中山　雄二	鶴里小	保母　征之	妻木小	青木　典子 西尾　浩	曽木小 泉　小	小林　昭	泉西小
	算数	佐々木　博	泉西小	小嶋　啓子	鶴里小	棚橋　直仁	駄知小	小嶋　啓子	鶴里小
	理科	菅原　由直	下石小	田中　直樹	下石小	水野　和正	鶴里小	田中　直樹	下石小
	生活	伊藤　敏明	肥田小	水野　秀信	肥田小	河本　恵子	泉　小	河本　恵子	泉　小
	音楽	澤田　修一	妻木小	安藤　律子	泉　小	小栗　志乃	鶴里小	安藤　律子	泉　小
	図工	下総　平五	曽木小	鈴木　好巳	泉　小	伊東ひとみ	泉　小	鈴木　好巳	泉　小
	家庭	厚見　正紀	泉　小	若林　道代	泉　小	寺町　友利	泉　小	後藤　秀明	下石小
	体育	有賀　秀雄	駄知小	揖斐　賀浩	土岐津小	伊藤　策雄	土岐津小	清本　直子	泉　小
中学校教科研	国語	山田　利彦	泉　中	杵渕　容子	肥田中	西尾　新	泉　中	伊藤　瞳	泉　中
	社会	木島　孝夫	濃南中	仙石　守一	泉　中	青木　隆司	駄知中	大島　亘	西陵中
	数学	加藤　辰亥	土岐津中	小久保拓哉	肥田中	藤井　博士	泉　中	岩田　健志	西陵中
	理科	舩戸　智寛	駄知中	塚本　修	土岐津中	中島　宝生	西陵中	塚本　修	土岐津中
	音楽	伊藤　慶和	泉　中	近藤　雅也	泉　中	近藤　雅也	泉　中	加藤　祥子	濃南中
	美術	中野　克義	西陵中	小栗　洋之	泉　中	藤本　紀和	西陵中	大橋　高明	土岐津中
	保体	安田　卓美	肥田中	田口　浩久	土岐津中	西尾　実	泉　中	田口　浩久	土岐津中
	技家	本多　直也	土岐津中	加藤　明覚	泉　中	田島みどり	西陵中	有賀　良子	駄知中
	英語	保母　直彦	駄知中	加藤　隆将	泉　中	長瀬久美子	土岐津中	加藤　隆将	泉　中
各種研	道徳	佐々木　博	泉西小	山下　未央	土岐津中	杉浦　英美	泉西小		
	特活	厚見　正紀	泉　小	田宮かおり	泉西小	中島　宝生	西陵中		
	図書	伊藤　敏明	肥田小	小木曽欣巳	曽木小	木屋　美里	泉　中		
	特支	木島　孝夫	濃南中	加藤　菊美	肥田小	水野　道子	肥田小		
	養教	有賀　秀雄	駄知小	渡邉　正子	駄知小	渡邉　正子	駄知小	土屋　京子	妻木小
	事務	菅原　由直	下石小	西尾　治久	下石小	後小路公人	西陵中	内山　満彦	泉　小

１年間，よろしくお願いいたします。

「心にひびく言葉」

志をもって困難に立ち向かえ

妻木小学校　鈴木　清人

この言葉は，私が尊敬する先輩が中学校の校長であった時に，その中学校の『学校の教育目標』としていたものです。教育目標としてはどうかということで，『校訓』といっていたようです。そして，『校風』を「仲間を大切にする心」「本物を求める心」「美しさを心地よく感じる心」とし，あわせて教育目標としていました。

何とも大胆な教育目標ですが，これが実に生徒にも浸透していて，私がその学校を訪問した時には，生徒自身が学校に誇りを持っていると感じられる姿がいくつも見られました。中でも，いくつかの部活動用Ｔシャツに校訓「志をもって困難に立ち向かえ」がバックプリントされているのには正直驚きました。生徒たちが教育目標を目指すものへ向かうための合言葉のようにとらえているんだなあと感じました。

もちろん，その学校の教師集団の姿からも，教師としての志を持って，指導の困難な生徒にも，自分の授業力を高めることにも，智恵と力と勇気をふりしぼって立ち向かおうとする姿勢や心意気を感じたものです。

そんな学校の雰囲気ができるなんて，全くうらやましい限りでした。もちろん，教育目標の言葉を意味あるものにできる優れた学校経営に学ぶべきものがあったわけです。

その学校訪問で感動して以来,「志を持って困難に立ち向かえ」という言葉は，ついつい妥協したり諦めたりしそうになる私に，しばしば「がんばれ」「やるといいと思うことを臆せずやれ」「何とかしたいと思うのなら，それだけの気概をもってやれ」というエールを送ってくれています。

掲　示　板

◇第２回　土岐市小中学校教育研究会が行われます

６月　５日（火）　中学校教科研

土岐津中…数学，保健体育　　西陵中…国語　　濃南中…音楽　　泉中…社会
駄知中…理科，英語，技術・家庭　　美術（セラミックパーク MINO）

６月　８日（金）　各種研Ｂ

土岐津中…特別活動　　図書館（笠原小学校）　　養護教諭（文化プラザと土岐津小）

６月２２日（金）　小学校教科研

土岐津小…社会，算数　　妻木小…図画工作　　駄知小…音楽　　泉小…国語，家庭科
肥田小…理科，生活科，体育

７月　４日（水）　各種研Ａ

西陵中…特別支援　　濃南中…道徳　　事務職員（文化プラザ）

※「教育とき」は，単色の印刷物として配布しておりますが，研究所のホームページにカラーで掲載しております。

土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４２１
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発　行　日　平成１９年　６月３０日
題　字　白　石　聡　教育長

撮影：濃南中学校　安田　茂　教頭先生

事故のない自転車通学を願って

（毎年４月，警察の方に来ていただき，新１年生のための交通安全教室を実施しています）

「自分を出せないもどかしさ」

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

少し寒さが残った春から３ヵ月の時間が過ぎました。この時の流れの中で、先生方も新しい子どもたちとの出会いから、確かな新しい関係ができつつあると思います。多くの子どもの中には、最初から自分を表現できる子どもから、少し不器用でうまく自分を出せない子どもまでいるのではないでしょうか。このことは子どもに限らず、先生でも同じではないかと思います。

今、私のことを誰もが決して物静かな人間とは言いません。逆によくしゃべると、面と向かって言われなくても思われていることを確信しています。笑い話になるかもしれませんが、私は小学校時代には、人前で話すことが苦手でどちらかというと無口な方でした。今流に言えば表現力の乏しい子であったような気がします。しかし、何とか人前でも自分の考えを伝えたいという思いを強くもっていた気がします。

先生方は新しい人間関係の中で、自分の思いを語ることができているでしょうか。意外にこんなことを聞いたら、言ったら恥ずかしいと考えられる先生がみえるのも事実だと思います。このことは、若い先生だけでなく経験のある先生でも同じです。しかし、こんなことと思えることでも聞ける、言える職員関係ができていたら安心感をもつことができます。安心感は意欲を生みます。先生の意欲は子どもに明るさと元気を与えます。

子どもたちは正直なもので、安心感があれば自分で語ります。不安な時には無口になるか、攻撃的になります。特に表現が不器用な子ほど、周りの人的関係を気にします。

自分を表現する力は授業や諸活動を通して高まり、いわゆる経験や体験がそうした力を育みます。しかしその習得には時間がかかる子もいます。また、無口な子がいつまでも無口であるとは限りません。時には攻撃的にもなります。自分を出せないもどかしさは、想像もつかない変化を生むこともあります。

まずは３ヵ月が過ぎました。少なくとも、安心までいかなくても、やっていけそうと思える学級、職場であることが確かなステップアップではないでしょうか。

土岐市の教育課題

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会

今年度嘱託研修員会では，研究を進めるにあたり『学ぶ楽しさのある授業』とはどんな授業なのかを共通理解することから始めた。

それぞれが「学ぶ楽しさのある授業」を行っているときの子どもの意識や教師の指導・援助，「学ぶ楽しさのある授業」をつくりだすための条件などについて，これまでの実践をもとに話し合った。専門教科が違うと，「導入」「課題の設定」「展開」「授業の終末」など，授業の各過程で学ぶ楽しさを実感し，子どもが発する言葉や行動に対する考えにも違いがあった。

意見を出し合いながらつくったのが，右ページの図である。国語科，数学科，体育科の教科の中では，何とか納得できるというところまできたが，具体的なところについては教科によって違いがあるため，実践を通して子どもの姿から明らかにしていくことにした。

【「学ぶ楽しさのある授業」（右ページ）のイメージ図について】

＊学ぶ楽しさを感じる子どもの意識について

子どもの「学ぶ楽しさのある授業」に向かう意識と，そのような授業をやりきった時の子どもの意識について，授業の各過程における子どもの意識を，生徒の発する言葉で表し，「学ぶ楽しさのある授業」をしている子どもの姿を具体的にイメージした。

＊「主体的な学習意欲を引き出す単元・題材構成」について

子どもの意欲を引き出すためには，単元構成や題材構成を工夫することが不可欠である。単元構成や題材構成は，授業を行うにあたってベースとなるものであるととらえた。

＊「学び合う学習集団」について

学習集団が育っていないと，よい授業はできない。だから学び合う学習集団はよい授業を行うための基盤であるという意見も出たが，授業の中で仲間のよさを認め合い，互いに鍛え合うことで学び合う学習集団をつくっていく。そこで授業全体を学び合う学習集団をつくる場と考え，授業全体に網掛を行った。

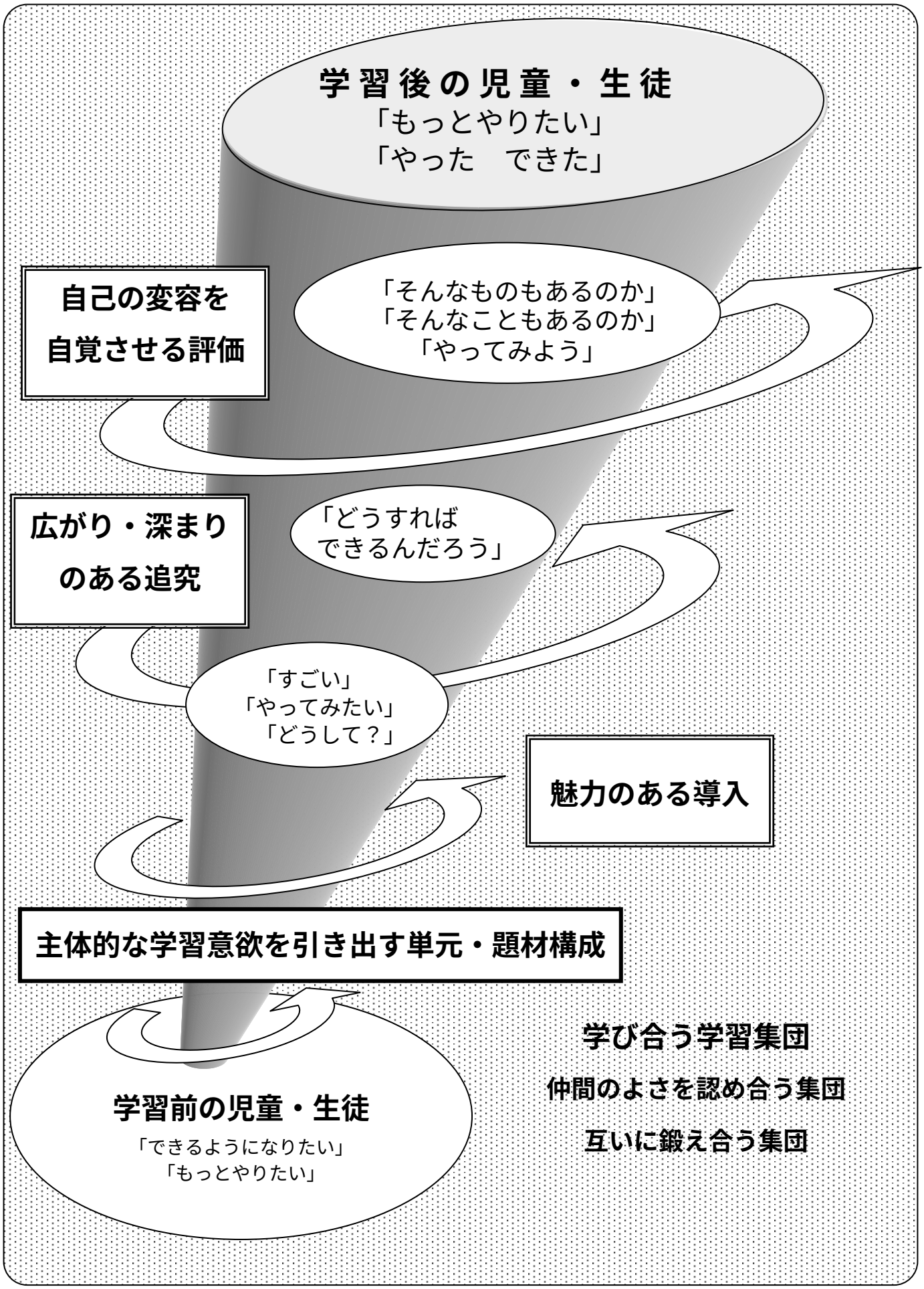
＊教師の指導･援助について

授業（単元・題材）の導入では，子どもたちと教材の出会いを大切にしなければならない。魅力ある導入を行い，自ら解決すべき課題を見つけさせ，課題を解決しようとする意欲をもたせるようにする。課題を追究する過程においては，子どもたちの発言を組織化したり，違う見方や考え方に出会わせたり，一人一人へ問いかけを行い深く考えさせることを行う。授業の終末では，一人一人に自己の変容を自覚させる自己の変容が自覚できるような工夫を行う。

上記のことを大切にして「学ぶ楽しさのある授業」を目指す。

＜今年度の実践計画＞				
	７月	肥田中学校	小久保拓哉教諭	『数学』
	１０月	泉小学校	清本　直子教諭	『体育』
	１１月	泉中学校	西尾　新　教諭	『国語』
	１２月	泉西小学校	土本　晴美教諭	『体育』

次号より，実践を報告します。


学習後の児童・生徒
「もっとやりたい」
「やった　できた」
自己の変容を
自覚させる評価
「そんなものもあるのか」
「そんなこともあるのか」
「やってみよう」
広がり・深まり
のある追究
「どうすれば
できるんだろう」
「すごい」
「やってみたい」
「どうして？」
魅力のある導入
主体的な学習意欲を引き出す単元・題材構成
学習前の児童・生徒
「できるようになりたい」
「もっとやりたい」
学び合う学習集団
仲間のよさを認め合う集団
互いに鍛え合う集団

市教育課題研究推進校
（今年度発表）

我が校（濃南中学校）の研究

＜学校の教育目標＞

仁 あたたかい心

智 たしかな学力

勇 たくましい身体

・互いに尊重し合い，認め励まし合う中で，共に高め合う生徒
・目標を持ち，自ら意欲的に学ぶ生徒
・目標に向かって，ねばり強くやり抜く生徒

〈 生徒の実態 〉

・興味のある事や自信のある事に対して深く追求することができる。
・課題解決の見通しや方法を理解すれば，意欲的に取り組むことができる。
・基本的な学習内容が身についている生徒とそうでない生徒との差が大きい。
・仲間の中で，自分の考えを積極的に発言していく力が弱い。

〈 土岐市の教育課題 〉

学ぶ楽しさのある授業

・自ら学び自ら考える力の育成
・基礎的・基本的な内容の確実な定着のためのきめ細かな指導の充実
・聞く，話すなどの学習姿勢や学習の充実に必要な規律の指導

〈願う生徒の姿〉

・学習の仕方を身につけ，課題解決に向けて積極的に活動できる。
・意欲をもって，より価値のあるものを目指してはたらきかけていくことができる。
・お互いが相手の良さを認め，高め合って学習することができる。

〈 研究主題 〉

生徒が生き生きと取り組み，確かな学力を身につける授業づくり

〈 研究の仮説 〉

ねらいを達成するために，生徒の具体的な活動（生き生きとした取り組み）を仕組み，それを評価し改善していくことにより，生徒一人一人に確かな学力を身につけることができる。

〈 研究の内容 〉

（1）「本時のねらい」「生き生きと取り組む場面」「評価」を位置づけた指導計画の作成

（2）「生き生きと取り組む」学習の明確化
・学習のねらい（つけたい力）
・本時の「生き生きとした取り組み」
・本時の「生き生きとした取り組み」を通して身についた学力の評価

（3）「生き生きと取り組む」ための授業づくり
・ねらいにせまる授業の導入の工夫
・課題解決の見通しを持たせる工夫
・生き生きと取り組むための学習展開や学習形態の工夫

「生き生きと取り組む」学習を明確にする　（研究内容２）

○本時の学習のねらい（つけたい力）は何か。
○そのための本時の「生き生きとした取り組み」はどんな取り組みか。
○「確かな学力が身についたか」どう評価するか。

濃南中学校では、
１０月３０日（火）に
土岐市教育課題研究
推進指定校としての
発表会が行われます。

生徒が「生き生きと取り組む」授業づくり　（研究内容３）

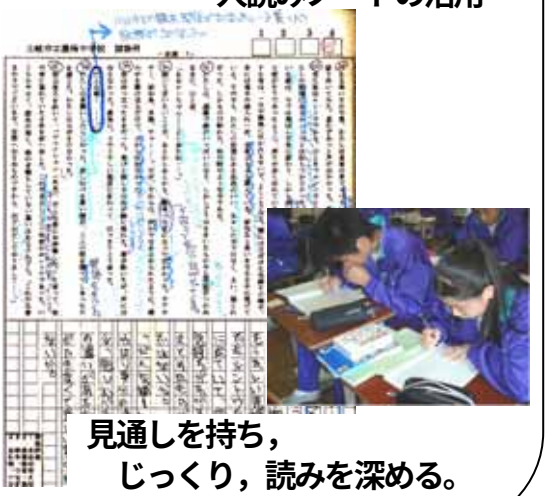
生徒が意欲的に取り組む学習形態

誰とでも会話できる
スクランブル活動

相手を意識して，積極的に
コミュニケーションをする。

課題解決の見通しを持たせる

読みとりの足場をつくる
一人読みノートの活用



見通しを持ち，
じっくり，読みを深める。

個に応じた指導・援助

アンケート，ノート
行動観察による生徒づかみ

3年A組

	実験の様子			前時の学習より			事前調査より	
	意欲的に実験ができる	正確な実験，処理ができる。	自分の考えをもち，発表できる	テープ処理がていねいにできる	速さの変化が描画できる	力と関連させて考える	①斜面を転がす高さによる速さ	②斜面の傾きによる速さ
G-FU	○	○	○	○	○	○	B	A
G-IH				○	○		D	
B-KR	○	○		○	○		C	C
B-KT	○	○	○	○	○	○	A	C
B-AN	○			○	○		A	B
B-YM	○		○	○	○		E	C
B-FK	○				○	○	A	C
B-KK					○		C	A
G-HM							A	E
G-MA	○	○		○	○		A	D
B-TJ	○			○	○		A	
B-FH	○				○		B	
B-IR	○	○	○		○		A	
G-IM				○	○		B	
G-HM	○	○	○		○		A	
B-IH	○		○	欠席	欠席	欠席	B	
B-UH				○			C	
B-IY					○		E	
G-HM	○				○		A	
G-IA	○			○	○		E	

①の理由
A：距離や時間が長いから
B：だんだん加速するから
C：勢いがつくから

②の理由
A：急な方が速い
B：回転数が増える
C：角度がある方が加速する
D：急なほど大きな力が加わる
E：高いほど速くなる
F：角度が急になるから

効果的な助言により，
意欲的に実験に取り組む。

仲間と関わり合う活動

班・ペアでの活動
話し合い・意見交流

考えを出し合い，深め合う。

情報モラルに関する指導の徹底と教育用コンテンツの活用

土岐市教育研究所　情報教育担当

土岐市では，情報モラルの指導を充実させたり情報機器や教育用コンテンツを授業に積極的に活用したりする研修を充実させることを重視しています。いざ授業を行おうとすると，何をどのように指導すればよいのか，どのような情報を探したらよいのか迷います。

ここでは，授業づくりに使えそうな Web ページを紹介します。

全ての先生に「情報モラル」のパンフレットが配付されました。以下の Web ページは特に授業で使えそうです。

情報モラル（文部科学省）

○インターネット活用のための情報モラル指導事例集
http://www.cec.or.jp/books/H12/pdf/b01.pdf

情報モラルに関することや授業の指導案，授業で使った URL などが掲載されており，先生方が情報モラルの指導に使いやすくつくってあります。

○“情報モラル”授業サポートセンター　http://sweb.nctd.go.jp/support/index.html

小・中・高の実践事例から授業内容を探すことができます。どれも動画が入っているので授業がイメージしやすくなっています。

○平成 17 年度「情報モラル等指導サポート事業」　http://sweb.nctd.go.jp/g_support/index.html

小学校８校，中学校３校，高校３校の実践協力校の指導案，ワークシート，授業の動画がそろい，授業の様子が大変分かりやすくなっています。

情報モラル（警察庁）

○サイバー犯罪対策－情報セキュリティ対策ビデオ　http://www.npa.go.jp/cyber/video/index.html

Windows Media 形式で，犯罪対策映像を見ることができます。

５分くらいのものから３０分をこえるものまであります。よくできた作品が多く，子どもたちでも最後まで，集中してビデオを見ることができます。

○キッズ･パトロール　http://www.cyberpolice.go.jp/index.html

情報モラルやセキュリティについて，ゲーム感覚でＰＣを操作しながら学べます。小学生には効果的です。

e-ライブラリの学校での有効活用と，**家庭学習サービスの活用**のよびかけをお願いします。

- **岐阜県まるごと学園**
- **岐阜県 e-チャンネル**
- **岐阜県総合教育センターの情報教育関連の資料**

＊使える情報がたくさんあります。

アクセスしてみよう。

特に理科や社会科の先生へ

昨年より授業での ICT 利用を促す「オアシスプロジェクト」が進められ，ＮＨＫの教育用映像が３年間無料で配信されています。

理科や社会科の授業に使えるすばらしい映像がたくさんあります。

ＩＤ，パスワードについては，昨年度の情報教育主任研修会にて，各学校へ知らせてあります。利用マニュアルと番組表は，研究所の e-ファクトリの掲示板にあります。活用してください。

平成19年度 「サマーセミナー」講座一覧です。

	№	講座名・時間	主 な 内 容	会場
7月24日 火曜日	1	**パソコン講座１** 9:00～11:30	エクセル入門編（表の作成，入力，編集，印刷までの基礎的なことが習得できます）エクセル初心者でも大丈夫です。 講師：外部ＳＥ	泉西小 ＰＣ室
	2	**パソコン講座２** 13:30～16:00	エクセル活用編（成績処理にエクセルを活用してみましょう） IF 関数，COUNTIF 関数，VLOOKUP 関数，SUBSTITUTE 関数などを使います。 （パソコン講座７と同じ内容） 講師：外部ＳＥ	泉西小 ＰＣ室
	8	**土岐市の歴史体験講座** 13:00～16:00	・土岐市の歴史に触れる遺跡巡検 ・遺物修復，拓本実習 講師：埋蔵文化センター 中嶋 学芸員	織部の里 公園
7月27日 金曜日	3	**パソコン講座３** 9:00～11:30	初歩のワードとエクセルです。基本的な使い方，便利な使い方が学べます。 幼稚園・保育園の先生向けですが，誰でも参加できます。 講師：外部ＳＥ	下石小 ＰＣ室
	9	**各界から学ぶ** 9:30～12:00	市内会社経営者等から経営哲学，人材育成，土岐市の教育に期待すること等講話を聞きます。 講師：（有）マルホン製陶所 代表取締役 加藤明子 様 ＜すりばち館 館長＞	プラザ ５研
	4	**パソコン講座４** 13:30～16:00	暑中お見舞いの宛名印刷が簡単にできます。Excel の名簿を活用して，宛名印刷ができます。挨拶状，案内状など宛名や内容を差し替えて印刷ができます。 教頭先生にはピッタリです。(パソコン講座６と同じ内容） 講師：外部ＳＥ	下石小 ＰＣ室
	10	**体を動かしてストレス解消！ ＜エアロビクス＞** 13: 00～16:00	初歩のエアロビクスで体を動かすことをとおして，自身の心や体の健康を保つ方法を学びます。 持ち物：運動のできる靴・服装・タオル等 講師：AFAA 認定インストラクター 加藤恵美 様	妻木公民 館ホール
7月31日 火曜日	5	**パソコン講座５** 9:00～11:30	パワーポイントを使ってみましょう。初めての方でも，使えるようになります。 授業や研究発表などに使えます。 講師：外部ＳＥ	妻木小 ＰＣ室
	11	**あなたにもできる料理教室** 9:30～12:00	家庭科の授業や自らの生活に役立つ調理について学びます。 材料費負担あり（５００円程） 講師：栄養士 三輪やよい 様	泉小 家庭科室
	12	**実践論文講座** 9:30～12:00	平成１８年度の優秀実践論文の発表と，論文の書き方のポイントについて学びます。 講師：高島 亜緒生 先生（下石小学校） 市川 実 先生（肥田中学校）	プラザ ５研
	13	**陶芸教室Ⅰ** 13:00～16:00	体験を通して，土岐市の伝統文化を学びます 材料費負担あり（５００円）２作品目からは実費負担（作品による） 講師：創陶園の指導者	創陶園
	14	**心と身体のリフレッシュ教室 ＜ヨーガ＞** 13:30～16:00	初歩のヨーガを通して，心や身体を自分でリフレッシュする方法を学びます。 持ち物：敷物（必要な方）・タオル１本 講師：ヨーガ指導者 若杉典子 様	土岐津 公民館 ホール
8月1日 水曜日	6	**パソコン講座６** 9:00～11:30	暑中お見舞いの宛名印刷が簡単にできます。Excel の名簿を活用して，宛名印刷ができます。挨拶状，案内状など宛名や内容を差し替えて印刷ができます。 教頭先生にはピッタリです。(パソコン講座４と同じ内容） 講師：外部ＳＥ	妻木小 ＰＣ室
	15	**人権同和教育講座** 9:30～12:00	人権同和教育に関する講話を聞きます。 講師：岐阜市人権啓発センター職員	プラザ ５研
	16	**陶芸教室Ⅱ** 13:00～16:00	体験を通して，土岐市の伝統文化を学びます 材料費負担あり（５００円）２作品目からは実費負担（作品による） 講師：創陶園の指導者	創陶園
8月3日 金曜日	7	**パソコン講座７** 9:00～11:30	エクセル活用編（成績処理にエクセルを活用してみましょう） IF 関数，COUNTIF 関数，VLOOKUP 関数，SUBSTITUTE 関数などを使います。 （パソコン講座２と同じ内容） 講師：外部ＳＥ	土岐津中 ＰＣ室
	17	**楽しく歌おう** 9:30～12:00	歌唱指導について，講話や実技をとおして学びます。 講師：元泉小学校附属幼稚園長 三宅敏弘 様	泉小 風のホール

「心にひびく言葉」

「頼りりがいのある人間」を育てたい

泉中学校　伊藤　慶和

何年か前から，キレる子どもが問題になっていますが，ストレスに弱く，気に入らないことがあると我慢ができない体質の子どもが多くなってきているとも考えられます。人生はいろいろな困難にぶつかり，それに耐えながら解決したり乗り越えたりしていかねばなりません。そのためには，子どもも子どもなりに適度なストレスに耐えながら成長しなければ，ストレスに強くて，物事に耐え，我慢していける体質は育たないと思います。

一般社会の中には嫌でもやらせなければならないことや，おもしろそうだけどやってはいけないことがあります。教育の中で好きなことや興味・関心のあることをやらせることが大切だということを，拡大解釈していくと，面白いことしかやらないし，面白ければ悪いと知りつつ我慢のできない人間になる可能性も考えられます。

また，「叱らないで褒めて育てる」という主張もあります。大人の都合や気分で愚痴を言ったり，気に入らないことを取り上げては叱ったりすることが多いので，よいところを見つけては自信をもたせて育てるという心がけは大切です。しかし「度を過ぎると褒めねば動かぬ軽薄な人間ができます。叱られて考えて立ち上がるという，したたかで頼りがいのある人間は育たない」という人もいます。

最近は本当に子どもを叱ることが難しくなっていると思います。本気になって子どもの心に届く叱り方をするにはどうしたらよいか考えてみることも大切だと思います。

掲　示　板

中体連土岐市大会が７月７日（土）～８日(日)を中心に開催されます。

種　目	日にち	時間	会　　場
軟式野球	７月７日（土）～８日（日）	開会式 ８：３０ 試合開始 ９：００ セラトピア （卓球） 開会式 ９：００	土岐市総合公園球場
ソフトボール	７月　７日（土）		土岐津中グランド
サッカー	７月　８日（日）		土岐市総合公園多目的広場
バスケットボール	７月　８日（日）		泉中学校体育館
バレーボール	男：７日（土）　女：８日（日）		男子：駄知中　女子：肥田中
ソフトテニス	７月　７日（土）		土岐市総合公園テニスコート
卓　　球	７月　７日（土）		セラトピア土岐
剣　　道	７月　８日（日）		西陵中学校体育館
柔　　道	７月１４日（土）午後		泉中学校格技場
水　　泳	７月１４日（日）午前		泉中学校プール
陸　　上	７月　７日（土）		土岐市陸上競技場
体　　操	７月２３日（月）午前		アイリスクラブ

中学生が頑張ります。応援お願いします。（雨天で予定が変更になる場合があります）

土岐市教育研究所
ＴＥＬ　0572-54-1111（内281）
ＦＡＸ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所報　Ｎｏ.４２２
発行責任者　所長　加藤　紀久朗
発行日　平成１９年　７月３１日
題字　白石　聡　教育長

撮影…泉小附属幼稚園　後藤　眞由巳　先生

（水あそびより）
初めて
美しいプールに入ったよ。
気持ちよかったよ！
もぐれたよ！

「足し算ですか・引き算ですか」

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

新しい出会いは多くの摩擦や行き違いを生むことも確かです。そんな４月・５月が過ぎ、梅雨の季節とともに「雨降って地固まる」のことば通り、新しい関係が、子ども同士・先生と子ども・保護者と学校の間にでき始めました。子どもも大人も同じで、自分の殻を大切にするあまり、他人については固定的・断片的な見方をしまいがちです。そんな見方も共に生活をすること通して、少しずつ広がりや深まりができ、「学校」という存在の値打ちが実感できていることを学校訪問等で強く感じました。

私たち教師は、おおきくは子どもをほめて励ますことと叱咤激励するという方法により指導をしています。このことを私は「足し算方式」「引き算方式」としています。自分自身を振り返ったとき、若い頃は「引き算方式」、経験が増すにつれ「足し算方式」での指導が多くなってきた気がします。引き算方式は、めざす姿に対して足らないところを補っていくことを中心とした指導方法で、足し算方式は、実態から一歩でも上をめざすことを中心とした指導方法です。

小学校４年生の時、自転車に乗るための練習を田んぼの道でしました。その頃は子ども用の自転車は少なく、大人用の自転車で行いました。時には田んぼに落ちたこともありました。今日は何回ペダルがこげたとか、ここまで行けるようになったということが自分を励ます材料となっていました。ある程度行けるようになった時に親に見てもらいました。親の承認が道路で乗れる許可書でもあったわけです。行きたい所へ自転車で行きたいという思いと、そのために毎日目標をもって練習をしたことを今でも鮮明に覚えています。

子どもの成長を促す時、その子どもに合った方法をみつけることは大事なことです。また、その先生の経験や指導力を生かすことも重要なことです。

結果を求めるばかりに、ややもすると方法を優先して動いてしまうこともありますが、「何のため」なのかを考えることにより、より確かな方法を見つけていくことができるのではないでしょうか。

市教育課題研究推進校
（今年度発表）

我が校（鶴里小学校）の研究

土岐市の教育課題

＜教育課題＞

子どもと授業を大切にし、「生きる力」をはぐくむ

- 自ら学び、自ら考える力
- 豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

＜教育課題＞

学ぶ楽しさのある授業

＜教科指導＞

- 主体的に学ぶ力の育成
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着
- 学習集団の質を高める

学校の教育目標

よく考え　ねばり強く

やりぬく子

- やる気
- ゆう気
- げん気

児童の実態

- 与えられた課題に対しては、素直に取り組むことができる。
- 各教科の基礎・基本および学び方が身につきつつある。
- 既習事項を応用して粘り強く学習することに弱さが見られる。
- 自分の考えを相手によく伝わるように表現することに弱さが見られる。

願う子どもの姿

学び方を身につけ、自ら学び、自ら考える子

①自分は何を学習するのか、学習の目的や課題、対象を明確に意識している

②問題（課題）解決への見通しをもち、学ぶ方法や能力などを発揮しながら、できるだけ自力で問題解決していく

③仲間との追究を通して、よりよい考えを生み出し活用していく

④学習の過程や成果を評価し、次の目標がもてている

研　究　主　題

たくましく学ぶ子どもの姿を求めて

研　究　仮　説

学び方を鍛え、個のわかり方（個の感じ方）に応じる指導方法を工夫していくことで学習集団を高めていけば、自ら学び自ら考える力が育つ。

自ら学び自ら考える力を育てる学び方の明確化

（１）各段階（導入・展開・終末）における学び方の明確化

（２）学び方の評価の工夫

自ら学び自ら考える力を育てる指導方法のあり方

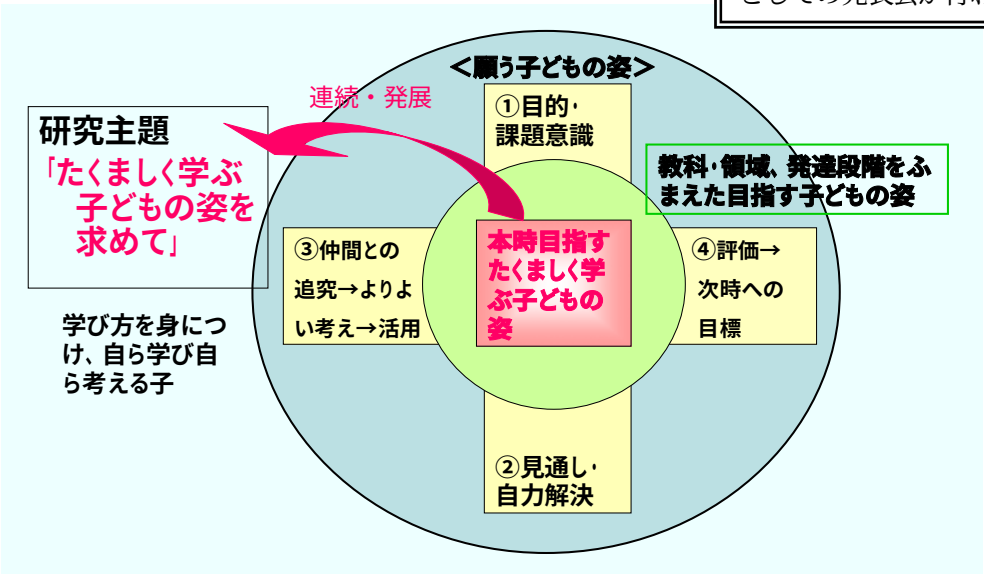
（１）個のわかり方（個の願い）に応じる指導・援助の工夫

基礎・基本の定着を図る継続的な指導

- 学習指導要領や教科の基礎・基本を踏まえ、つけたい力を明確にした単元指導計画の作成
- 仲間と共に高まり合う学習集団づくり（「聞く・話す・書く」力の育成）

鶴里小学校では，１１月２２日(木)に，土岐市教育課題研究推進指定校としての発表会が行われます。

＜具体的な研究構想のとらえ＞



研　究　仮　説

研究内容１－（１）

＜　算数科では…＞

	ねらい	算数の学び方（児童の学習活動）
つかむ（導入）	前時までの学習を生かし，問題場面を把握し，本時のねらいに結びつく課題を解決しようとする意欲をもつ。 課題解決に向けて自分なりのやり方で結果と方法の見通しをもつ。	1.問題の把握 2.課題設定 ～のつくり方・～のし方・～のはかり方・～の求め方を考えよう 見通し
考えをもつ	既習内容を生かし，・絵図・式などで算数的活動をしながら自分なりの考えをもつ。	解決に向けて 3.個人で追究
（展開）ふかめる	仲間との交流の中で多様な考えに触れ，それぞれのよさを認める。 同時に自分の考えと仲間の考えの類似点・相違点は何かをはっきりさせ，よりよい解決方法を練り上げる	4.仲間で追究 特殊から一般化を図る問題 類似点・相違点から練り上げ ↓ 有効性の判断
まとめ（終末）	学習内容の定着を図るための練習問題を行う。 新たに学んだ考え方やきまりなどをまとめ，それらのもつ数学的価値に気づく	5.考え方や決まりなどのまとめ 6.類似問題を解く 7.自己評価

研究内容１－（２）

＊評価規準に照らした評価の場と評価内容の明確化

研究内容２－（２）　（児童理解を基に）

個人追究の場

全体追究の場

＜社会科では…＞

＊資料の読み取り（　比較・関連・総合　）の指導・援助

＜算数科では…＞

＊既習事項を生かし、筋道立てた考えづくりへの指導・援助

＜　理科では…　＞

＊一人一実験の成功への指導・援助

教科の本質に関わる見方・考え方に迫るための指導・援助

＜音楽科では…＞　（グループ練習→交流の場）

＊響き合いを感じるための指導・援助

土岐市の教育課題

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　肥田中学校　小久保　拓哉

１．はじめに

数学科の学習指導要領の目標には次のように示されている。

> 数量，図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め，数学的な表現の処理の仕方を習得し，事象を数理的に考察する能力を高めるとともに，数学的活動の楽しさ，数学的な見方や考え方のよさを知り，それらを進んで活用する態度を育てる。

とされ，『数学的活動の楽しさ』が加えられた。これは，日常生活における様々な事象との関連を考慮しつつ，主体的に問題を解決する活動を通して，『学ぶことの楽しさや充実感を味わいながら学習を進めていくこと』を重視したからである。この『学ぶことの楽しさ』は，市の教育課題にほかならない。

数学的活動から得られる『学ぶことの楽しさ』とは，具体的な操作や実験を試みて数学的内容を帰納したり類推したりして，数学を創造し発展させていく中にみられる工夫や驚き，感動を味わうことであると考える。

２．研究構想

＜土岐市教育課題＞

学ぶ楽しさのある授業

＜研究主題＞数学的な見方や考え方を用いることができる生徒の育成

数学的な見方を広げ考え方を深めるために,『より簡単にできないか』『なぜそういえるのか』『いつでもいえるのか』にこだわって授業を行っている。そのため常に,『これまで学習した中のどんな考え方やきまりを使えばよいのか』という視点に立ち戻ることを指導している。今回,「学ぶ楽しさ」を具現するにあたり，以下のことに重点をおいて研究を進めることとした。

○主体的な学習意欲を引き出す単元構成

単元の導入では具体的な事象を用いて数量や図形などを考察し，単元で学習していく内容をとらえる場を設定する。単元の出口では単元で身に付けた力を具体的な事象の中で活用できる場を設定する。

・魅力のある導入

生徒の実態に即した教材の工夫，効果的・効率的なヒントカードの作成や個別指導ができるように,『単元に関わる既習知識の定着度』についての事前調査を実施し，生徒の既習事項定着の実態を把握する。

導入で使う教材によって『なぜそういえるのか』『これまでと何が違うのか』『何を使えば解決できそうなのか』などという疑問や解決への手がかりをもたせる。本時の課題とねらいに直結する導入の教材を選定する。

・広がり・深まりのある追究

課題追究の時間に必ず班内交流を位置付ける。『なぜその計算方法でよいのか』『より簡単な方法はないのか』『いつでもいえるのか』などの視点で話し合うよう指導する。また，机間指導において各班の交流内容に応じて話し合いの視点を明確にする助言を行う。

・自己の変容を自覚させる評価

授業終末に学習計画表への記入をさせることで『今日の授業で何ができるようになったのか』を自覚させる。そして，自分の力だけで評価問題に取り組ませて『できた喜び』を味わわせるとともに，自分に付いた力を実感させる。これが，数学を学ぶ楽しさや次時への意欲へとつながる。

３．授業実践の構想

（単元名：『１次関数』全１４時間）

２年『１次関数』の実践を通して主題に迫ることとした。

具体的な事象の中にあるともなって変わる２つの数量を明確にし，その関係を明らかにしていくことで，これから先の変化の様子を予測することが可能になる。こういったことは日常生活に有効なことである。

本単元では，具体的な事象の中から関数関係にある２つの数量を見い出し，それらの変化や対応を調べることを通して，『一定の割合で変化する関数』として既習の比例を含めた１次関数を学習する。具体的な２つの数量の変化や対応の様子を，『事象と表』，『事象と式』，『事象とグラフ』としてとらえるように指導にあたるとともに，表・式・グラフの３つを関連させて考察できるような指導を大切にしていく。

『１次関数』単元構想図

【数学的な見方・考え方を身につけた生徒の姿】
具体的な事象の中からともなって変わる２つの数量の関係を明らかにするために，表・式・グラフを用いて，変化と対応のようすを調べ，考察しようとしている。

単元出口の生徒の意識

○ともなって変わる２つの数量の関係は，ｙ＝ａｘ＋ｂで表される１次関数の関係がある。
○１次関数のグラフは原点を通らない直線なんだ。
○１次関数の式もグラフも，比例と似ている部分がある。比例は１次関数の特別な場合だったんだ。

学習活動

第３節　１次関数の利用（３時間）
・ともなって変わる２つの数量の関係を，１次関数を利用して考察する。

第２節　方程式とグラフ（３時間）
・２元１次方程式をｙについて解いて関数を表す式とみる。
・２つの２元１次方程式のグラフの交点が，何を表しているのかを考える。

第１節　１次関数（８時間）
・事象の中には１次関数を用いてとらえられるものがあることを知る。
・１次関数とその意味，式ｙ＝ａｘ＋ｂのａ，ｂの意味，変化の割合とグラフの特徴などを知る。

評価規準

【関心・意欲・態度】
○関数の考えを意欲的に具体的な問題の解決に活用しようとしている。
【見方・考え方】
○具体的な事象の中にある変化や対応についての見方や考え方を深め，事象を数理的にとらえ，見通しをもって論理的に考察している。
【表現・処理】
○数量の関係をグラフや２元１次方程式で表し処理したり，関数関係を的確に表現したりするなどして，問題の解決に１次関数を利用している。
【知識・理解】
○１次関数の意味，変化の割合とグラフの特徴，問題解決への利用の仕方を理解している。

単元導入の生徒の意識

○ともなって変わる２つの数量には，『比例』と『反比例』の関係があることを学習した。
○１次関数の式はどんな形だろうか。
○１次関数のグラフにはどんな特徴があるのだろうか。

学校所員会

必然性のある「協同」の工夫　～「協同学習」を取り入れた授業を通して～

土岐市立土岐津中学校　　西　　雅昭

１　生徒の実態

これまでの進路学習を通して，進路決定には目的意識をもつこと，進路先の情報を集めることが大切なことを学習した。そして，進学するにあたって，自分の能力や適性を考えることも重要であると感じている。

３年生になり，進路決定に向けて前向きに生活している生徒が多い。しかし，その中には，実力テストの結果をもとに，学習への不安やあきらめから学習意欲を低下させている生徒もいる。また，テストの結果のみを気にするあまり，テストの点数を上げるための学習や高校進学のための学習など，目先の目的にとらわれがちな生徒もいる。

＜現段階の進路選択の様子＞
・とりあえず高校へ進学しよう…１３人
・将来就きたい仕事があるから…１１人
・進学先で部活動を続けたい…９人

２　研究内容

ア　生徒の実態と「つけたい力」を踏まえた，学ぶ楽しさ（魅力）のある課題の設定や提示の工夫
イ　基礎・基本を定着させる学習活動と教科の特性を生かした「協同学習」の工夫

３　授業実践　『進路選択の諸条件』

アについて

本来進学の目的は，「こんな生き方をする」「こんな自分を目指す」という生き方にあり，よりよく生きるための進路選択である。生徒の実態から，自分の生き方を考え，進路を切り拓いてこうとする意識が必要であることを学ばせたいと考えた。

そこで，４月の進路希望調査でとらえた「上級学校を選択する時に大切にしたいこと」についての生徒の意識を帯グラフにして提示し，少数意見から順に意見を発表させた。多様な意見があることを生徒が捉え，進路選択について共通の意識をもったところで，「上級学校を選ぶときに，大切にしたいことを考えよう」という課題を設定した。

イについて

課題を提示した後，個人追究の場を設け，班内協同（グループ内での練り合い）に向けて，自分の意見をプリントに書かせた。その後，班内協同で進路選択の優先条件について話し合わせ，班ごとに上級学校を選択するための諸条件（「自分の学力」「夢」「大学への進学率」「部活動」「家からの距離」…）について第１位から第５位までの順位（ランキング）をつけさせた。その際，「なぜ，その条件が優先なのか」という理由を，本音で語らせた。

班内協同の後，すべての班のランキングを黒板に提示し，班内での意見を全体に発表した。さらに，先輩の上級学校を選択した時の声を聞かせた。授業の出口では，今後どんな点を意識しながら上級学校を選択すべきかを考えさせるために，自分が上級学校を選択するときの姿勢を，個人のランキングとして本時のまとめプリントに書かせた。

４　成果と課題

○個人追究の時間を確保し，一人一人が自分の考えをもてたことで，生徒は積極的に学習に参加することができた。
○進路選択の諸条件を班内協同でランキングにする手法を用いたことにより，本音でたくさん自分の考えを語る姿が見られた。
○協同学習の活動を楽しむことができ，それをもとに自分のこれまでの進路選択を見つめなおす機会となった。
○進路選択の視野を広げることができ，もっと進路についての情報を得たいという意欲が高まった。
▲「夢の実現」と「自分の学力との関係」で揺さぶりをかけ，進路を決めるのは難しいという出口を考えておくことも大切である。

ジョウゼン先生　ありがとう

平成１６年８月～平成１９年７月までの３年間，土岐市の ALT として，市内の幼稚園，小･中学校を訪問して，英語を中心に指導されました。
７月２６日に米国へ帰国されました。帰国前に土岐市での思い出を語っていただきました。

☆日本や土岐市の感想は？

土岐市は、すばらしい。最高の町です。はじめて土岐市に来たときは、とても田舎で私の故郷と似ていると思いました。日本語が話せなくて心配しましたが、人も環境もとても優しかったです。今では土岐市は私にとってセカンド・ホームです。

☆日本で学んだことは？

「お先に失礼します」という言葉を、日本に来て初めて教えてもらいました。この言葉は、これまで毎日使ってきました。

日本に来て、始めて食べたものが「納豆」です。匂いも味も「*NO！*」でした。今でも食べられません。でも、他のものは何でもおいしいです。みそ汁も自分で作って食べます。しぼってお湯を入れてかき混ぜてできあがり（インスタントです）。お酒の味がわかるようになりました。特に冷酒が大好きです。

☆土岐市の学校についてどう思いましたか？

学校の先生たちは、毎日一生懸命子どもたちを教えています。子どもたちも一生懸命勉強しています。英語の勉強は本当に楽しかったです。お互いに学びあい、教えあい、理解しあうことが大変大切であることを強く感じました。

子どもたちには「Live with an open mind and heart.」を大切にしてほしいと思っています。

☆印象に残っていることは？

田植えや稲刈りなどをさせてもらいました。大変だったけど、とっても楽しかったです。そのときのもち米で作ったもちを焼いて食べることができました。とってもおいしかったです。

ろくろを使って陶器作りもしました。茶碗やぐいのみなどをたくさん作りました。秋の市の美術展に少しだけ展示させてもらいたいと思っています。

☆アメリカに帰ってからどうしますか？

アメリカへ帰ってからの仕事は、まだ決めていません。本当はもう少し日本にいて、仕事を続けたかったです。でも、お母さんの体調がすぐれないので、帰らなければなりません。しばらくはお母さんと一緒に過ごす時間を大切にしたいと思っています。

☆最後に一言

私はニュージャージーへ帰ります。みなさんがアメリカへ来たときには、ぜひニュージャージーへ寄ってください。とってもいいところです。私が、土岐市へ戻ってくる方が早いかもしれませんね。

新しい ALT にも私と同じように親切にしてあげてください。

市長さんへ退任の挨拶

「さよなら」は、好きではありません。
Thank you very much!　***See you!***

「心にひびく言葉」
「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」

濃南中学校　　安田　茂

岐阜市の中学校に赴任したとき、最初の職員会で、校長先生から人を動かすには「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」ではないでしょうか、と山本五十六の言葉を紹介されました。毎朝校門で校長先生は「おはよう、今日はとても早いね」等と子どもたちにいつも笑顔で優しく声をかけておられました。

私も着任して１か月あまりたったころ、校長室に呼ばれました。緊張して校長室に入ると、「先生が本校に来てくださったおかげで職員室がとても明るくなりました。それに、先生の気迫がクラスによく浸透して、とっても意欲的な学級ができていますね」と言われました。何か認められた思いがしてとても嬉しい気持ちで校長室から出てきたことを今でも鮮明に覚えています。

かつて、あの女子マラソンの高橋尚子選手を育てた小出義雄監督もほめ上手で有名でした。「いいよ、Qちゃん、今日はとっても調子がいいねぇ」とほめまくり、調子が悪いともっとほめて「今日は絶好調だ。タイムはちょっと伸びないけど、こういう走りの後は必ず伸びるよ」と言っておられたそうです。

残念ながら、私はこの偉大な校長先生と言葉を交わせたのは、この校長室での会話と後は朝夕の「おはようございます」「失礼します」だけでした。半年後、校長先生は亡くなられました。

この校長先生とご一緒できたのはわずかな期間でしたが、今でも子どもたちが思うように動かないでイライラするときなど、この言葉を思い出し、叱るのでなく、ほめて育てようと心がけています。

掲　示　板

◇土岐市中学校総合体育大会（団体）結果

種　目		優　勝	準優勝	第３位
軟式野球		駄知	肥田	
ソフトボール		西陵	肥田	土岐津
サッカー		泉	駄知	
バスケットボール	男	西陵	泉	土岐津
	女	西陵	泉	駄知
バレーボール	男	濃南	泉	駄知
	女	泉	肥田	濃南
ソフトテニス	男	西陵	泉	土岐津
	女	西陵	泉	
卓　球	男	土岐津	西陵	駄知
	女	泉	西陵	濃南
剣　道	男	泉	西陵	肥田
	女	泉	西陵	肥田
柔　道	男	泉	駄知	西陵
	女	泉		
水　泳	男	泉	肥田	土岐津
	女	泉	駄知	
陸　上	総	泉	土岐津	濃南
	男	濃南	泉	土岐津
	女	泉	土岐津	濃南
体　操	男	団体戦なし		
	女			

◇東濃地区中学校総合体育大会（団体）結果

種　目		成　績	学校名
陸　上	総	準優勝	泉
	男	３位	泉
	女	準優勝	泉
ソフトボール		優勝	西陵
軟式野球		準優勝	駄知
バスケットボール	女	３位	泉・西陵
バレーボール	男	３位	濃南
バレーボール	女	準優勝	泉
ソフトテニス	女	３位	西陵
卓　球	男	３位	土岐津
柔　道	女	３位	泉
水　泳	男	優勝	泉
サッカー		３位	泉

今年度も各会場で熱戦が繰り広げられました。上位入賞チームは東濃大会に出場し，健闘しました。東濃大会上位チームは県大会に出場します。

土岐市　教育研究所
ＴＥＬ　0572-54-1111（内281）
ＦＡＸ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所報　Ｎｏ.４２３
発行責任者　所長　加藤　紀久朗
発行日　平成１９年　８月３１日
題字　白石　聡　教育長

ねん土で作品作り～図画工作～
恐竜やぞうをつくった一年生！

撮影　…肥田小学校　水野　秀信　先生

「尺取り虫」の動きを見据える

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

年に２・３回ゴルフに行きますが、見事に雨に出会います。お金を出して雨に濡れに行くのも決して気持ちの良いものではありませんが、これも自然のひとつとして自分を納得させています。今年の夏休みは８月の中頃とんでもない暑さになり、外にいることさえ大変でした。しかし、これも自然です。自然とうまくつきあうためには、生きている限り知恵が必要です。

新学期が始まり、真っ黒に日焼けした子ども、何か大きくなったと思う子どもとの出会いが始まります。学校は入学式に始まり卒業式・終業式で終わりますが、そのなかに学期という節もあります。子どもというのは、年間は勿論、学期単位でみても成長と変化をしています。

中学校に勤務していたとき、本当に驚いたことに、子どもは「時間単位」で成長と変化をしていくということす。部活動の大会で、朝の第一試合と昼からの試合を比べてみると、昼からの試合では見事なまでにうまく、強く、たくましくなっていきました。ひとつのことができるようになっただけで、見事なまでに変身をします。そのひとつのことは、緊張感や追い込まれた状況の中で、自分の力を発揮したときに体得します。

この歳になってくると、結果を見通すことやいかに楽をしてやっていくかを考えてしまいます。だから、学期どころか年間のスパンで自分をみても成長はありません。緊張感や自分を追い込むことが苦手になってしまっています。実に情けないものです。

４０数日の夏休みが終わりますが、子どもたちは普段の学校では体験できないことを経験し、確実に成長と変化をしています。但し、「良くも悪くも」を含んだ変化です。

尺取り虫は、一度身を縮めてから前に進みます。中には進む前の段階の子どももいると思いますが、前進のための準備です。しかし、前進ばかりではありません。時には準備のため後退する姿もあると思います。子どもによっては準備の時間が長くなる子もいると思いますが、少なくとも、わたしよりは、ずーと、ずーとエネルギーを持ち合わせていることは確かです。

東教推「学級経営」
研究推進校
（今年度発表）

我が校(泉小学校)の研究

泉小学校では，１１月２１日（水）に，東教推「学級経営」研究推進校としての発表会が行われます。

土岐市の教育課題

【教育方針】
子どもと授業を大切にし，
『生きる力』をはぐくむ

【教育課題】
学ぶ楽しさのある授業

【教科指導】
・自ら学び考える力の育成
・基礎的・基本的な内容の確実な定着のためのきめ細やかな指導
・話す，聞くなどの学習姿勢や学習規律の指導

【特別活動】
・重点目標の明確化と他の教育活動との関連を図った指導計画
・自発的・自治的な活動で自己を生かそうとする意欲や態度の育成

学校の教育目標
考えやりぬく子
思いやりのある子
じょうぶな子

児童の実態
・やりたいことが明確になっていると協力して取り組み，最後までやろうとすることができる。
・困っている子を助けようとする。
・進んで仲間と関わる姿勢に弱さがある。
・課題を意識し，仲間に対して分かりやすく説明する力が弱い。

願う子どもの姿
・相手の身になって考え，相手のよさを見つけようとする子
・互いの存在や思いを大切にし合う子
・自分の力を学級全体のために役立てようとする子
・仲間の考えをじっくり聞ける子
・課題を意識し，仲間に対して分かりやすく説明できる子

研究主題
**学年経営を基盤として
よりよい仲間関係を
育む学級づくり**

よりよい人間関係のとらえ

低学年	中学年	高学年
みんなと仲よく活動するなかで，お互いのよさを見つけ合える仲間関係	共に活動する喜びを味わい，学級の仲間と互いのよさを認め合える仲間関係	よさや違いを認め合いながら課題解決し合える仲間関係

研　究　仮　説

児童理解に基づく組織的な関わらせ方の工夫・よさや違いを認め合える学級活動の工夫をすれば，所属感を高め，仲間関係を育む学級づくりができるであろう。

研　究　内　容

1　よりよい仲間関係を育む学級づくりを見通した指導の工夫
（1）学年経営構想図の作成と活用
（2）児童の意識の流れと指導の手立てを明確にした題材指導計画の工夫

2　よりよい仲間関係を創造する学級会の工夫
（1）学年の発達段階に見合った必然性のある議題設定
（2）学級会のねらいに向かった教師の出場

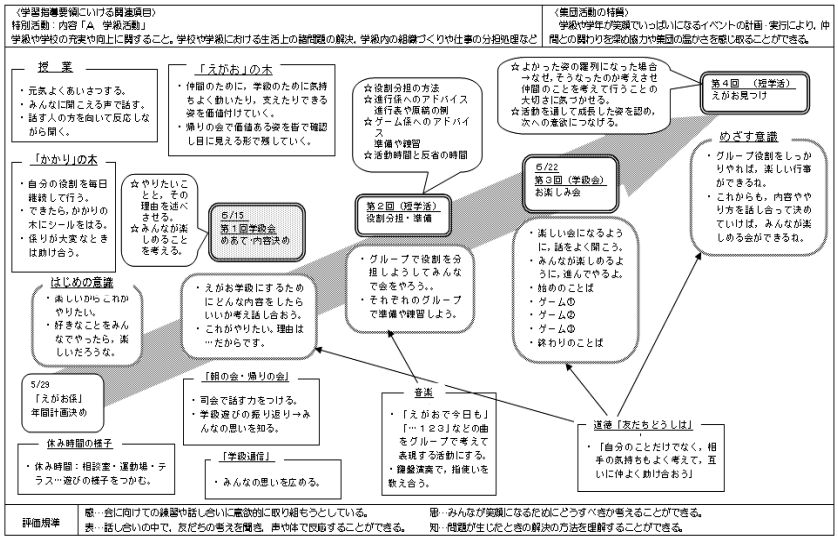
研究内容１－(1) 学年経営構想図の作成と活用

児童の実態を把握・交流し，見通しをもった年間の活動計画を作成する。

めざす児童の姿を明確にし，そのための学年・学級の主な動きと，核となる活動やその場における児童の意識の流れを位置づける。

この構想図をもとに，それぞれの活動で，児童の意識や指導の手立てを明確にして指導計画を立てていく。

研究内容１－(2) 児童の意識の流れと指導の手立てを明確にした題材指導計画の工夫



学年経営構想図から，それぞれの活動を通して子どもたちがどう高まっていくかを明確にするために，評価規準を作成するとともに，めざす姿に向けての具体的な手立てと見通しをもつ。

学級会だけでなく，朝・帰りの会，授業，係活動など教育活動全体を通して育てていくことをねらいとしている。

研究内容２－(1) 学年の発達段階に見合った必然性のある議題設定

<u>○集団活動の組織化と児童の実態把握</u>

学年の実態に応じて係や集会活動等を組織化した。

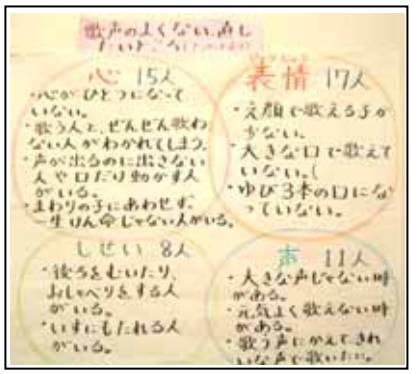
組織として仲間と関わりながら取り組む中で出てくる問題を，学級が解決すべき共同の問題であると児童が捉えたとき，課題に必然性が生まれる。そのために，教師のねらいと子どもの願いを一体化させることが必要である。

必然性のある議題を生み出すための具体的な手立てとして･･･

・リーダー会での話合いの内容や振り返りのカード，アンケートなどを活用し，意識の流れや思いをつかむ。

・教師が価値づけたり，個の思いを伝えたりする中で考えさせる。

ことが大切であると考えた。



研究内容２－(2) 学級会のねらいに向かった教師の出場

<u>○よりよい解決方法を見出すための意図的指名や手紙の活用</u>

話合いでは，自分の思いだけでなく仲間の思いに気づくようにする必要がある。学年の発達段階に合わせて，異なる見方や考え方をしている児童を意図的に指名したり，思いを手紙やカードに書き，それを活用したりすることで，互いに心を開いて話し合い，よりよい解決方法を見出すことができた。

※　詳細は，発表会当日の資料にて

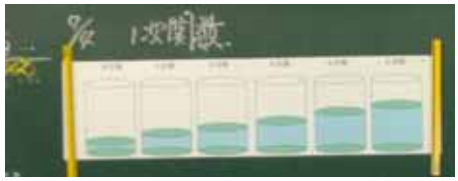
「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　肥田中学校　小久保　拓哉

（前号より）

４．実際の授業より　第２学年数学　[数量領域]

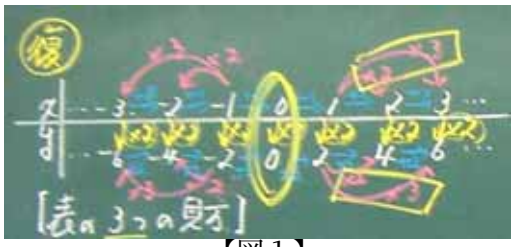
単元名	１次関数
本時のねらい	容器に一定の割合で水を入れていったときの時間とそれにともなって変わる水面の高さとの関係を調べる活動を通して，関数関係にある２つの数量には式ｙ＝ａｘ＋ｂで表されるものがあることに気付き，ｘとｙの関係が式ｙ＝ａｘ＋ｂで表されるとき，ｙはｘの１次関数であるという表現をすることが分かる。

	学習活動	教師の指導・援助
つかむ	**１．表の3つの見方を確認する。** ｘ　…－3　－2　－1　0　1　2　3… ｙ　…－6　－4　－2　0　2　4　6… ・ｘが１ずつ増加するとｙは２ずつ増加しているよ。 ・ｘが２倍，３倍となるとｙも２倍，３倍となっているよ。 ・ｘを２倍すると，ｙの値になっているよ。	本時の課題追究の足場とするために，表から２つの数量の関係を調べる見方を全員に想起させる。
	問題：深さ２５ｃｍの水そうにどれだけか水が入っています。次の表はこの水そうに一定の割合で水を入れていったときの時間ｘ(分)水面の高さｙ(ｃｍ）との関係を表したものです。９分後の水面の高さを求めましょう。 ｘ　…　2　3　4　5　…　9　… ｙ　…　9　11　13　15　…　□　… ・ｘとｙの関係が分かれば，９分後の高さが求められるなぁ。 **課題：根拠を明らかにして9分後の水面の高さを求めよう**	問題を視覚でとらえることができるように，図を提示する。 
練り合う	**２．表からxとyの関係を見つけ出し，9分後の高さを求める。** ・ｘが１ずつ増加するとｙは２ずつ増加していることが分かるから，順番に表の空欄を埋めてみたら，９分後には２３ｃｍになることが分かったよ。また，最初から入っていた水の高さは５ｃｍだと分かった。 ｘ　0　1　2　3　4　5　6　7　8　9 ｙ　5　7　9　11　13　15　17　19　21　23 ・時間(ｘ)と増えた高さの表をつくったら比例の表となったから式はｙ＝２ｘだ。 ｘ　0　1　2　3 … 増えた高さ　0　2　4　6 … 最初から入っていた高さは５ｃｍだから式はｙ＝２ｘ＋５だ。	班内交流では，各班の交流具合に応じて交流の視点を与えるための助言を行う。 ・「ｘ＝０のときのｙの値はどれだけなのか」 ・「時間(ｘ)と増えた高さには，どのような関係があるのか」
まとめる	まとめる ともなって変わる２つの数量には比例量と一定量の和で表されるものがあり，式はｙ＝ａｘ＋ｂと表される。 このときｙはｘの１次関数であるという。 比例ｙ＝ａｘは１次関数ｙ＝ａｘ＋ｂの，ｂ＝０の場合である。 **３．評価問題に取り組む。**教科書Ｐ６３Ｑ４ (1)縦５ｃｍ，横ｘｃｍの長方形の周の長さがｙｃｍ (2)半径ｘｃｍの円の面積がｙｃｍ^2	まとめた後，評価問題で何ができればよいかという視点を明確にもたせる。

５．授業後の考察

・魅力ある導入

『単元に関わる既習知識の定着度』についての事前調査を分析した結果，ともなって変わる２つの数量の関係を表から見つける力が弱いことが判明した。このため，【図１】のような１年生で学習した比例ｙ＝２ｘの表を用いた『表の３つの見方』を復習したところ以下ア～ウの意見が出た。



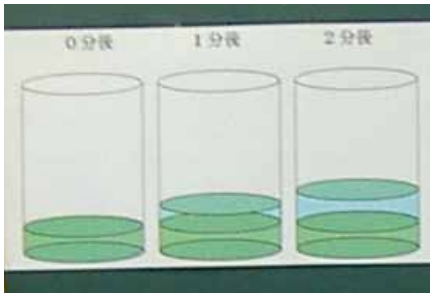
【図１】

ア：ｘが１ずつ増加すると，対応するｙの値は２ずつ増加している。・・・横(変化)の見方
イ：ｘを２倍，３倍…すると，対応するｙの値も２倍，３倍…となっている。・・・横(変化)の見方
ウ：ｘを２倍すると，対応するｙの値となる。・・・縦(対応)の見方

本時では，個人追究時にはすべての生徒が表をアの視点を用いて，９分後の水面の高さを求めることができた。よって，『単元に関わる既習知識の定着度』についての事前調査の実施・分析を行い，分析に基づいて導入に工夫を加えることは有効であったといえる。

・広がり・深まりのある追究

ともなって変わる２つの数量の間には，ｙ＝『比例量』＋『一定量』で表される関係があることをとらえさせるために，班内交流の進み具合に応じて，次のような助言を行った。



【図２】

ア：「ｘ＝０のときのｙの値はどれだけなのか」

この助言をした班に，はじめから水が入っていたことをとらえさせることができた。そして，「最初から入っていた水の高さは５ｃｍだ」と発言した生徒の意見を視覚でとらえさせるために，また，ｙが『比例量』＋『一定量』で表されることに気付かせるために，【図２】のような資料を提示した。

これらをもとにしてさらに交流を進め，ｙが『増えた高さと初めから入っていた高さの和』であると気付いた班があった。

アの助言後，なかなか追究が進まない班に対して，次のような助言を行った。

イ：「時間(ｘ)と増えた高さには，どのような関係があるのか」

この助言によって，時間(ｘ)と増えた高さには比例の関係があることに気付いた班が多くあった。

また，追究の視点をはっきりととらえることができている班は，助言を行わず見守る指導を行った。

このような姿から，班内交流の進み具合に応じて行った助言などは，追究に広がりや深まりをもたせるために有効であったといえる。

・自己の変容を自覚させる評価

ｙがｘの１次関数であるかどうかを判断するためには，事象を式化してｙ＝ａｘ＋ｂの形になっているかどうかで判断すればよいことをまとめとした。このように，評価問題で『何ができればよいのか』『そのために学習した何を利用すればよいのか』という視点を明確にもたせることが，自己の変容を自覚させるために有効な手立てであった。

また，学習計画表に『比例でも反比例でもない式が出てきてびっくりしたけど，比例のときと同じようにして，式を作ってみればいいことが分かった』と書いている生徒がいた。

この感想を次時の導入で発表させ，中学校では下線部のように式で関数を定義することを再確認できた。

＜成果と課題＞

○生徒の実態に即した導入を行うために，『単元に関わる既習知識の定着度』における事前調査の分析が有効である。
○班内交流の進み具合に応じて助言を行ったり見守ったりすることは，班内で追究を広めたり深めたりするために有効な手立てである。
○評価問題で「自分は何を利用して何ができればよいのか」という明確な視点を与えることは，「よしやってみよう」という意欲をかき立たせたり自己の変容を自覚させたりするために有効である。
●生徒が，「やってみたい」という意欲や必然性をもたせる教材提示の仕方に更に工夫が必要である。
●本時のねらいと班内交流の進み具合とを照らし合わせて，ねらい達成へ導く助言の精選が必要である。
●より一層，自己の変容を自覚させたりできた喜びを味わわせたりするために，難易度を変えた評価問題を数種類用意して，個に応じて取り組ませることが必要である。

学校所員会

研究主題

「求め　鍛え合う子」の育成

～言葉や文にこだわり，仲間との交流を通して言語能力を高める国語科の授業～

土岐市立土岐津小学校　鈴木　尚美

1　はじめに

本校では，今年度より上記のテーマを掲げ，「つけたい言語能力を明らかにし，言葉や文にこだわりをもてる課題づくりや追究場面における子ども理解に即した指導・援助と評価を工夫すれば，求め合い，鍛え合って言語能力を高めることができる」という仮説のもと，研究を進めている。

2　研究内容

＜研究内容１＞　言葉や文にこだわり，仲間との交流を通して言語能力を高める２ステージにおける指導構想

ステージ１

単元におけるつけたい力と評価規準の明確化

①「学習指導要領」の示す領域，目標及び内容との関連を明らかにする。

②単元の内容の把握（物語文→作品構想図，…）

③単元の指導目標を立てる。

④評価規準の作成

ステージ２

単位時間のねらいを明確にした単元指導計画の作成

①単位時間のねらい

②単位時間のねらいに直結する本時の課題

③課題解決に向かう学習活動

④本時の評価規準

＜研究内容２＞　言葉や文にこだわり，仲間との交流を通して言語能力を高める４ステップにおける指導・援助と評価

ステップ１“課題づくり”

児童の意識の流れに沿い，必然性がある学習課題を生むための工夫

ステップ２“個人の追究”

個の考えを確立させるための指導・援助

ステップ３“集団での追究”

仲間と高まり合わせるための指導・援助

ステップ４“振り返り”

学びの足跡や変容をまとめる評価の工夫

3　授業実践より

第３学年　国語科「三年とうげ」第３場面

＜研究内容１＞

②単元の内容把握のための作品構想図の作成

本教材のキーワードを「おそるおそる」「すっとんでいき」「はね起きる」「しまいました」「ところで」とし、キーワードについて児童の生活経験から語らせることで、おじいさんの様子をイメージさせようとした。また、キーワードにこだわってイメージできるようにすることで、言語に対する能力を高めようと考えた。キーワードを明確することにより，児童に立ち止まらせたい場面と教師が問い返したい言葉，そして児童に捉えさせたいおじいさんの様子などを教師がもつことができ、それがねらいに迫るための手立てとなった。

＜研究内容２＞　ステップ３

仲間と高まり合わせるための指導・援助

読みの視点（おじいさんの行動や様子を表す表現）を与え，言葉からイメージした自分の考えをワークシートに書き込ませ，それらを児童が発表した。

「しばらく」*(考えていましたが、うなずきました。)*からおじいさんが「信じられない」「なんでそういうことを言うのか？」「自分はどうしたらいいのか？」「本当だろうか？」等の発言があった。Ｓ男は「うなずきました」から「おじいさんは，トルトリの言葉を信じきった」と発言した。その際，「はね起きる」と「起きる」とではどのような違いがあるのかを問い返したところ，Ｏ男から「バネみたいにとび起きた」という発言があった。更に教師が「なぜおじいさんは，はね起きたのか」と問い返したところ、「病気を一日でも早く治したい」「生きられるんだ」「今すぐに行って試してみたい」というおじいさんの様子を捉えることができた。

4　成果と課題

・指導構想や単位時間の指導・援助を明確にしたことで，場面と場面をつなげながら，言葉や文にこだわり様子を読み取る力がついてきた。

・児童の発言や立場を整理する中で，更にどの「言葉」を根拠として，登場人物のイメージを「確か」にするのかを明らかにする必要がある。

新しいＡＬＴを紹介します

８月１日(水)に土岐市へ赴任した新しいＡＬＴの Goldberg Melissa Joanne さんに，自己紹介していただきました。

Hello! My name is Melissa. I'm from New Jersey in America. I studied Japanese at a college in New York for four years. I'm very interested in Japanese culture. My hobbies are reading manga and watching Japanese dramas. I also like writing stories. I'm very happy to be working in Japan. I like kids so I'm looking forward to teaching English. I want to make every class fun for them. I'll be trying my best with all my might so take care of me!

はじめまして。メリッサと申します。私はアメリカのニュージャージーから来ました。ニューヨークの大学で４年間日本語を勉強しました。私は日本の文化に大変興味をもっています。私の趣味は，マンガを読んだり日本のドラマを見たりすることです。さらに，小説を書くことも好きです。日本で働くことができてとてもうれしいです。子どもが好きだから，英語を教えるのが楽しみです。毎時間，楽しい授業にしたいと思っています。一生懸命がんばりますので，よろしくお願いします。

＜担当する学校＞
・駄知中学校・肥田中学校・泉中学校
・下石小学校・鶴里小学校・駄知小学校
・泉小学校

サマーセミナーの振り返りより

今年度のサマーセミナーは，昨年度より日数を１日・合計で１講座増やして，５日間の１７講座で実施しました。

ＰＣ講座（エクセル入門）	２２人	歴史体験講座	３１人
ＰＣ講座（エクセル活用）	５１人	各界から学ぶ	４５人
ＰＣ講座（初歩のワードとエクセル）	１８人	エアロビックス	４４人
ＰＣ講座（宛名・差込印刷）	２８人	料理教室	３９人
ＰＣ講座（パワーポイント）	２７人	ヨーガ	７９人
人権同和教育講座	２４人	楽しく歌おう	４７人
実践論文講座	２４人	陶芸教室	４５人

同一内容の講座の人数は，合計しております。

延べ人数５２４人で，一人当たり約 1.7 講座参加されました。

アンケートでは，十分満足・満足と感じられた先生がほとんどで，ぜひ来年度も続けて実施してほしいという講座が多数ありました。全体としては，実習・体験的な講座が多くて楽しんで行うことができたという意見を多数いただきました。また，授業力･学級経営力が高まる講座，生徒指導に関する講座，ＡＬＴによる英語講座，図工・水泳などの具体的な実技指導の講座なども増えるとよいという意見もいただきました。

新しく「歴史体験講座」を設けました。「ふるさと教育」の実践となる講座でよかったが，時間にゆとりがなく，史跡巡検コースと遺物に触れる実習コースなどに分かれてゆっくり実習がしたかったという意見もありました。

いただいた意見は，来年度のサマーセミナーに生かしたいと思っております。

※　講師の先生方，施設を提供してくださった学校などありがとうございました。

「心にひびく言葉」

「究極のプラス思考」

妻木小学校附属幼稚園　　山田　恵子

タレントのベッキーさんの魅力ある生き方に惹かれています。その中から特に共感した３つの言葉を紹介します。

１つ目は「言葉の力を信じること」です。

彼女は，テレビに出ない日はないというほど忙しい中，亜細亜大学経営学部に合格し，自分で学費を払い，４年間できちんと卒業しました。試験の時期は毎晩２時間しか寝ないで乗りきり，つらいことも多かったようです。しかし，みんながつらいと思うようなことも“幸せだ”と思うように努め，どんなにスケジュールが立込んでいても，決して「忙しい」「疲れた」と言う言葉を口にしなかったそうです。それは，言葉の力を信じていたからです。“幸せだ”“嬉しい”楽しい”などのプラスの言葉を発すると，その通りになることを信じて実践していたからです。このことは正に『究極のプラス思考』ではないかと思います。

２つ目は「自分を取り巻く人たちへの気配りを大切にすること」です。

小さい子どもから人生の大先輩まで，出会う人すべてに分け隔てなく笑顔でやさしく接すること，スタッフ一人一人に「よろしくお願いします」と頭を下げて丁寧にお願いすること，椅子に座っていても挨拶をするときは必ず立ち上がって挨拶をすることなど，常に礼儀や感謝の気持ちを忘れないように努め，気配りを大切にしてみえます。

３つ目は「両親を尊敬していること」です。

ことあるごとに，ご両親は「人にしてもらって嬉しかったことは，自分でもどんどんしなさい。いやだったことは決してしないように」と言い続けられたそうです。彼女は両親を尊敬し，その教えに従っておられます。彼女の人生を左右するご両親の教えはすばらしいと思います。

ベッキーさんのように『究極のプラス思考』で，仕事・健康・友人・家族など自分を取り巻くすべてに対して感謝しながら，両親を尊敬して生きていきたいと思っています。

掲　示　板

◇岐阜県中学校総合体育大会での活躍

《団体》○ソフトボール　　優勝　西陵中　　○ソフトテニス　女子　３位　西陵中

《個人》○柔道　女子　63 kg級　　優勝　３年　渡辺晃子（肥田中）

○体操　男子　個人総合　　優勝　２年　鵜飼桂史（泉中）

（床２位，跳馬２位，鞍馬２位，鉄棒１位）

○陸上　２年 1500m 男子　　優勝　井野拓哉（土岐津中）　４分１１秒８８

共通 800m 女子　　優勝　３年　土屋りお（土岐津中）　２分２０秒８７

共通棒高跳び　　３位　２年　川口正雄（泉中）　３m３０

○水泳　400m メドレーリレー　３位　佐々木裕充　加藤士貴　桐原勇樹　市岡航大（泉中）　４分４３秒４１

○剣道　１年女子　準優勝　鳥山佳菜美（泉中）

◇東海中学校総合体育大会での活躍

《団体》○ソフトボール　ベスト４　西陵中

《個人》○水泳　400m メドレーリレー　３位　佐々木裕充　加藤士貴　桐原勇樹　市岡航大（泉中）４分４１秒９０

200m バタフライ男子　８位　３年　小島海斗（土岐津中）２分２０秒５３

○男子体操　個人総合　　７位　２年　鵜飼桂史（泉中）

○陸上　２年 1500m 男子　　準優勝　井野拓哉（土岐津中）　４分１４秒６１

共通 800m 女子　　８位　３年　土屋りお（土岐津中）　２分２５秒１５

◇全国中学校総合大会へ出場

《個人》○陸上　２年 1500m 男子　共通 800m　井野拓哉（土岐津中）

○柔道　女子　63 kg級　渡辺晃子（肥田中）

土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４２４
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発　行　日　平成１９年　９月３０日
題　字　白　石　聡　教育長

土岐津中学校体育祭
生徒会テーマ
Active Believe Challenge
～活発 信頼 挑戦～

撮影　…土岐津中学校

いちばん言ってはいけないのが悪口、でもいちばん言いたいのも悪口

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

ある研修会で，今一番児童生徒に付けたい力はお互いのコミニュケーションであることを多くの先生のことばとして語られました。

お陰様で，市内小中学校においては，二学期を迎え，子ども同士，子どもと先生・保護者と先生を含め，多くの人間関係に理解と協調が深まってきました。その姿になるためには各学校においては，行き違いや問題も多く存在してきたと思いますが，からまった糸をほぐすように，ひとつひとつのからまりを解きほぐしてきた結果だと思います。更に，先生が中に入って問題を解決してきたことが，少しずつ子どもたちの手による解決が増えてきたことに繋がったことに値打ちを感じます。

子どもたちのけんかやもめ事の原因を聞いてみると，ずっと前は自分がいじめられていたことがあり，許せない気持ちでいたということをよく聞きました。今のもめごとの直接の原因は他にあるけれども，背景として前々からの思いがあるということです。だから，なかなか納得できないという考えになるわけです。その裏には，悪口を言われたということが多々ありました。

わたしたち大人や先生の社会でも「悪口」は意外と日常茶飯事のごとくあります。私自身も数え切れないほどの悪口を言ってきたように思います。悪口はその人を陥れようというよりも，それによって自分の立場を弁護したり，自分以下の存在をつくったりすることによって，安心感を生み出す行為として行ってきた部分があります。自分が言った悪口に対して，賛同があろうものなら，その時は，実にすっきりした気分になります。悪口は麻薬のような効果があることも確かです。だから，やめられないのです。

子どもたちへの指導の中で，悪口は良くないという倫理観を教えることは無駄ではありませんが，一服の清涼感をもつ悪口という麻薬に対してどう対応していくかを教えていくことは大変難しいことです。解決の糸口として大切なことは，認め合える関係をつくることから始まり，価値観や人間性を高めていくことではないでしょうか。そこに学校や家庭を含め教育の値打ちが存在すると思います。

いつも，このぐらいと思いつつ，言ってしまう自分の愚かさを反省するばかりですが，悪口は言ってはいけないのに本当に言いたくなる不思議なものです。

市指定の教育課題
研究推進指定園

我が園(肥田小学校附属幼稚園)の研究

研究全体構想

土岐市立肥田小学校附属幼稚園

＜幼稚園の教育目標＞
明るくたくましい子
心ゆたかで丈夫な子　仲良く遊ぶ子　自分の力でやろうとする子

＜土岐市の教育課題＞
夢中になって遊ぶ保育

研究主題
友達の気持ちやよさに気付き認め合える保育のあり方

園児の実態
・戸外遊びを好む
・元気がよい
・興味があることには積極的である
・相手の気持ちを考えずに行動することもある

親の願い
＜楽しい園生活＞
・あいさつができる
・色々な体験をする
＜友達づくり＞
・思いやりをもつ
・仲間を大切にする
＜自分づくり＞
・自分の意見が言える
・積極的に活動ができる
・最後までやりきる

主題設定の理由
一人一人の園生活が、自己発揮でき楽しいものであるようにするには、幼児が友達と活動する中で、自分の思いを伝え相手の意見を聞こうとする姿勢や思いやりをもち、相談し合って活動することと考える。それには、一人一人のよさをはぐくみ友達のよさに気付き認め合える関係を構築する必要がある。
そこで、１８年度は「よさをはぐくむ環境のあり方」を研究主題として取り組んだ。
１９年度はその成果と課題をもとに、幼児同士が楽しさを共有しながら、友達の思いに気付き認めたり、受け入れたりしながら、共同して遊ぶ力をはぐくみ高めていくことが大切と考え、この主題を設定した。

園の課題
・幼児にとって園生活が自己発揮できる楽しいものであるようにする
・心地よい園生活をするためのきまりや認め合える人間関係を身に付ける場にする
・幼児が、まわりの環境に働きかけ、見付けたり試したりする
・家庭の願いや園経営の見直し、地域、保・小・中との連携を推進する

研究仮説
幼児の興味や意欲が高まり、その子らしさを発揮できるさまざまな環境「人や物」の構成を工夫し出会いを大切にする。
そして、その子の思いや育ちに寄り添う援助に心がけ、友達など互いに受け入れたり、譲ったり、褒め合ったりする体験をさせることにより、相手の思いやよさに気付き認め合う心をはぐくむことができる。

研究内容
１．その子らしさの発見【記録と計画の作成と改善】

２．その子のよさを育む【指導・援助の工夫】

３．楽しい出会い【豊かな体験のある園生活】

研　究　内　容

肥田小学校附属幼稚園では，１１月８日（木）に市指定の教育課題研究推進指定園としての発表会が行われます。

1　その子らしさの発見【記録と計画の作成と改善】

（1）子どもの様子を捉える（ありのままの姿で）
「子どもの目線で見た遊びの記録」

（2）子どもの思いを探る（どう思い、どう感じたか）
「興味、要求、感情、友達とのかかわり」

（3）育とうとするものを探る
（どのように乗り越え何が身に付いていくのか）
「発達の課題を捉える」

2　その子のよさをはぐくむ【指導･援助の工夫】

（1）自発的な活動を促す意図的・計画的な環境構成と環境の再構成への働きかけをする

（2）子ども同士が、気持ちを共有し認め合い、よさに気付く友達づくりの構築をする

（3）一人一人の子どもに喜びを感じさせる援助をする

（4）共通の目的や挑戦的な課題をもち、共同し工夫して解決する活動の場を築くよう援助をする

3　楽しい出会い【豊かな体験のある園生活】

（1）キッズサポーター、保・小・中との交流をする

（2）地域とのつながりを大切にする

（3）子・教師・親との響き合いをつくり出す

土岐市の教育課題

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　泉小学校　清本　直子

1　はじめに

体育の授業では「生涯にわたって運動に親しんでいく態度と能力」を養うことをめざしている。そのためには、授業の中で、運動そのものの楽しさを味わったり、運動をすることを通して仲間と活動したり上達したりする楽しさや喜びを味わったりすることが必要である。そして、それらは、体育の授業における『学ぶ楽しさ』を味わうことだと考える。授業を通して、『グループや個人の成果の向上をめざして精一杯取り組み、前よりも上達した（技能）』、『課題達成のために相互援助活動をする中で技能を高めたり、仲間と共に活動したりできた（態度）』、『自己の能力に適した課題を持ち、練習を工夫したり、考えたりする中で技能が高まった（学び方）』と実感できるとき、児童は運動に熱中し、体育の授業が『楽しい』と感じ、『もっとやりたい』という意欲をもつと考える。

2　研究構想

〈土岐市の教育課題〉

学ぶ楽しさのある授業

〈研究主題〉　自ら課題を持ち、進んで運動に取り組むことができる児童の育成
～運動に熱中し、一人一人が生き生きと活動できる授業づくりを通して～

体育の授業において、児童の実態をとらえ、課題となる姿の要因を分析し、身に付けさせる力と指導内容を明確にすること、毎時間の基礎･基本のとらえと明確な課題づくりをし、身に付けさせる力を充足させるための指導方法や援助を工夫することで、『運動の特性』や『教科の本質』に迫ることができる。また、児童の相互援助活動において、それぞれの課題にあった視点で互いの動きを見合い、教え合いができるような指導を目指し、どんな声掛けや関わりをさせるかを工夫することで、動きをとらえる力を高め、技能を高めることができる。そして、児童一人一人が運動に熱中し、生き生きと活動できるようになると考える。

主体的な学習意欲を引き出す単元構成

児童の意識や実態を把握するためにアンケート調査を行ったり、授業の中で運動のできばえについての観察を行ったりする。そして、児童の活動欲求や種目の特性を考慮しながら身に付けさせる動きを明らかにし、どんな姿を目指してどんな活動を仕組むのかを考える。

○魅力のある導入

ＶＴＲを用いたり教師や児童の代表による示範をしたりして、児童が、「すごい」「自分もやってみたい」「どうしたらできるのだろう」とあこがれをもつことができるような導入を工夫する。毎時間の授業では、本時の全体課題や個人課題に直結するよう、ポイントを絞って示範する。

○広がり･深まりのある追究

運動習熟や上達のポイントやこつをわかりやすくまとめて掲示する。その際、動きがイメージしやすいようなリズムを工夫することもしていく。また、得点や段階表があるものについては、つまずきや練習ポイントについて例示したり児童と一緒に考え出したりしていく。

互いの動きのどこをどのように見合い、どんなアドバイスをしたらよいのかについても例示したり児童と一緒に見つけたりしていく。「運動の見方」を身に付け、相互援助活動を位置づけることで、適切な課題設定をねらう。また、互いに声をかけたり、頑張りや伸びを認め合ったりできる雰囲気づくりをし、様相の発展をねらう。

○自己の変容を自覚させる評価

得点や数値化できるデータを残し、客観的に自己やグループの変容が分かりやすいようにする。そして、その要因をきちんと分析することで、次の課題を的確に見つけていけるようにしていく。「課題を克服できた」「上達した」という喜びを味わうことができたり、「どうすればよいのか」が分かったりすることで次時への学習意欲につなげていく。集団面の評価についても、効果的なアドバイスの声や関わり方を全体会で広めていく。

3　授業実践の構想

（領域・単元名　器械運動・マット運動）

今回は、『マット運動』の実践を通して主題に迫ることにした。

『マット運動』では、日常生活ではほとんど経験しない「回転する・逆さになる・バランスをとる」といった不安定な運動を行う。非日常的な運動であるため、技の習熟に大きく個人差が出ると考えられる。しかし、タイムや順位で仲間と競争する意識は少なく、自分の技能の向上を大きな喜びと感じることができるという特性もある。また、自分の動きを客観的に捉えることが難しいため、仲間との相互援助活動が大きな意味をもつ。仲間からのアドバイスによって「できるようになった」「うまくなった」と実感でき、「仲間と共に活動する楽しさ」を味わうことができる。そう実感させるためにも、中核となる技能を明確にして指導にあたりたい。

単元構想図

教科の本質に迫るための学び方を身に付けた児童の姿

（技　能）　倒立前転から前転など、2種類以上の連続技を止まらないでスムーズに行うことができる。

（態　度）　仲間の挑戦に対して、励ましやアドバイスの声をかけ、共に高まろうと関わることができる。

（学び方）　技のポイントを意識し、自分にあった課題をもち、練習場所や方法を選択して取り組むことができる。

単元出口の児童の意識

○新しい技ができるようになってうれしい。もっとうまくできるようになりたいし、他の技にも挑戦してみたいな。

○～さんにアドバイスしてもらってどんどんうまくなれたし、楽しかった。これからもお互いにアドバイスをし合いながら取り組んでいきたいな。

学 習 活 動

まとめ（発表会）

・連続技を全体の場で発表し合い、互いの上達ぶりを認め合う。

展開Ⅱ（連続技練習）

・つなぎを意識して、2種類以上の技を練習する。

・グループごとに連続技の得点会を行う。

展開Ⅰ（単一技練習）

・倒立前転や選択技を単一で練習する。

・グループごとにそれぞれの技の得点会を行う。

計画

・単元の見通しをもつ。

・グループごとに役割分担をする。

評 価 規 準

【関心・意欲・態度】

○技能の上達をめざして、何度も繰り返し技の練習に取り組んでいる。

【思考判断】

○マット運動の技のポイントについて考え、自分の課題がもてている。

○自分の力にあった技を選択し、自分に適した場や練習方法を選んで練習に取り組んでいる。

○仲間の姿を見て、的確なアドバイスができる。

【技能】

○倒立前転と既習の技を組み合わせ、スムーズにつないで連続技ができる。

単元導入の児童の意識

○倒立なんてやったことがないけどできるようになるのかな。うまくできるようになるといいな。

○失敗して倒れたらいたそうだな。どうしたらうまくできるのかな。

○いろいろな技に挑戦してみたいな。

学校所員会

研究主題

「仲間とかかわり合って学ぶ子の育成」

～生き生きとした話し合い活動を求めて（国語科の指導を核として）～

土岐市立肥田小学校　北川　慎二

１　はじめに

今年度，本校は研究主題のサブテーマや研究体制が変わった。新しくなった研究の全体構想の全職員への共通理解のためにも，１学期には，研推長として，自分が率先して指導案作りや公開授業を行ってきた。

２　研究内容

〈研究内容Ⅰ〉「話し合い活動」を位置づけた年間･単元指導計画の作成

⑴ 各学年における「話し合い活動」の位置づけ
　①各単元間の「話し合い活動」の系統性・発展性のもたせ方
　②学年間の「話し合い活動」の指導の系統性のもたせ方

⑵ 「話し合い活動」を位置づけた単元指導計画と評価規準の作成と活用

〈研究内容Ⅱ〉単位時間での必然性のある「話し合い活動」の在り方

⑴ 単元全体と各単位時間の評価規準との関連
　①必然性のある「話し合い活動」の工夫

⑵ 課題解決につながる有効な話し合いの仕組み方，方法，評価の在り方
　①小集団を生かした学習活動の工夫
　②小グループの意見の交流の場の設定
　③話し合い活動の評価の在り方

⑶ 個別の指導・援助の在り方

３　授業実践

【研究内容Ⅱ】⑵ 課題解決につながる有効な話し合いの仕組み方，方法，評価の在り方

②小グループの意見の交流の場の設定

（ア）４年国語「白いぼうし」の実践

第１場面の「松井さんは夏みかんをどのように思っているのだろうか」という学習課題で一人読みを行ったところ，課題について叙述に線を引き，想像したことを書き込むことのできる子が少なかった。そこで，ペアとグループで一人読みの交流を行い，再び一人読みをする時間を確保した。その後，交流したことで，一人読みの書き込みが増えた。また，近くの子と気軽に交流することで，意見を発表することにも慣れ，全体の場での意見も増えた。

第２場面以降では，全体交流で活発に意見が出るようになり，必ずしも小集団での話し合い活動を入れなくても，課題解決につながる学習が行えるようになった。

（イ）４年国語「『かむ』ことの力」

説明文の「『かむ』ことの力」の読解の学習を終えてから，「説明文を書こう」という「書くこと」に関する学習を取り入れた。下書きを書き終わった後，隣同士のペアとグループで原稿を見せ合い，仲間の作文を添削する授業を仕組んだ。推敲する視点をプリントに列挙し，参考にさせた。Ｋさんは，三段構成の「まとめ」の部分のまとめ方がやや弱かったが，同じグループのＹさんに読んでもらうことで，まとめをさらによいものにすることができた。そして，Ｋさんは以下のように振り返っている。

「ぼくは，まちがえた所が，すごく多かったです。Ｋさんが直してくれたし，まとめのところを一生懸命考えてくれて，最後にはいい文章を書くことができてうれしかったです」

仲間とかかわり合って学ぶことで文章力が向上する姿があり成果があった。

４　成果と課題

○「読むこと」の領域では，小グループの意見交流を効果的に活用することで，自分の考えをしっかりノートに書き，話すことができる子が増えてきた。

○「書くこと」の領域で，よりよい文章にするために有効な話し合い活動を仕組むことができた。

▲小集団だけではなく，全体の場での話し合いの仕組み方をさらに研究していく必要がある。

▲学習課題の設定はもちろんのこと，話し合いの仕組み方をさらに研究していく。また，国語科なので，叙述を基にして，自分の考えを読み深めていかなければならない。教科の本質をきちんととらえ，ねらいに迫る話し合い活動を行う必要がある。

「応援します」―各界の方から―

放課後教室の子ども

駄知放課後教室長　　後　藤　東　一

１　はじめに

放課後教室を運営するにあたって，「学校の約束は放課後教室でも守りましょう」を大前提にしながら，人間関係を滑らかにする「きちんとあいさつをしましょう」と共有するものを大切にする「しっかり後片付けをしましょう」と活動にけじめをもたせる「みんなで時間を守りましょう」の三つを「生活の約束」として設定した。

放課後教室に参加してくる子どもは，まず「こんにちは，お願いします」とあいさつをして担当者に参加票を提出することから生活を始める。そして，最後は「ありがとうございました。さようなら」とあいさつをして迎えに来た保護者と一緒に帰っていく。

あいさつは，学校だけでなく家庭でも地域でもその大切さが唱えられるが，放課後教室でもその限りではない。あいさつができない子どもにはいやがっても言わせるようにしている。あいさつができるようになるまでは子どもとの根比べである。

２　「子ども同士で・・」

家庭でテレビゲームをしている子も，放課後教室にはそうしたものがないので，いつも誰かと関わりあって遊ばなければならない。同級生がいなければ上級生でも下級生でも相手にしてもらわなければならない。

ある日，１・２年生の女児が，ボールとバットで遊びを楽しんでいるところへ２年生と４年生の男児が割り込んできた。男児が加わったためにそれまでの女児だけで成立っていた遊びが，成り立たなくなってしまった。２年生の女児は，「私たちが先に遊んでいたのに・・」と泣きながら訴えてきた。「そう，それで悲しいんだ」と，共感した上で「男の子にそう言ってごらん」と自分たちで解決するように促した。

この例のように子ども同士のトラブルが多く起き，子どもはすぐおとなを頼りに訴えてくるが，私たちはすぐにおとなとして前面に出てしまわないで，子ども同士で解決させるように心がけている。

そのためにも私たち指導員は，子どもの遊び相手になるが，遊びの主体者にはならないで補助者に徹するようにしている。

３　「今，何時？」

放課後教室に参加する子どもは低学年が圧倒的に多い。１年生のＡ男くんは，祖父が迎えに来てくれるのが待ち遠しくて何度も「今，何時？」と尋ねてくる。そのたびに時刻を伝えるが，しばらくするとまた「今，何時？」と尋ねてくる。

１年生は，日課表の時刻と時計の針が対応できない。それでダンボールの時計を作って針を区切りの時刻に合わせて「長い針がここに来るまでは学習の時間だよ」などと示しながら夏休みが終わるまで過ごしてきた。

２学期になって，Ａ男くんに「これを読んでごらん。時計の針が読めるようになるよ」と「いま　なんじ」という絵本を読ませてみた。Ａ男くんは，この本を読んだ後，時計の時刻が大体わかるようになった。１年生が，学校で時計の学習をする前に「放課後教室で教えてしまった」と言われそうだが，Ａ男くんにとってはよい意欲づけであった。

４　おわりに

夏休み最終日は，天候が不順であったが，午後雨が上がったのを見計らって校地内のごみ拾いをした。体育館のフロアーのモップがけとごみ拾いの予告はこの週の始めにしておいた。「いやだあ」という高学年の子どもには，「自分たちの学校をきれいにするのがそんなにいやなの？」と問い返したら黙ってしまった。ペットボトルをはじめとしてたくさんのごみを子どもたちは拾ってきた。

学校の施設を使わせてもらっているという認識を子どもに持たせることはなかなか難しい。でも，私たち指導員は，子どもの心にそうした気持ちを育てていくことは大切だと思っている。

そして，保護者や教師は，放課後教室に参加している子どもは「その学校の子どもである」ことを頭においていてほしい。家庭や学校での子どもの姿がそのまま放課後教室での子どもの姿である。

「心にひびく言葉」

「何事も体験・挑戦してみよう」「二兎を追う者は一兎をも得ず」

肥田中学校　　安田　卓美

いろいろな場面で思う言葉が２つあります。

１つ目は「何事も体験・挑戦してみよう」です。２つ目は「二兎を追う者は一兎をも得ず」です。「欲張るな」ということだと捉えています。

肥田中学校の校訓は「一芸に秀ずる」です。自分の興味をそそるものがあるはずです。何か得意なものを１つもってほしいと願っています。

さて，私は小学校の頃，蝉の幼虫を捕まえること(今は別のこと)が得意でした。夕方になると神社の境内近くにある木の下をじっと見つめます。よく見ると２ミリくらいの小さな穴があいています。そこに細い木の枝をつっこむと枝が動き始めます。そう，その穴の中には蝉の幼虫がいるのです。そおっと穴を大きくし，また枝を差し込み，その枝につかまらせて引き上げます。捕まえた幼虫は，木に戻したり，家で観察したりします。しかし，捕まえることはやってみないとそのコツは分からないものです。本で読んだり聞いたりしただけでは駄目なのです。興味のあることを実際に体験してみてはどうでしょう。

また，教師になったばかりの頃には，あれも教えたい・これも教えたいといくつも１時間の中で教えようとしていました。子どもの側からすれば何を覚えていいのか分からなかったことでしょう。

私がゴルフを覚えた頃，あれもこれもと言われながら練習した時に「やっぱり課題は１つか２つだなあ」とつくづく感じたものでした。できる人からすれば簡単なことでもできない人にとっては非常に難しいことなのです。ひとつひとつ順番に身に付けていくことがベストのような気がします。

さあ，今から体験してみましょう。挑戦してみしましょう。しかし，欲張ってはいけません。

掲　示　板

◇全国中学校体育大会での活躍

〇陸上　井野拓哉（土岐津中２年）　800m　準決勝進出　　1500m　予選落選

〇柔道　65 kg級　渡辺晃子（肥田中３年）　１回戦敗退

◇岐阜県吹奏楽コンクールでの活躍

県大会　B編成の部（30 人）　金賞　土岐津中学校　　銀賞　駄知中学校

A編成の部（50 人）　金賞　泉中学校

◇土岐市発明くふう展

	《くふうの部》	《絵画の部》
土岐市長賞	渡辺　明里（泉小６年）	奥野　雄貴（泉西小６年）
土岐市議会議長賞	平野　雄也（駄知中２年）　宮川　幸大（下石小３年）	
発明協会土岐支会長賞	籠橋　映莉子（駄知小５年）　えぐち　みちとき（鶴里小２年）	
土岐市経済環境部長賞	かのう　なお（土岐津小２年）	曽我　紀薫（泉西小３年）
土岐市教育長賞	石原　正浩（駄知中２年）　伊藤　里紗（泉小４年）	
土岐中央ＲＣ会長賞	きまた　みき（肥田小２年）　飯塚　栞（土岐津小２年）	

土　岐　市　教　育　研　究　所
ＴＥＬ　0572-54-1111（内281）
ＦＡＸ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４２５
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発行日　平成１９年１０月３１日
題　字　白　石　聡　教育長

流鏑馬祭り　『手作り鎧で、ちびっこ武者行列』

撮影：妻木幼稚園　副園長　石原桂子

「5月・１０月そして2月」　節目の月？ということ

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

人生において厄年というものを幾度か経験していきます。自分にとってその年に大きな変化があったとは言い切れませんが、長い目でみるとその年齢の頃に何か節目の出来事が起こっているということも確かなようです。

年度という期間で考えてみると、厄年ではないですが、「厄月」と思われる節があります。４月に新年度・新学期が始まり、多くの問題が最初に生じる月が５月です。４月には新しい出会いがあり、自分を出すことより、まわりの状況をうかがう月となります。

５月になると、自分を出すことや自己主張を始めます。それは子ども同士、先生と子ども、保護者と先生の関係においても同様です。自己主張は大事なことですが､摩擦やすれ違いも生まれます。成長や発展の過程での自然な流れでもありますが、諸問題が発生する最初の節目の月ともいえます。

次の変化は１０月です。９月は運動会や体育祭を核として大きなエネルギーを生み出します。そのエネルギーはお互いを更に高めることもしますが、形で結び合っていた関係から、結果も求める関係に変わってきています。その中で、結果からお互いを判断したり評価したりするようになります。また、こんなことは分かっているという錯覚や慣れからくる問題も多く起こり、小さなことでも、結果責任に基づいた説明責任が強く求められるようになります。

最後はあくまでも予想ですが２月です。それまでの指導や活動の結果から見方が決定され、この先生は、この学校はという信頼感や不信感が明確になり、子ども・保護者・地域そして職員間でも態度となって現れてきます。

毎日、子どもを見届けることは無くてはならないことですが、一年間またはある程度の年月のなかで、節目をつかんで見ていくことで、その場での対応や指導にゆとりがもてるような気がします。

学校所員会

研究主題

「命を大切にする心をはぐくむ道徳教育」
～自他を大切にし，よりよく生きる子の育成

土岐市立泉西小学校　杉浦　英美

１　はじめに

本校では，今年度から文科省より「児童生徒の心に響く道徳推進事業」の指定を受け，上記のテーマを掲げ，道徳の研究に取り組むことになった。

相手を思いやり，助け合い，支え合う心を育てることができれば，自分も他も大切にする心が育ち，それが命を大切にすることにつながっていく。そして，よりよく生きる子を育成できるのではないかと考え，実践を進めている。

２　研究内容

＜研究内容１＞ 道徳の時間における自己をみつめるための手立ての工夫

①児童が自己をみつめることができる資料の選択
②児童の心が動く発問の在り方
③児童の変容を確かめるための評価の在り方

＜研究内容２＞道徳の時間との関連を図った体験学習の在り方

①相手を思いやった聞き方を身に付けるための手立ての在り方
②相手を思いやった言葉遣いを身に付けるための手立ての在り方
③児童の主体的な活動を通して豊かな心を育てるための手立ての在り方

＜研究内容３＞家庭・地域との連携

３　授業実践(1 学年)

主題名　　みんななかよく　内容項目　２－(３)
資料名　「およげないりすさん」

＜研究内容１－②について＞

本時のねらいを達成するためには，中心発問でりすを置いてきてしまった負い目から少しも楽しくない３匹の気持ちに十分共感させる必要がある。中心発問の前にまず，りすの寂しそうな顔の絵を提示し,「こんな顔のりすさん, 何て言っているでしょう」と発問し，置いていかれたりすの悲しい気持ちを押さえた。その上で，寂しそうな表情が分かる３匹の顔を提示し,「３匹は心の中で何て言っているでしょう」と発問した。りすの気持ちを押えておいたことで,「りすさんがいないと楽しくない」「りすさん今頃泣いているだろう」「りすさんに謝ったほうがいいな」「りすさんも連れて行きたいな」といったりすのことを思う多様な考えが出てきた。さらに,「りすさんにだめといった時どんなことを考えていたか」と補助発問をすることにより，初めは自分のことしか考えていなかった３匹の心の変容に気付くことができた。

さらに，次の日，みんなで島へ行く時どんな会話をしたか役割演技をさせた。始めに隣同士でやってから，みんなの前で行うことにより児童の抵抗を和らげることができた。ここでの役割演技により,「みんなと一緒だと楽しい」という本時の価値を押えることができた。

また，あらかじめ板書計画をきちんとしておくことで，教師が授業のイメージをしっかりもち，児童の発言をまとめて板書するようにした。授業では, 一人一人の意見をきちんと聞くことができ, 一問一答にならず，発言につながりをもたせることができた。

＜研究内容１－③について＞

終末で「心のノート」を活用し，仲良くする場が遊びだけでなく，勉強，掃除，給食でも同じであることを意識できるようにした。「心のノート」の写真にクラスの児童の写真を重ねることで，自分たちの生活と結びつけて考えることができた。また，できていたらシールを貼り，現在の自分を振り返ることができるようにした。

そして，１時間の道徳の時間だけを考えるのではなく，事前に生活科「公園で遊ぼう」や，帰りの会での「美しい心みつけ」で，仲良く遊ぶことについての意識をもたせておいたことにより，児童の実態を捉えた授業づくりをすることができた。

４　成果と課題

○児童の実態把握をきちんとしておくこと，発問を精選し，児童が思いを話しやすい言葉で発問することによって価値に迫る多様な考え方を引き出すことができた。
○「心のノート」の効果的な使い方を考えることで，自分たちの生活と結びつけて考え，今後の生活に生かすことができた。
○事前に価値についての体験学習を意図的に位置付けて取り組むことによって，授業に向かう意識が高まり，ねらいに迫ることができる。
▲研究テーマ「命を大切にする心をはぐくむ道徳教育」の「命」の部分にいかに迫っていくかを考えていく必要がある。

学校所員会

研究主題

仲間と学びを深める授業

土岐市立駄知中学校　有賀　良子

1　はじめに

本年度は，昨年度の研究の反省から，かかわりの場での深まりを生み出すために，以下に示した研究内容の（2）を中心に研究を進めている。

2　研究内容と今年度の方向　(重点アンダーライン)

（1）生徒に必然性のある課題の設定の工夫

①生徒にとって必然性のある課題にするための意識や実態の把握と単元指導計画の作成

②単位時間ごとの素材と題材化の工夫

（2）個人の追求や活動の足場を持たせる指導・援助の在り方

・課題に対する生徒の反応を予測した個に応じた指導・援助

（3）自分の考えや活動を伝え合う場の設定の工夫

①本時のねらいを達成するためのかかわりの場の設定→かかわりの場とねらい

②かかわりの場における生徒の発言や活動の組織化

→生徒の反応を活かした学び合いの場づくり

③学習の深まりを自覚できる自己評価の在り方

→学習カード・ノートの活用

3　授業実践　1年生　「ほころび直し」

研究内容（2）課題に対する生徒の反応の予測と個に応じた手だての実際

生徒のつまずきを予測し，次のことを全体の生徒への指導とした。示範のみでは縫い方が理解できない生徒へ模型を使って縫い方を確認させた。

＜A班では＞　T:教師　H:班長

T:「①に中から針を刺して出します。②の糸を2本すくって下さい。まだ糸を引いてはいけません」

H:「こりゃおもしろいわ！」

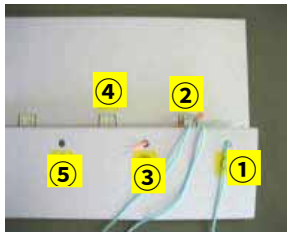
(②で糸を引こうとする)

B:「まだ引っ張ってはいかん？」

T:「糸をたくさんすくってみると違いが分かりますよ」

H:(3本とってみる)「こんなに出ちゃうよ」

(裏返して見る)「次やりたい人」



Dさんはこの時さわることができず，まだ縫い方が理解できていなかった。練習に入る前に，分からない人は模型で確認をすることと，パソコンで示範がもう一度見られることを伝えた。Dさんは仲間が練習に入っているときに模型を使って確認して「分かった！」といって練習に入った。

練習布には補助線を付けておき，点をすくって縫うイメージをしやすいようにした。机間指導で、縫えないだろうと予測していたEさんとFさんは、布になると予測通りうまく縫えない様子であったため，以下の助言を行った。

「ゆっくり一つ一つを確実にやっていこう。まず点をすくって。(励ましながら待つ) そのまま針を布の中に入れて下の点に出して。(待つ) ゆっくり糸を止まるまでしっかり引いて。(待つ) できた！裏を確認してみて，きれいにできたね」

この助言でほとんどの生徒は縫えるようになった。2，3針分を見届ければよい。点の付いた布が有効に働く。実際の布にも点を打つように指示する。

机間指導から糸がたるんでいる状況にあるGさんを確認し助言を行った。

T:「糸がたるんでしまっているから布が浮いてしまうよ」

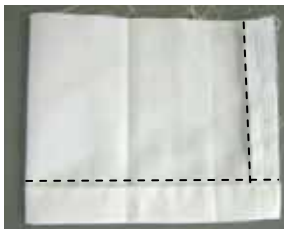
G:(布を触って)「ほんとだ，引っ張って縫えばいい？」

T:「そうだね。でも，引っ張りすぎると今度は布がつっ張るよ。(糸をぎゅっと引いてみる)」

G:「ほどよく引っ張らないといけない？」

T:「そうだね。それから，こうやって布をしっかり張るといいよ。(持ち方を示す)」

また，実際のほころび直しに対応できるように筒状の布を用意した。「自分でバランスがとれないという人は点を打ちましょう」と点の打ち方を示した。



4　成果と課題

○段階的に指導・援助を考えておいたことで，生徒に無理のない指導を行うことができた。

○生徒のつまずきを予測し，個への指導・援助を明確にしたり，要援助生徒への配慮を考えておいたりしたことで，生徒の姿に応じてすぐ指導・援助を行うことができた。

▲さらに指導と評価を一体化させるために，生徒に声をかけることを通して，できるのはなぜか，できないのはなぜかを探り，より適切な指導・援助をする。

▲さらに意図的に机間指導を行う。

→①どの段階にいるか把握する。→②指導・援助（少集団・個）→③できているかを確かめる。

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　泉小学校　清本　直子

(前号より)

4　実際の授業より　**第5学年　体育**　[　器械運動　]

単 元 名	マット運動
本時の目標	技　能：倒立姿勢から体を傾け、肘を曲げ、あごを引いて前転に移るタイミングをつかむことができる。 態　度：仲間の挑戦に対して励ましやアドバイスの声をかけ合える仲間になる。 学び方：自分に合った課題をもち、練習場所や方法を選択して取り組むことができる。

	ね　ら　い	学　習　活　動	教師の指導・援助
つかむ	全体のめあてを受けて、グループや個人で本時のめあてをもち、練習場所や練習方法を選択することができる。	1．準備・準備運動をする。 2．全体会で今日のめあてをもつ。 ◇倒立から前転するために肘を曲げ、あごを引くタイミングをつかむことができる。 ◆お互いの姿について、励ましやアドバイスの声がかけ合える仲間になる。 3．グループや個人の課題・練習方法についての確認をする。	・倒立姿勢から体を斜めに傾け、倒れかけた後、肘をゆっくり曲げ、あごを引いて前転に移ることでスムーズに前転ができることを確認する。
深める	個人の課題に応じた練習を選択し、つまずきを克服しようとグループで教え合いながら練習することができる。	4．グループ練習をする。 5．つなぎを意識して倒立前転から前転の連続技を練習する。 6．グループで得点会をする。 	・倒立から前転に移るタイミングがつかめていない児童には、脚をもって補助しながら肘を曲げたりあごと引いたりするタイミングを体感させる。 ・つまずいている児童の原因を問い、どうしたらよいのかをグループの仲間に考えさせる。 ・段階表を活用して得点をつけているかどうかを確認しながらグループを見て回る。
まとめる	グループの練習や得点会の様子から本時の成果と次時の課題を明らかにすることができる。	7．グループで今日の授業の振り返りをする。 Ｌ・ＰＯ・ＭＯを中心に課題やめあてについての振り返りをし、次時の課題やめあてにつなげる。 8．全体会でグループや個人の成果を交流する。 今日の成果と課題を意識して、次時からの選択技やつなぎの練習方法を工夫していこう。 9．後片づけをする。	・課題に向かって粘り強く練習に取り組んだ児童や仲間の頑張りを認めて活発にアドバイスや補助ができていたグループを大いに価値付け、全体会で広めることで次時への意欲化を図る。

5　授業後の考察

○魅力ある導入

前時までの児童の様子では、倒立姿勢から前転に移る際、体が倒れかける前に肘を曲げたり膝を曲げたりして、つぶれてうまく前転ができない児童が大変多くいた。倒立で静止した後、体が斜めに傾くまでは、肘、腰、膝を伸ばしたままの姿勢を保ち、ゆっくりと肘を曲げてあごを引くことを意識させる必要があった。そこで、倒立前転の様子を連写した写真でポイントを押さえた後、児童の代表にも示範をさせた。仲間が、倒立できちんと静止し、スムーズに前転に移る姿に「すごい！」と発する児童が多くいた。脚が上がらず、一人では倒立をすることが困難な児童にも、倒立から前転に移るタイミングを体感させるために、補助を用いて倒立姿勢をとらせた。その後、徐々に体を傾けさせ、肘を曲げ、あごを引いて後頭部をマットに着く練習をするよう実際の動きで提示した。それによって、練習の見通しをもつことができ、「やってみよう」という意欲につながった。

○広がり･深まりのある追究

倒立前転の段階表で技能上達のポイントを児童と一緒に確認し、運動の絵とともに児童の言葉（「手は肩はば」「頭を起こす」…）を掲示物に位置付けた。また、運動習熟や様相発展のみちすじを明らかにし、予想されるつまずきや課題も掲示にした。そして、相互援助活動を位置付けて活用したことで、互いの姿からつまずきを見つけてアドバイスし合う姿が見られた。その姿を全体会の場で価値付けたことにより、積極的に声をかけ合う姿が多くみられた。練習方法についても、紹介されているものを自分たちでアレンジして挑戦する姿がみられた。振り返りカードにも、「「○○さんの腰を伸ばして」というアドバイスのおかげでうまくできるようになってうれしい」という内容の記述があった。

これらのことから、段階表に技能上達のポイントや予想されるつまずきとそれを克服するための練習方法を位置付けた掲示は、相互援助活動を活発にさせるために有効であったといえる。

しかし、児童に提示した口リズムに、本時ねらう動きの一部が不足していたため、口リズムだけではタイミングがとりづらい児童もいた。

○自己の変容を自覚させる評価

段階表をもとに得点をつけたり、自分の姿について仲間がきちんと見てアドバイスをくれたりすることで、自分の演技を客観的に評価できた。「自分の得点がどうしてそうなったのか」「どうすれば得点があがるのか」を明らかにし、何とか得点を上げようと意欲をもつことにつながった。振り返りの個人カードには、次時への意欲だけでなく、具体的に自分のつまずきをあげ、次時の課題や練習内容を具体的に記入することができる児童が多かった。

〈成果と課題〉

○運動習熟のポイントを理解させ、めざす姿と自分の姿を比較してつまずきを明らかにし、どうすればめざす姿に近付くのかという見通しをもたせたことが、学習意欲の向上につながった。

○相互援助活動を位置付け、共に高め合うことに価値を見いださせたことで、仲間と関わることに喜びを感じ、積極的に仲間と関わろうとする児童が増えた。

○評価規準を明らかにし、どの場面で、どんな手立てをとるのかを明確にもって単元構成・授業展開を考えることで「できた」「うまくなった」という喜びや楽しさにつなげることができた。

●どの児童にも「できた」「うまくなった」と確実に感じさせることができるよう、多様な児童の実態に応じて的確な指導･援助ができるよう、練習の場や方法を準備する必要がある。

土岐市　小・中学校

ニューフェイスの紹介

◆土岐津小学校　　丸井耕平

はじめて高学年を担任し，不安と期待の入り混じった４月から，はや６か月が過ぎました。２学期になり，運動会の応援指導に続き，初任者研修の研究授業，自然の家合宿と全校や学年を動かす大きな行事に全力で取り組み充実した毎日を送っています。

こうした中で，子どもたちと真剣に向き合い，子どもたちとともに学び合い，成長していける教師をめざして頑張りたいと思います。

◆土岐津小学校　　町野恭子

土岐津小学校に赴任して半年。一番感動したことは，土岐津っ子をそのまま表したような，明るく元気な歌声の校歌です。その校歌の中に出てくる「ひかりの子ども」，「ちからの子ども」という歌詞が，私は大好きです。この歌詞のように，笑顔や希望という“光”と，どんなことにも突き進むことのできる強い“力”を胸に，子どもたちとともに日々成長していきたいと思います。

◆妻木小学校　　三根　由佳利

土岐市に赴任してはや半年。初めての生活に不安ばかりでした。つらいと思うときもたくさんありますが，そのたびに妻木小学校の素直な子どもたちの笑顔や，言動に励まされ，教師になってよかったと思う日々です。

「学校は楽しいところだ」と，たくさんの子どもたちが思えるよう，常に子どもと接しながら，学校でこそ学ぶことができるよさを伝えていきたいと思います。

◆駄知小学校　　安藤基記

この半年のことを思い起こすと，楽しいことばかり頭に浮かびます。辛いこともたくさんあったはずなのに，不思議と浮かんでこないのです。「松ぼっくり，先生にあげる」「先生，お祭りで踊るから見に来てね」子どもたちのちょっとした一言が私を支えてくれています。また，先輩の先生方，保護者の方々，たくさんの人たちに支えられ今の自分があること，その感謝する気持ちを忘れないようにしたいと思います。

◆駄知小学校　　野畑亜矢子

初めての土岐市，初めての担任，初めてのことばかりの４月から，気が付けばもう半年。元気で素直な子どもたちや周りの先生方に助けられて，充実した毎日を過ごしています。

日々反省することばかりですが，人に教えるという立場の者として，自分自身学ぶことの大切さを感じています。子どもとともに活動し，共に成長していくことができる教師であるよう頑張っていきます。

◆肥田小学校　　服部悦子

この半年間を思い返すと，家庭訪問で泣いたり，授業が進まず焦ったり，通知表を書くのに四苦八苦したり…。初めての仕事と一人暮らしに精一杯で，正直言って子どもたちのことは後回し。それでもついてきてくれた子どもたちに，本当に感謝しています。最近は子どもたちと遊ぶ機会が以前より多くなりました。もっと素敵な学級になるよう，先生方や研修から学んだことを還元していきたいです。

今年度、土岐市へ着任された初任者は、この１２名です。
『半年間を終えての思い』を掲載しました。

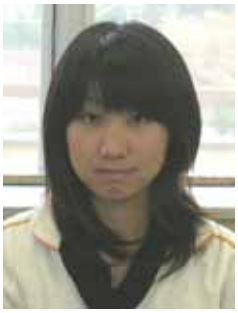
◆泉小学校　　林一也

教員となり、土岐市に来て６か月が経ちました。初めは慣れない土地で、また、わからないことだらけの中でやってきましたが、この６か月の間に、周りの先生方やかわいい子どもたちに支えられて、充実した毎日を過ごすことができるようになりました。「土岐市で教員になってよかった」「子どもって本当にすごいな」と思える経験を積み重ね、一日一日を大切にして頑張っていきたいです。

◆泉小学校　　三倉絵理香

初めて教壇に立った４月から、もう半年が過ぎました。何もわからずに悩む毎日でしたが、泉の素直で明るい子どもたちに支えられ、今では毎日を楽しく過ごしています。子どもたちは日々成長しており、その成長を一番近くで実感できることが何よりも嬉しく思います。「教員になって本当によかったなあ」と思える瞬間でもあります。この喜びを毎日の糧にして、これからも明るく頑張っていきます。

◆泉西小学校　　林真未



４月に初めて土岐に来て，仕事，一人暮らしを始めてから６か月がたちました。まだ慣れないことが多いですが，自分にとって土岐市や泉西小学校がとても愛着の深い場所となっています。毎日子どもと過ごす中，一人一人の笑顔や頑張りから元気をもらっています。運動会では，一人一人の努力を認めていきながら，最後に力を合わせて勝てたことでクラスみんなと喜び合うことができ，とても心に残っています。これからもかわいい子どもたちと一緒に頑張ります。

◆西陵中学校　　山田勇樹

不安と期待の入り混じった４月から，早くも半年が過ぎました。なかなかうまくいかないことがありますが，周りの先生方や西陵中の生徒たちに支えられ，充実した毎日を送ることができています。また，このような日々の中で，「教師は，本当に人と人の関わりが大切な職業だ」ということを実感しています。この土岐市での一期一会の出会いを大切にし，教師として，仲間を大切にする生徒を育てていきたいと思います。

◆泉中学校　　座馬敬典

期待と不安で過ごした４月。授業がうまくいかず悩んだ５月。教育実習生を指導する立場が逆に多くを教わった６月。雨が降る中，何度も水泳の授業を強行した７月。強い日差しの中，部活に明けくれた８月。体育大会一色，雨が降りぬかるんだグランドでも全力で本番をやりきった９月。これまで多くの人に支えられ，やってくることができました。常に感謝の気持ちを忘れず全力で頑張っていきたいです。

◆泉中学校　　村瀬智美

初めての岐阜県，初めての土岐市，初めて出会う子どもたち。４月当初は不安もありましたが，温かい先生方や地域の方々に囲まれ，幸せな環境で仕事ができることにとても感謝しています。とくに，前期を締めくくる体育大会では生徒たちのパワーから大きな感動をもらい，あらためて教師になってよかったと実感しました。

子どもたちと感動をともにし，一歩ずつ「前へ」進んでいく教師を目指したいです。

「心にひびく言葉」

『ピンチのあとにチャンスあり』

土岐津小学校　　丹羽　弘毅

プロ野球楽天の田中将大投手が，新人ながら１１勝をあげて今シーズンを終えました。初勝利は，４月１８日。簡単に，初勝利を手に入れたわけではありません。前３試合は失敗し，４試合目でした。この試合，先制点を与え，なおノーアウト満塁というピンチ。このピンチを３者連続三振で，きりぬけました。田中投手は，このピンチをきりぬける力をもっていました。打線もチャンスをいかし，逆転。完投で初勝利をあげました。野村監督の我慢して育てようという気持ちがもたらした勝利ともいえます。

『ピンチのあとにチャンスあり』

心にひびく言葉というより，心にひっかかる言葉です。最近，この言葉がやけに心にひっかかります。

昔の話，教師になって４年目のことです。市内の中学校に勤務し，その学校で野球部の顧問になりました。当時，市内中学校６校すべてに野球部がありました。６校だったので，夏の中体連市内大会は，３校ずつ２つに分けた予選リーグと決勝トーナメントで優勝を決めていました。決勝トーナメントに進むには，予選リーグで２位以内に入らないといけません。この年，予選リーグで３校すべてが１勝１敗になりました。そこで，決勝トーナメントに進む学校をくじ引きで決めることになりました。ピンチ！

くじで負ければ，予選敗退。当然，以後試合はなし。勝てば，決勝トーナメントに進むことができます。くじを引きました。結果，当たりくじを引くことができました。チャンスをもらいました。そして，決勝トーナメントに進み，市内大会優勝。その後，このチームは東濃大会優勝，県大会準優勝。東海大会まで進みました。このチームの選手たちは，自分たちでよく練習もしていました。

最近，いろいろなできごとを体験します。ピンチなどない方がよいのですが，ピンチになることもあります。それをきりぬけ，その後のチャンスをいかすには，普段からしっかり取り組み，力を付けておかないといけないと痛感しています。

掲　示　板

◇東濃地区中学校体育大会　（10 月 13 日（土）　中津川市椛の湖総合グラウンド）

○駅伝　男子　土岐津中学校（優勝）　女子　西陵中学校（４位）

区間賞　男子　１区　井野　拓哉（土岐津中）　２区　羽田野　裕（土岐津中）

３区　小島　一貴（土岐津中）　６区　勝股　聖（土岐津中）

【土岐津中男子・西陵中女子の２チーム　→　県大会出場　11 月 10 日（土）】

◇岐阜県児童生徒科学作品展　東濃地方展

○優秀賞　（☆印のついた優秀賞の作品は県展へ出品されました）

駄知小学校	２年	つか本　じゅん一	☆駄知小学校	４年	日比野　裕太郎
駄知小学校	５年	水野　沙耶	☆泉小学校	５年	水野　里香
☆妻木小学校	６年	水野　朱梨	駄知中学校	１年	水野　奈穂
☆肥田中学校	１年	加藤　愛	☆濃南中学校	２年	木村　健太
☆泉中学校	３年	澤田　裕香子			

○優良賞

駄知小学校	１年	ひびの　ゆき	泉小学校	１年	いとう　ちひろ
土岐津小学校	２年	今井　ほのか	妻木小学校	２年	かとう　なほみ
妻木小学校	３年	大野　純平	泉西小学校	３年	奥野　彩花
泉西小学校	３年	土田　花栄	鶴里小学校	４年	渡辺　麻実
泉小学校	４年	古田　知宏	妻木小学校	５年	加藤　有美恵
泉小学校	５年	今井　桃子	妻木小学校	６年	山崎　香南
駄知小学校	６年	渡辺　絢菜	濃南中学校	３年	松本　彩那

土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４２６
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発　行　日　平成１９年１１月３０日
題　字　白　石　聡　教育長

西陵中学校　『職場体験』

撮影：西陵中学校　岩田健志　先生

撮影：西陵中学校　田島みどり　先生

バランス感覚は身に付いていますか

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

景色は観る場所で大きく変わるもので，それぞれのよさがあり，また，そのときの心情によるところも大きいものです。先生方はできる限り，多くの場所や場面から，子どもを観ようとされており，その中で，その子のもつよさをみつけ大事にされる指導を行ってみえます。実に的を得た指導ではないでしょうか。

私は以前こんな思いに何回もたったことがありました。それは，教師としてあってはならないことですが，この子さえいなければこの学級はうまくいくのにとか，よい授業ができるのにということです。ひとりの悪者を自分のなかにつくりあげることにより，自分を美化したり，安心感をもちたいという気持ちをつくりあげたりしようとしたことがありました。その考えは，一方的に子どもを観る眼でしかありません。ある面では，やっかいであった子どもであったことも確かですが，自分の見方や指導の甘さにその原因を求めませんでした。実に，情けないことでした。

体育の授業で，前を向いて平均台を歩くときに，足の裏で平均台の感触を確かめながら，両腕でバランスをとって歩きます。このバランス感覚はことばで理解できるものではなく，何回もやっているうちに体全体で覚え，身に付いてきます。

ひとつのことをやっていくとき，多様な発想や方法を考え，試行錯誤を繰り返す中で，よりよい方法が見いだされます。一方的な見方は，自分は納得しても，まわりの人たちには理解できなかったり，分からなかったりすることも多々あります。私たち教師は，一人でできることは知れています。この先のことやまわりの状況を常に感じ取ることができる感性，バランス感覚が一歩前進のカギではないでしょうか。

学校所員会

研究主題

「生き生きと」伝え合う子の育成

～少人数学級の特色を生かし，一人一人の伝え合う力を伸ばす国語科の指導法の工夫～

土岐市立曽木小学校　　伊藤　立子

1　はじめに

本校では，生き生きと伝え合う姿を「自分の考えをもち，相手を意識して分かりやすく話せる。相手の伝えたいことを正しく聞き取る。仲間の考えを取り入れて，自分の考えを深めたり広げたりできる」と捉えている。相手や場面に応じた具体的な「話し方・聞き方」を身に付けるために，少人数学級のよさを生かし，一人一人の実態に合わせた指導援助を考えながら実践を進めている。

2　研究内容

＜研究内容1＞

「伝え合う」力を伸ばす指導計画の工夫

・つけたい力を明確にした単元配列表の作成
・５つの言語意識を位置付けた指導計画の作成
・具体的な「話し方・聞き方」が分かり，効果的な「話す・聞く」場を設定した学習活動の工夫
・達成感が得られ，次の課題を意識できる評価の工夫

＜研究内容2＞

少人数学級のよさを生かした指導･援助

・学びの過程を明らかにした机列表カルテの作成
・子どもに確かな学びを成立させるための具体的な指導の手立て

3　授業実践

第３学年　国語科「分類」ということ
「せいとん名人」発表会の練習

１学期の授業実践での課題「練り合える子どもたちの育成」を受けて,次のような実践を行った。

＜研究内容1＞

･具体的な「話し方･聞き方」が分かり，効果的な「話す･聞く」場を設定した学習活動の工夫

本単元では４つの「話す･聞く」場を設定した。

①猫の絵を見て，さまざまな観点で分類し，どのように分類したか話したり聞いたりする場
②インタビューの仕方を理解し，練習する場
③「せいとん名人」発表会の練習をする場
④「せいとん名人」発表会を行う場

単元の後半では「せいとん名人になろう」という課題を設定し，自分のやってみた（調べた）「分類」について発表することにした。③の発表会の練習場面では，発表メモを作りそれをペアで聞き合って練習する活動を仕組んだ。聞き手は聞く観点を意識して聞き，話し手のよさを学んだりアドバイスをしたりし，お互いの話し方をさらに分かりやすいものにしていくことをねらった。

【聞く観点】
・筋道立てて話すことができていたか。
　①どのように分類したか。
　②どんな工夫をしたか。
　③どんなことに役立っているか。便利か。
・はっきりと適切な声の大きさ・速さで話しているか。

ペア活動を２回行い，１回目のペアにアドバイスしてもらったことを意識して２回目に話す姿があった。また，２回ペア活動を行ったことで，発表メモを見ないで話したり，自信をもって話したりすることができるようになった。授業の終わりには，一人一人上手になったことを話すことができた。

＜研究内容2＞

･学びの過程を明らかにした机列表カルテの作成

少人数であることを生かし，本単元での一人一人の実態，本時の願う姿，指導・援助を机列表に明記し，それを活用した個別の指導・援助を行った。ペア活動を行っているときや発表メモを見直しているときに，一人一人に指導・援助を行うことで，本時の願う姿に近づけた児童が多かった。また，本単元での４つの「話す・聞く」場でそれぞれ机列表カルテを作成したことで，一人一人についた力やつけたい力が明らかになり，評価に生かすこともできた。

4　成果と課題

○机列表カルテや意図的なペアの組み方など，少人数であることを有効に活用でき，児童の伸びる姿があった。
○「話す・聞く」活動の場の設定やペア活動により，具体的な「話し方・聞き方」を理解することができた。繰り返し練習することで，自信をもって話すことができるようになった。
△中学年の目標である「筋道立てて話す」とは，本単元では出口でどういう姿になることか（どのような話し方ができるようになることか）具体的に考え，評価規準を明確にしていく。

学校所員会

研究主題

生徒がいきいきと取り組み，確かな学力を身につける授業づくり

土岐市立濃南中学校　久米　徹

1　はじめに

本校は，土岐市教育委員会指定教育課題研究推進校として，「生徒が生き生きと取り組み，確かな学力を身につける授業づくり」を研究主題として昨年より取り組んできた。学ぶ楽しさのある授業を成立させるためには，学ぼうとする力，学ぶ力，学んだ力，いわゆる確かな学力を身につけることが重要であると考えた。確かな学力を身につけさせていくには，授業のねらいを達成するために，生徒の具体的な活動（生き生きとした取り組み）を仕組み，それを評価し改善していくことにより，生徒一人一人に確かな学力をつけることができると考え，研究を進めてきた。

2　研究内容

(1)**「本時のねらい」「生き生きと取り組む場面」「評価」を位置づけた指導計画の作成**

(2)**「生き生きと取り組む」学習の明確化**

・学習のねらい（つけたい力）の明確化

・本時の「生き生きとした取り組み」の明確化

(3)**「生き生きと取り組む」ための授業づくり**

・課題解決の見通しをもたせる工夫

・生き生きと取り組むための学習展開や学習形態の工夫

3　授業実践　２年生歴史的分野

「第二次世界大戦とアジア　戦時下の国民生活」

〈研究内容１〉

指導計画の中に「本時のねらい」「生き生きと取り組む場面」「評価」を位置づけた学習計画を作成した。

〈研究内容２〉

１時間の授業の中で「生き生きと取り組む」学習を明確にするため，本時の「学習のねらい（つけたい力）」を「戦時下に生きた人々のようすを調べることを通して，すべてが戦争のために向けられた当時の厳しい国民生活を読み取ることができる」とした。そして,「生き生きとした取り組み」を「資料をもとに課題に対する自分の考えを書く姿と，資料の中の言葉を使って，自分の考えを仲間に伝える姿」と設定した。

〈研究内容３〉

「生き生きとした取り組み」を生み出すために課題解決への見通しをもたせることができれば，生徒は生き生きと取り組み，確かな学力を身につけることができると考えた。

課題設定の場面では，実物資料として陶器製代用品の「水筒」や「コンロ」を提示し，生徒に興味・関心をもたせた。

さらに個人追究の場面では、「戦争中の暮らしの記録」の資料をもとに国民生活について資料の中の言葉を使って書き出した。また，全体交流の場では，「国家総動員法」の資料をもとに，当時の日本国民が苦しい生活に耐えてきた理由を考えるようにした。仲間の考えと関わり合う中で視野を広げたり，深く考えたりできるようにした。

4　成果と課題

○課題解決の見通しをもたせることで，生徒が課題意識をもって，意欲的に学習活動を行う姿が見られるようになってきた。

○学習展開を工夫し，授業の中で生き生きと取り組む場面をつくることによって，授業への参加意欲や集中度が高まり，グループで自分の考えを述べたり，考えをまとめて書いたりすることができる生徒が増えてきた。

△実物資料を用意して学習に取り組んでいくことは有効な手段であるが，資料そのものがもっている意味を考えさせ，生徒への提示の仕方や取り組ませ方を工夫していくことが必要である。

△資料をもとに考える場面では、どんな視点で読み取るのかを明確に示し，視点を明らかにすることで生徒の思考に広がりや，深まりをもたせることが大切である。

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　泉中学校　西尾　新

１　はじめに

国語科では「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」ことと「思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにして、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てる」ことを目標としている。そこで今回の実践では豊かな表現力（伝え合う力）や言葉への感性（言語感覚）を育てるために「言葉を操作する」ことを大切にしていきたい。こうすることで質の高い「話す・聞く」「書く」「読む」へとつながり、生徒の「もっとやりたい」「できるようになりたい」という意識になっていくと考える。

２　研究構想

〈土岐市の教育課題〉

学ぶ楽しさのある授業

〈研究主題〉　言葉への感性が育ち、豊かに表現できる生徒の育成
～「言葉の操作」を大切にした授業作りを通して～

国語の授業では、５つの言語意識（相手・目的・場面・方法・評価）をもって、様々な言語活動を行うことを大切にしている。言語活動を行う際、作者や筆者の表現の意図を読むこと、相手や目的によって表現方法を工夫して書いたり話したりすることで、言葉への感性が育ち、豊かに表現できる生徒の育成につながると考える。

主体的な学習意欲を引き出す単元構成

単元の出口には魅力ある言語活動（ディスカッションやショートストーリー作りなど）を仕組み、その言語活動の質を高めるために「読む」という学習を位置付けた単元を構成する。これが生徒の意欲や知識、技能を身に付けることにつながると考える。

○魅力のある導入

言語活動の手本となる姿や本時に目指す具体的な姿や学習のポイントを示すことで、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにしていく。

○広がり・深まりのある追究

学習の追究の段階において、広がり・深まりがみられる場面は生徒同士の意見交流、教師の発問による考えの再構築によって生み出されると考える。こうしたことをふまえ、４人から５人程度でのグループ学習を組織したり、教師の指示ばかりではなく、生徒の発言・つぶやきなどから発問したりするなど、学習形態や流れを大切にした授業を展開していく。また、「言葉を操作する」ためにも言葉を調べる・取り出す・置き換えるなどの言語操作を大切にしていく。

○自己の変容を自覚させる評価

「読むこと」の授業であれば、授業の終末に本時のまとめを書く活動（２００字・５分程度）を位置付ける。このまとめは、１段落目に課題に対する結論、２段落目には本文の言葉を交えながら結論について説明を書かせる。文章の構成や各段落に書く内容を明確にすることにより、「しっかり内容が理解できるようになった」「短い時間で書けるようになった」という気持ちを味わわせるようにしたい。

３　授業実践の構想

（単元名：人間のきずな～友情物語を書こう～　２年生）

本単元では、単元の出口に友情をテーマにしたショートストーリーを書く活動を位置付けた。そして、ショートストーリーを書くためのコツを教材文『盆土産』で学ばせる。コツとは、情景や人物、行動、様子の描写、会話文や脇役の工夫などのことである。これらを「言葉を操作する」ことを通して気付かせ、その効果について考えさせていく。

単元構想図

教科の本質に迫るための学び方を身に付けた生徒の姿

○　情景描写や様子を表す言葉などと登場人物の心情を関係付けながら、語句の効果的な使い方について理解し、ショートストーリーを書くときに役立てている。【読むこと】

○　広い範囲から書く材料を見付け、自分が伝えたい内容を明確にするとともに、相手に効果的に伝わるように、言葉の使い方を工夫しながら書いている。【書くこと】

単元出口の生徒の意識

話の展開や言葉の使い方、情景や様子の描写を工夫することで、自分が伝えたい内容を効果的に表現できることが分かったぞ。次の単元でも言葉を操作することを大切にしていこう。

学習活動

第３次　「友情物語」作り　【4時間】

・トラブルが発生しながらもハッピーエンドで終わる話の流れを考えながら、友情に関わるショートストーリーを書く。

第２次　『盆土産』の読み取り　【１０時間】

・語句や文、段落などの言語操作をしながら、主人公（自分）の家族やえびフライに対する心情を読み取る。

第１次　単元の流れの理解　【1時間】

・「絆」について考えるとともに、特に友情に関わったショートストーリーを作る見通しをもつ。

評価規準

【意欲・関心・態度】

○　言語操作をしながら、語句の使い方の効果を考えたり、ショートストーリーの話の展開や文章の書きぶりを工夫しようとしたりしている。

【書くこと】

○　自分で考えた内容だけでなく、仲間からもらったアドバイスも取り入れながら、ショートストーリーを書き進めている。

【読むこと】

○　主人公（自分）の「期待」「驚き」「喜び」「寂しさ」などの気持ちの程度や理由を情景描写や会話、様子を表す言葉などから読み取ることで、語句の効果的な使い方について理解し、ショートストーリー作りの時の言葉の使い方に役立てている。

単元導入の生徒の意識

単元の最後には友情に関わるショートストーリーを書くのか。ショートストーリー作りに生かすためにも言葉を操作してしっかり読み取りをしていこう。

私の教育実践

私の学級経営

毎年、温かい学級をつくられる４年目の小谷先生から原稿をいただきました。学級経営のヒントが学べるのではないでしょうか。

西陵中学校　小谷　史征

最高のスタート

初任者として西陸中学校でスタートしたわけですが、担任としてこの初任地の１日目に教室で迎えられた一言は強烈でした。

「何でお前が担任やの！お前が来たもんで〇〇先生はおらんくなったんや！」

聞き慣れない東濃弁で罵られる私。

また、1日目の生活ノートには、

「僕は初任者が嫌いです。右も左も分からないような人に担任されるのは迷惑だからです。うちの親もそう言っていました」

という丁寧な文でのご挨拶。

おお、これが現実なのか。この子たちの気持ちを変えることができる教員になりたいと思えることができる最高のスタートでした。

今回、原稿を書く機会をいただいたので、彼らと過ごした中で学ばせてもらったことや、これまでの実践の中でともに成長できたことなどをここに少し書かせてもらおうと思います。

学級としての素地

私が考える学級としての素地は、安心できる場をつくるということです。それは、一人一人に居場所があるということだと考えています。そのために大切にしてきたことは、生徒同士で認め合いができるようになることです。誰がどんなことを頑張っているのか、今学級の仲間がどんな気持ちで毎日を過ごしているのかなどを学級全体で見つけ、認めようとすることです。認められた生徒は当然嬉しいし、次は自分が他の仲間のよさを見つけようとします。また、元気のない仲間に優しい声をかけるなど救いの手を差し伸べ、また元気を取り戻すことができるようになります。そうした空気の中では、仲間はずれやいじめといった類のものは起きにくく、日に日に学級全体が温かい空気に包まれていくのを実感することができます。これまで、そうやって学級での居場所をつくり上げてきたと思っています。

認め合いの場づくり

先に述べたような場は、意図的に設定しないと簡単にはできないと思います。特にこれまで意識して設定した場は３つあります。それは「学級通」「帰りの会」「学級活動」です。

学級通信では、生活ノートに善かれた意見を載せ、交流を図るのですが、文字からの意見には生徒は感化されにくい傾向にあります。そこで、よりリアルに声を伝える場として、帰りの会で生活ノートを本人に読ませる場をつくりました。目立たないけれど頑張っている仲間の姿を認めているものや、仲間への感謝が述べられているもの、学級へ貢献したい気持ちが書かれているものや悩み事が書かれているもの。また、今の学級の状況に一石を投じるような意見などが中心でした。通信に掲載されるよりも声として伝えることで、何倍も生徒の心の中に届いていると実感しています。

学級活動の中での認め合いは、いろいろ試して一番効果的だったものを実践例として紹介します。特に行事などの直前に行うと効果が上がります。まず白祇をクラスの人数分用意します(できるだけ上質のものがよいと思います。ただし学校の予算が許す程度で)。それを全員に配り、左上に自分の名前を書かせます。次に全員の机を教室内で円状にします。そして、これまでの行事の取組に対して頑張ってきた姿や感謝・励ましの言葉を１分程度で書き一斉に隣にまわします。紙が一周すると、紙にはクラス全員から自分へのメッセージが書かれて戻ってきます。仲間のよいところだけを書くというルールさえ守れば、認め合いの場として非常に効果があると感じています。卒業生からも「あのときの紙を今でも大切に飾ってあるよ」という声を多く聞くことができるほどです。

4年目を迎えて

今年度、私が一番大切にしたいと思っていることは、私自身の学級をつくりすぎないことです。つまり「先生のおかげで」という言集が少ない学級、自分たちの力で課題を見つけ、解決してきたと感じることができる学級にしたいと思っています。そのために担任として、生徒たちがそう思える場を意図的につくることが必要です。影できめ細かな配慮ができてこそ、表舞台で生徒たちが輝くものだと思います。文頭に登場した２人は、その後共に学級委員として大きく学級で輝いてくれました。

こうした感動を味わえるこの職に就けたことに感謝し、いつまでも「自分がこの学級の生徒だったら」という視点をもち続け、これからもますます勉強し、より生徒の心に近づける教員を目指し続けたいと思います。

「応援します」―各界の方から―

貴君への便り

土岐市現代詩文学館　館長　頼　圭二郎

頼　圭二郎さんは，元駄知中学校教頭小畑頼和　先生のペンネームです。

秋の紅葉が冬を点滅させながら近づいてきていますが，貴君におかれましては如何お過ごしでしょうか。

学校での深刻な悩みがお手紙から伺い知れますが，こうした考えは，自分一人だけで学校教育をやっている，という錯覚から，その非を一人で背負うことになるのではないでしょうか。

学校教育は組織で動くチームプレーで，その一端の責任を負っているのがあなたなのです。そう思い詰めず，焦らずにゆっくりと辺りを見直してみてはどうでしょう。

あなたは国語の教師ですので，詩人の田中冬二をご存知ですね。その田中冬二の詩に「くずの花」というのがあります。

じじいと　ばばあが
だまって　湯にはひってゐる
山の湯のくずの花
山の湯のくずの花

この詩を読んでどう思われますか。きっと「くだらない」と思うかもしれませんね。そう思われてもしかたがありません。私も若い頃には何とも思わなかった詩なのですが，職場を離れ，自由になった今（勿論歳をとったわけですが）この詩に深い味わいを感じることがあります。この詩は一読して素朴で比喩もなく，訴えるものも希薄で社会性もありません。わずかに詩のリズムをつくっているだけでしょう。でも行間から醸し出すゆったりとした湯煙が私の心に届いてくるのです。

老境に達した，じじいとばばあがいたわりあいながら健康に感謝し，黙って湯に入っている。

ただそれだけのことなのに。

確か前にお会いしたとき,「若い頃感銘を受けた小説は」とあなたから聞かれましたね。あの時「太宰治の小説」と即答しましたが，正確に言えば，好きな作家は太宰治で，悩み多き青春時代最も感銘を受けたのは田宮虎彦で,「足摺岬」を愛読していました。

うろ覚えですが自殺願望の青年が何となく死にたくなり足摺岬の宿にくるわけです。理由はない，と言うのですが理由はあるわけで，金もなく，身体も弱く，父とは憎みあい，母を追って死のうと考えているのです。しかし，投宿している人たちとの心の交流の中で死ぬことを思いとどまります。明に私の耳に残っています。
そのなかで一人のお遍路が言う言葉が今でも鮮明にわたしの耳に残っています。

「のう，おぬし，生きることは辛いものじゃが生きていることがなんぼよいことか」

そのような言葉だったと思います。私も騙されたつもりで「なんぼよいことか」に淡い希望をつなぎながら青春時代を駆け抜けてきました。

あなたの手紙の末尾に「こんな悩み多き私は教師失格です」とありますが, とんでもないことで,「悩み無き教師こそ教師失格」というべきでしょう。

教育をめぐる情勢は厳しく，特に平時の生徒指導は難しいものです。あなたは「保護者への対応」に大変苦慮されているようですが，この際，あれもこれも背負わずに枝・葉を切り捨て，生徒指導の大儀に戻ってみたらどうでしょう。生徒指導の大儀とは，学校であずかっているかけがえのない子どもの「命を守り」, 教育というふくらみの中で育てていくことです。この「命を守る」ことにあなたは徹するのです。

保護者は学校へ子どもの「命を預け」あなたは「それを守る」のですから，保護者とは決して敵対するものではありません。この揺るがぬ信念を強くもってください。ほとんどの保護者の方はあなたよりうんと年上で，人生経験も豊富です。

意見の相違はあるでしょう。あなたが成す事は，相手の言い分をよく聞き，うーんと譲歩することです。そして，どうしても譲れない大事なことを一つだけ貫けばいいのです。

「保護者との対応」で悩むのは，若さ故の自信のなさからくるものです。

担任や生徒指導だけでなく，教師の誰もがこの関門をくぐり抜け一人前に育っていくのです。

世相は猛スピードでその価値を変容させていますが，その変容をよく見極めながら，甘えず，媚びず，苦しみをもちながら，自分を少しずつ変えていくよう努力してください。

今, 愛用している BOSE のラジオから山口百恵の「秋桜」が流れています。そのフレーズに「苦労はしても，笑い話に時が変えるよ」とありますね。どうでしょうか，騙されたつもりでこの言葉に淡い期待をもって，今を乗り越えてみては。

過ぎればきっと大丈夫です。

もうすぐ冬休みに入ります。一冊の文学書を持って，じじいとばばあのように温泉にでもつかって，心を空白にしてみたらどうでしょうか。

それでは，文学館で一献かたむける日を楽しみに待っています。

「心にひびく言葉」

「まず健康」

濃南中学校　　木島　孝夫

教員になって間もない頃，郡上市（当時は郡上郡）内のある小学校の前を通りかかると，校舎の壁面に大きく掲げられた「まず健康」という言葉が目に飛び込んできました。同時に，数年前に他界した祖父がよく話していた「まず健康だ」という言葉がよみがえってきました。

幼い頃，よく祖父の布団に潜り込み，色々な話を聞いたものでした。子どもの頃に山や川で遊んだ話，新任教師として恵那で勤めた頃の話等々，話し上手の祖父の話が私は大好きでした。

そんな祖父が昭和１０年頃に前述の郡上の小学校に赴任した時，学校ぐるみで「健康教育」に取り組みました。手洗いや乾布摩擦の励行，肋木を使った体操など，「まず健康」を掲げ，地域をあげて取り組んだことで，子どもたちはもちろん保護者にも手洗いの習慣が広まったそうです。

それから７０年近く過ぎても「まず健康」は受け継がれ，校舎の正面を陣取ってきました。しかし，近年校舎が新築され「まず健康」が外されたことを校区の友人から聞きました。私が残念がっていると，学校や保護者，地域の皆さんが相談して，校舎の中に縮小して残し，健康教育についても継続して取り組まれることを話してくれました。

祖父の顔を思い出しながら，改めて「健康教育」の大切さと，教育の力の大きさを感じた次第であります。

掲　示　板

◇第 51 回岐阜県児童生徒科学作品展

〇優秀賞　泉中３年　　澤田裕香子　『漬物と浸透圧』

◇２００７年　岐阜県発明くふう展

〇岐阜県商工会議所連合会長賞　駄知小５年　籠橋映莉子　『床ずれ防止&寝返りお助けマット　トコズレーヌ』

◇土岐市読書感想文コンクール

〇金賞<自由読書>下石小１年　早野寛治　　土岐津小２年　ひろしまやすか
駄知小３年　今井ゆいか　　駄知小６年　酒井梨歩
西陵中２年　水野菜々　　駄知中３年　塚本彩乃　　駄知中３年　吉原圭純
<課題読書>曽木小１年　みずのゆうたろう　　肥田小１年　みぞぐちひかる
妻木小３年　纐纈祐真　　土岐津小４年　大岩侑太郎
泉　小４年　小野祐夢　　駄知小５年　筑摩恒治
下石小６年　三浦篤弘　　妻木小６年　山田大貴　　土岐津中３年　吉本愛里

◇土岐市小学校陸上記録回　各種目１位記録

	＜男　子＞		＜女　子＞	
１００m走	松井虹介　駄知	14 秒 0	中村奈菜　泉	14 秒 6
１０００m走	松井虹介　駄知	3 分 18 秒 5	渡邉恵利佳　肥田	3 分 38 秒 3
８０mH	塩内貴智　妻木	13 秒 5	今井愛海　泉	14 秒 3
ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ投げ	菅原快斗　妻木	61m07 ㎝	坪井里央菜　駄知	48m54 ㎝(大会新)
走り幅跳び	井野太誉　土岐津	4m49 ㎝	今道みお　泉	3m93 ㎝
走り高跳び	加藤雅大　泉	1m30 ㎝	植松夏芽　下石	1m20 ㎝
400mリレー	鶴里小学校	56 秒 9	泉小学校	58 秒 1

＊お詫びと訂正（「教育とき」（１０月３１日発行）に掲載しました東濃地区中学校体育大会（駅伝）

土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　　報　　Ｎｏ.４２７
発行責任者　　所　長　　加藤　紀久朗
発 行 日　　平成１９年１２月２６日
題　　字　　白　石　　聡　教育長

駄知小6年　伝統の修学旅行
東大寺前にて学年合唱

駄知小5年　自然の家合宿
火の妖精たち

「お陰様で」　一年の終わりと始めに向けて

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

早いもので間もなく平成１９年も終わり２０年が始まります。４月以降，市内小中学校を訪問させていただきましたが，子どもたちの成長ぶりには目を見張るものがありました。その裏には，先生方の指導が脈々と生きていることが実によく分かりました。朝早くの登校指導や部活指導に始まり，夜遅くまでかかる教材研究や会議等まで，本当に頭が下がる思いです。先生方には，土岐市の児童生徒が確実に成長していることに対して，感謝とお礼を申し上げます。

今年を振り返ると，私自身にも毎日多くの出会いがありました。「なんていう人や」「どうして分かってもらえんのだろう」「はじめてこの人のよさがわかった」など，いろいろな出会いがありました。しかし，出会いの中で多くの貴重な教えを頂いた気がします。実にありがたいことです。本当に「お陰様で」という思いです。

学校では一人一人の子どもに応じた指導の重要性が大切にされています。子どもの個性や持ち味を生かすことは教育の大きな目標でもあります。言い換えれば，自ら考えてみる，やっていく力を付けることでもあります。

温室で栽培された見事な菊の大輪は実に美しいものです。また，秋に咲いた庭の菊を切り，株ごと放っておいても次の年にも咲きます。見栄えがよくなくても，たくましく咲く菊の花にも魅力があります。この菊のことを「捨て作りの菊」と私は呼んでいます。捨て作りの菊は，厳しい自然との出会いが成長の糧になっているわけです。子どもの場合でも先生の場合でも，多種多様な出会いと関わり方が自分を成長させてくれるという点では同じだと考えます。

多くの問題や課題が他者との関わりのなかで生じてきますが，他者を否定することでなく，「お陰様で」の気持ちがあるほど，量的にも質的にも高い自分にしてくれることは確かではないでしょうか。

多くの方々との出会いや支えで，「お陰様で」平成１９年を終えることができ，新しい年，平成２０年を迎えることができることに感謝したいと思います。

よい年をお迎えください。

学校所員会

研究主題

学ぶ力を育てる
～学び方を身に付けた生徒を育てるための工夫～

土岐市立西陵中学校　　木股　純子

1　はじめに

本校では，生徒が自ら願いや課題を見つけ，それを適切に解決したり，実現したりすることができるようになるためには，生徒が学習の仕方つまり「学び方」を身に付けていることが必要になってくると考える。そこで，昨年度までの研究の成果をふまえ，以下に示した研究内容を中心に研究を進めている。

2　研究内容

（1）各教科における学び方の明確化
（2）単元構成の工夫
（3）課題提示の工夫
（4）指導・援助の工夫
視点①　学習形態の工夫
視点②　教材教具の工夫
視点③　学び方の体系化と活用の工夫
（5）評価の工夫

3　授業実践

1年生　Lesson 5
My friends in Okinawa

研究内容（4）視点①学習形態の工夫について

本単元では，三人称の代名詞について学習する。そこで，He is ～. She is ～. などを用いて，自分の家族や友人など身近な人について紹介する活動を行った。

英語は繰り返し学習することで身に付けることができる教科である。そのため，本時では，生徒が飽きることなく何度も活動を行えるように，グループ学習を2回行った。

グループ学習①（1回目）は，普段の生活班を母体とした。この生活班内でのペア活動は，1学期から行っている。席が近く，本時までの紹介文を書く際にも教え合いながら学習を進めているため，お互いの紹介文をある程度理解している。まずは，その中で活動することで，自信を付けさせたいと考えた。

グループ学習②（2回目）は，生活班を崩して新しく作成したグループで紹介する活動を行った。英語の授業内では話したことのない相手と行うことで，ためらいやとまどいが生じることが考えられる。しかし，グループ活動①でもった自信をもとに取り組むことで，相手に伝わったという喜びが感じられることを期待して活動を行った。

グループ活動①の様子

グループ活動①では，原稿を見たまま下を向いて話していたため，仲間からの評価のうち，アイコンタクトなどの項目で低い評価であるC評価がつく生徒が多くいた。そこで，活動①と活動②の間で「さらにうまく伝わるようにするためにはどのような工夫をするとよいか，仲間の評価から考えよう」と問いかけた。

《仲間から評価してもらったノートから》
・紙を見ないように，暗記が大切！！
・写真を指で指しながら話す。
・聞く人の目をしっかり見る。
・言うことを整理しておく。
・ゆっくりと大きな声で話す。

活動②では，上記ようにノートに書かれたことを生かして仲間と活動する姿が見られた。

《授業後の感想から》
・「さらに伝わるようにするために」を考えたことで，A（よい評価）がたくさんとれたのでよかったです。
・最初はなかなか大きな声で話せなかったけど，やっていくうちにだんだん大きな声になったのでよかったです。

4　成果と課題

○ペアが変わっていくことで，飽きることなく活動に取り組むことができた。
○繰り返すことで，自信をもって話すことができる生徒が増えた。
○中間で振り返る時間を作ることで，後半の活動の質を高めることができた。
△話し手に理解していることが伝わるような反応の仕方（うなずく，繰り返すなど）を定着させるような聞き方の指導をする必要がある。

学校所員会

研究主題

「仲間と共に高め合える子」の育成
～国語科における「読むこと」を通して～

土岐市立下石小学校　　田中　直樹

１　はじめに

本校では,国語科における「読むこと」を通して,読み取った考えを交流する話し合い活動によって「仲間と共に高め合える子」を育成していきたいと考えている。そのために，本年度は話し合い活動における高め合える姿を具体的にとらえて実践を進めている。

２　研究内容

＜研究内容１＞ 学習指導・学習活動の工夫

(１)ねらいの明確化

(２)効果的な話し合い活動の位置付け

＜研究内容２＞ 単元指導計画の工夫

(１)見通しをもたせる工夫

(２)着目する言葉や文のあらいだしと位置付け

３　授業実践

第２学年　国語科「お手紙」第４場面の授業

＜研究内容１＞ (１)ねらいの明確化

・ねらい→課題→出口(評価)の一本化を図り，ねらいに迫る課題を設定する。

低学年の実態を考慮して，１単位時間の中に本時の場面を確認する入口の課題とねらいに迫る追究する課題の２つの課題を設定した。

本時では「お手紙を待っているがまくんとかえるくんの様子を読み取ろう」という多様な考えを出しやすい入口の課題を設定した。これにより,どの児童も挿絵や叙述をもとに読みとった考えを出し合い,その中から「二人ともとてもしあわせな気もちになった」という言葉をみつけることができた。このように，入口の課題について考えを交流する中から本時に着目させたい言葉を引き出し,児童の意識を焦点化して「自分までとてもしあわせな気もちになったかえるくんの様子を読み取ろう」という追究する課題へとつなげることができた。

(２)効果的な話し合い活動の工夫

・ねらいに応じて，ねらいに迫るための話し合い活動を工夫する。

高め合う場では，「しあわせな気もち」になったがまくんとかえるくんについて考えを交流した。低学年の児童は語彙力が十分でないため，読みとった自分の考えを，言葉を用いて上手く表現できない面もみられる。そこで，ここではペアで登場人物になりきった役割演技を行うことで，自分の

考えをもたせたり，表現させたりした。その際「ぼくは」「ぼくも」といった一人称で自分の考えを話すようにさせたことにより，がまくんとかえるくんのそれぞれの「しあわせ」について話し合いを深めることができた。

〔がまくん〕ぼくは，しあわせだよ。
- ・かえるくんからお手紙がもらえるからね。
- ・かえるくんがぼくのことを「親友」と思ってくれることがうれしいよ。
- ・ぼくには友達がいることがうれしいよ。

〔かえるくん〕ぼくも，しあわせだよ。
- ・がまくんが喜んでくれたからうれしいよ。
- ・がまくんが喜ぶと，ぼくもうれしいよ。
- ・ぼくのお手紙をよろこんでくれたね。
- ・がまくんの親友でよかったな。

＜研究内容２＞(１)見通しをもたせる工夫

単元の出口に「音読発表会(音読劇)」を位置付け,各場面の出口では読み取った内容をもとにして,

様子が分かるように音読で表現する活動を位置付けた。具体的な目標をもたせたことで，どの児童も場面の様子を想像しながら音読の工夫をする姿が見られた。

４　成果と課題

○課題を２段階にしたことで，読み取りが十分にできない児童にも場面の様子をつかませ，全員の意識を焦点化して追究する課題へとつなげることができた。

○一人称で自分の考えを発表させたことで登場人物の気持ちを読み取り，ねらいに迫る話し合い活動ができた。

△発言は，自分の考え・根拠・根拠の理由の三要素があると質が高まる。児童の発言の質を高めていくために，低学年のうちから自分の考えに「わけ」を付けて発言させていく。

△評価規準の「おおむね満足できる状況」を具体的な記述で明確化して指導案に位置付けていく。

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　泉中学校　西尾　新

（前号より）

４　実践の授業より　第２学年国語　[読むこと　書くこと]

単元名	人間のきずな～友情物語を書こう～
本時のねらい	主人公がえびフライを食べる時の描写に着目したり、喜作が登場している効果を考えたりすることを通して、主人公がえびフライを食べた時の感動の大きさや父の深い愛情に感謝していることを読み取ることができる。

	学　習　活　動	教師の指導・援助
つかむ	１　前場面までの内容の確認をする。 前場面で主人公の気持ちを的確にとらえ、本文中の言葉を根拠にまとめを書いた仲間の発表を聞く。 ２　本時の課題をつかむ。 【学習課題】 父が帰ってきてからの主人公の気持ちを書きまとめよう。	
ふかめる	３　本時の学習範囲を班で交流する。交流で出てきた意見は、色分けをしながらホワイトボードに記入していく。 黒色……本文中の言葉 青色……読み取ったこと 赤色……主人公の気持ち えびフライのおいしさを表すために「しゃお」「きしむような」などの言葉を使っているよ。 「しっぽもうめぇや」という言葉から父親への感謝の気持ちが大きいことが分かります。 ４　班で交流した内容を全体で確認する。 喜作が登場していることで、父の愛情の大きさを強く感じ、父親への感謝の気持ちがより大きくなっている。	・えびフライへの感動のみの読み取りで留まっている場合は、どの言葉からそれらが分かるのかを問い、心情の原因などに着目させる。 ・主人公のえびフライを食べた時の感動だけでなく、父への愛情に対する感謝にも着目させる。 ・ホワイトボードの記入に手間取っている班には、発言の内容を書きまとめる位置や書き方を指示する。
まとめる	５　本時のまとめをする。 本時に学習した範囲の語句や文・段落・場面の役割と、主人公の心情との関わりを明確にした文章を書く。	・まとめが書けずに困っている生徒には、黒板に書いてあることを指し示しながら、ポイントを説明する。

5　授業後の考察

○　魅力ある導入

本時のねらいは「言葉をもとに、主人公の感動や感謝の理由・程度について読み取ること」である。そして、ねらいの達成度は授業の終末に書かせるまとめの中で確認するようにした。授業の導入では、前場面のまとめを２人の生徒に発表させた。２人の生徒のまとめには、主人公の気持ちを的確にとらえていることや、それを説明するために、本文中の言葉を根拠としているよさがあることを示した。これにより、生徒は追究の時に何をすればよいのかが明確になった。しかし、発表させる時に、発表者の位置や話し方の事前指導をしておくことで、学ばせたい内容が聞き手にとってより分かりやすくなる。また、こうすることで、話し手にも満足感や充実感が生まれ、本時も頑張ろうという気持ちにつながったと考える。

○　広がり・深まりのある追究

追究での班交流の際に、グループの書記になっている生徒に、出てきた意見を色分けしながら、構造的にホワイトボードに記録させるようにした。書記の生徒は、出てきた意見の大切なところを聞き取って書くことができた。意見を話す生徒は、書かれた内容をもとに意見を広げることができた。交流している内容を共有する場があることで、意見をつなげたり広げたりすることができたと考える。ホワイトボードに書く時には、特に大切な言葉を選んで書いたり、書く言葉を短くしたりすることで、書くことの効率も上がる。これにより、より多くの生徒が主体的に学習活動に参加し、学ぶことができたという実感を味わえるようになったと考える。

○　自己の変容を自覚させる評価

授業の終末には、前述のように本時のまとめを書かせたが、まとめを書き始めるまでの時間と文章を書ききるまでの時間が前場面に比べて早くなった。書かれている内容を読んでも、主人公の気持ちとそれを支える根拠を明確に書いている文章が多かった。まとめの形のパターン化（第１段落には主人公の気持ち、第２段落には本文中の言葉を根拠に説明をする）と、色分けをしながら書いたホワイトボードや板書が、まとめを書く際のポイントを示すことに有効であったと考える。しかし、このまとめの評価が生徒対教師になっており、生徒同士でよさを認め合ったり、課題を指摘し合ったりはできていなかった。生徒同士の相互評価を行うことにより、自己の変容をより実感できるだけではなく、生徒自身の評価能力を高めることにつながったと考える。

〈成果と課題〉

○導入で本時の目指す姿を示したことで、交流の視点を明確にすることができ、生徒の学習意欲へとつながる。

○ホワイトボードを使用したことで、出された意見が文字として残るだけでなく、それをもとに話し合いを深めようとする姿につながる。

○まとめのパターン化と板書の工夫により、まとめを書き始めるまでの時間と書ききるまでの時間が短くなり、書いている内容もよくなる。

●学習意欲をさらに高めるために、手本として紹介する生徒への事前指導を充実させる。

●生徒に深まりのある追究をさせるためには、班交流の中で書く言葉を精選し構造的に表現できるようにするなど、ホワイトボードの使わせ方をさらに工夫する必要がある。

●生徒の評価能力を高めるために、評価の視点や方法なども明確にしていく必要がある。

学校所員会

家族とのかかわりの中で自らの生活を創り出していく力が育つ家庭科学習

土岐市立駄知小学校　中島満理子

１　はじめに

家族とのかかわりの中で，よりよい生活を創り出す力を高めることを願って,研究を進めている。本年度は,「食」を通してこうした力を伸ばせるように，学習活動を仕組んできた。

２　研究内容

〈研究内容１〉子ども理解の在り方

・ワークシートを活用し，子どもの気付き，変容をつかむ。

〈研究内容２〉題材構成の工夫

・題材を通して，明確な意欲がもてる導入の工夫

・基礎・基本の定着を図る時間の位置付け

〈研究内容３〉学習活動の工夫

①必然性のある学習課題の設定

②主体的に調べ，交流し，学び合う場の設定

③基礎的・基本的な内容を定着させる学習環境の整備

〈研究内容４〉評価の在り方

・学習の深まりが自覚できる評価の在り方

３　授業実践　６年生　「休日の食事はまかせて」

〈研究内容３〉①について

前題材(「エプロン」作り)のスタートにあたり，家族へのインタビュー「毎日の食事作りで工夫していることを教えてもらう」(生活見つめ) を行った。「野菜をたくさん，具材を多く，薄味に」「みそ汁は具をたくさん」「おいしく，温かく」「家族に喜んでもらえるように」「簡単かつ，栄養満点」「無添加, 無農薬を意識」「野菜を多くとれるようにスープにしたり，炒めたりする」…こうした言葉を直接聞くことで，自分たちのことを思ってくれている家族の温かい思いを感じることができた。家族のそんな思いに応えたいという気持ちをもったところで,「できあがったエプロンをつけて, 家族のために一食分の料理を作ろう」と話し，前題材でミシンを使い，布では「エプロン」を作る学習をした。また本単元では，仕上がったエプロンをつけて，台所に立つ自分をイメージして，家族に食べてもらいたい一食分の献立を考える学習を始めた。

〈研究内容３〉③について

一日３０品目食べると体によいことから考えると，一食分の栄養バランスがよいということは,「三つの働きの食品が含まれていること・野菜が多めで１０種類以上の食品が含まれていること」と，前時にクラスで考えた。

栄養バランスのよい献立を考える手だてとして,同じメニューで，食品数の少ない献立と多い献立を実物で提示した（みそ汁の具をわかめだけの物と，わかめ・あげ・大根・人参を入れた物)。提示する時には，主食・主菜・副菜・汁物の４つを意識できるように，黄色・赤色・緑色・白色の画用紙の上にそれぞれの料理を並べた。

また，食品数を少なくした単品料理の写真入りの「簡単料理カード」(黄：主食・赤：主菜・緑：副菜）を献立作りの参考にさせた。こうすることが料理を発想する手助けになった。また食材をプラスすることにより栄養バランスがとれた献立を考えることにつながった。

４　成果と課題

○家族の思いに応えようという気持ちをもたせ，エプロンを作ってからの学習は，家族のために一食分の献立を考えようという意欲を高めることに効果的であった。授業後，早速家庭で実践した児童がいた。

○実物・簡単料理カードの提示は，児童のイメージを広げ，栄養バランスのよい献立作りの基礎的・基本的な内容を定着させるために有効であった。

△献立を書き込むワークシートに主食・主菜・副菜・汁物を意識させる工夫が必要であった。

△家庭実践につなげていくために,協力のお願い,継続的な見届け・評価を考えていきたい。

土岐津中学校「キャリア教育優良校」文部科学大臣表彰 おめでとうございます

土岐津中学校　加藤辰亥校長先生が，教育長に話されました

土岐津中学校が，本年度の「キャリア教育優良校」として文部科学大臣表彰を受けることになり，１２月６日に恵那総合庁舎で伝達式が行われました。

１２月１１日には，土岐津中学校　加藤辰亥　校長先生が，白石聰教育長に「文部科学大臣表彰」を受けたことを報告されました。

土岐津中学校が，本格的に職場体験学習を始めたのは，校長先生が神戸信之先生だった頃からです。それからずっと続いてきています。これだけ職場体験を続けてこられたのも，このようなすばらしい表彰を受けることができたのも，これまで事業主さんが気持ちよく受け入れてくださったお陰です。生徒は，職場体験を通して，あいさつの大切さ，ものごとに丁寧に取り組むことの大切さなどを学ぶことができています。今後もさらに充実させていきたいと思っています。

＜土岐津中学校の「キャリア教育」の紹介＞

土岐津中学校では，２年生の職場体験学習を１０月末～１１月のはじめの１週間を使って実施されています。職場体験の週の月曜日には最終の事前指導などを行い，火曜日～金曜日までの連続した４日間は，各事業所へ行って朝の出勤時間から退社時間まで働きます。４日間の労働の疲れは，土曜日と日曜日でとるというように日程の上でも工夫されています。

２年生における「キャリア教育」に関する指導時間を『リサーチ・タイム』と命名し，年間を通して継続的，系統的な「キャリア教育」の推進を積極的に行われています。

・総合的な学習の時間を中心に，特別活動や教科との関連を密接に図りつつ，意図的，計画的に『リサーチ・タイム』を実施されています。そこでは，「社会から学ぶ」をテーマに，主に職業観や勤労観を広げ，深めるような学習が行われています。

・「職場体験学習」と「職業講話」を学習活動の二大重点として位置付け，豊かな体験を通して学ぶことを重視され，年間を通して系統的な学習が成立するよう指導計画を工夫されています。

・職場体験学習後には，自分たちが知り得た情報を整理してまとめる活動を大切にされています。その中で，情報の収集，選択，判断，発信等の力が身に付くよう指導し，新しい情報や自分たちが感じたことをプレゼンテーションすることで共有し，深め合うことが行われています。

土岐津中学校の「キャリア教育優秀校」受賞を機に，各小･中学校では自校の「キャリア教育」を見直し，土岐津中学校の取組のよさを学びたいものです。

「心にひびく言葉」

「ワクワク・ドキドキ」の感動を

駄知小学校附属幼稚園園長　小嶋　美智子

○子どもから…

幼稚園児は，自然とかかわることが多く，自然から学びながら楽しく遊んでいます。教師が花の香りを嗅いでいると，子どもも真似て嗅ぎます。子ども同士が，飼育している小動物に触れたり，落ち葉を拾って一緒に遊び，嗅いだり，触れたりすることは，「いい匂い，ざらざらだね」などの感覚や気持ちを共有し合い，自分以外の生き物の存在や友達との感じ方の違いなどに気付く場となっています。こうした自然の中での体験は，その子の資質の育成にもつながりますが，美しいものを美しいと感じたり，命をかけがえのないものだと感じたりする人間らしさを育む力の育成にもつながると思います。

自然は心も癒してくれます。人との絆や頑張り続けることが難しい時，疲れてしまった時にも，自然に触れエネルギーを感じて救われます。子どもたちに自然を通して「きれいだな！可愛いな！すごい！温かいな！」「寂しそう」という様々な感情が心から湧き上がってくるような体験の機会を多く設定したいものです。

○感動…

「人間は感動することによって，新しい世界を開くことができる。大きな感動は人生を大きく変革し，新たな世界を味わわせてくれる。小さな感動は，リフレッシュさせ新鮮な世界を味わわせてくれる」といいます。また，「子どもは，感性がいっぱいあるから伸び成長できる。老人は知識があるが感性が乏しくなっていく」という話も聞きます。成長し続けている子どもに接している教師（大人）は感性豊かでありたいものです。

普段の遊びでは，素材はいつも同じようですが，子どもは変わっています。マンネリ化に陥らないよう子どもと共に様々な角度から，どんな小さな出来事であっても「ワクワク・ドキドキ」感動できる心を常にもち，接していきたいと考えながら日々を過ごしています。

掲　示　板

◇東教推　（研究実践交流会）　教材･教具の部　　出品ありがとうございました

○各種ソフトを使用して作成したデジタル教材	ことばの教室	土岐津小	纐纈貴美子
○デジタル絵本　自作教材	特別支援	土岐津小	たんぽぽ学級
○昆虫のからだをしらべよう	理　　科	下石小	西尾治久
○ペットボトルで造形遊び	図画工作	下石小	長田智子
○さかあがり補助具	体　　育	妻木小	三根由香利
○簡単料理メニューカード	家 庭 科	駄知小	中島満理子
○自ら調べ考える社会科ワークシート	社　　会	肥田小	北川慎二
○バレーボール向上教具	体　　育	泉　小	清本直子
○道徳のペープサート（1年「およげないりすさん」）	道　　徳	泉西小	杉浦英美・橋本敏子
○「サーキットで勝負」	理　　科	鶴里小	水野和正
○重複面積説明具	数　　学	西陵中	山田勇樹
○錐体積求積模型	数　　学	西陵中	山田勇樹
○圧力の導入・実験具	理　　科	西陵中	中島宝生
○五角形の内角の和が360度であることを確認する教具	数　　学	濃南中	渡邉宏彦
○一次関数動点問題シュミレーション	数　　学	駄知中	田中一実
○まつり縫い見本	技･家(家庭)	駄知中	有賀良子
○相似と比の導入教具	数　　学	肥田中	小久保拓哉
○おしゃれな敷物見本	美　　術	泉　中	小栗洋之
○感電実験装置	技･家(技術)	泉　中	加藤明覚
○ぱったんゴロゴロ 2007　Ａ１部門試作機	技･家(技術)	泉　中	加藤明覚
○ファイルカバー製作見本	技･家(家庭)	泉　中	村瀬智美
○絵本の計画書書き方見本	技･家(家庭)	泉　中	村瀬智美
○保育通信	技･家(家庭)	泉　中	村瀬智美

23 作品出品されました。

本年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。　教育研究所一同

土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111（内281）
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４２８
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発　行　日　平成２０年１月３１日
題　字　白　石　聡　教育長

肥田小学校附属幼稚園

「ようこそ　パワー寿司へ」

撮影：　水野扶二子　先生

「ほっぺがおちそう。やきいもレストラン」

撮影：　藤田佳代　先生

詰めの甘さは相変わらずですが、粘りだけは…

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

新しい年を迎えましたが，早いもので，あと２か月余りで年度の終わりを迎えます。今年度こそはと思いながら，今までとやっぱり同じかなと納得したり反省したりすることの繰り返しで過ごしてきた気がします。それに比べ，児童生徒の成長には素晴らしいものがあります。毎日の中では気付かないことかもしれませんが，各学校を１年間に数回訪問しているわけですが，時間をおいて参観する者には，成長や違いがよくわかります。しかし，子どもたちが，自分の成長に気が付いていない面も多くあります。そこが，指導をしてみえた先生方の出番ではないでしょうか。

小さい頃から母親に「お前は片付けができんなあ」といつも言われたことを思い出します。やりたいことはすぐにでも取り組むのに，どうも最後のしまりと詰めがありません。このことは，５５歳になった今でも同じような気がします。家でも家内に，「おとうさんが通ったあとは，戸がちゃんと閉まってないよ」と言われています。言われた時は，「そういうことは気付いた人がやればいい」と負け惜しみを言っていますが，どうも説得力に欠けます。

年度末を迎え，児童生徒たちの姿の中で気になることも多くあります。つい，「これでは４月から次の学年や進路に進むことはできませんよ」と言いがちです。「指導で一番大事なことは何ですか」と聞かれたらどう答えますか。多くの考え方がありますが，私は「粘り・根気」と答えたいと思います。１学級４０人の子どもを一年間という長いスパンで指導していく時，あきらめない粘りが大事だと考えるからです。裏を返せば，自分の詰めの甘さを自覚しているだけにそう思うのかもしれません。

年度末を迎え，詰めるとろを詰めることは大事です。しかし，決め技をもっていない私のような人は，愚痴をいうより「決め技はないが，相手があきらめるまで粘ってみる自分」にこだわってみませんか。

学校所員会

研究主題

学年経営を基盤として よりよい仲間関係を育む学級づくり

土岐市立泉小学校　安藤　律子

1　はじめに

本校では，昨年度より東濃地区教育推進協議会の指定を受け，上記のテーマを掲げ『仲間とかかわる活動を児童理解に基づいて意図的に仕組み，学級活動における指導・援助の工夫をすれば，所属感を高め，仲間関係を育む学級づくりができるであろう』という仮説のもと実践を進めてきた。

2　研究内容

＜研究内容1＞よりよい仲間関係を育む学級づくりを見通した指導の工夫

⑴ 学年経営構想図の作成と活用

⑵ 児童の意識の流れと指導の手だてを明確にした題材指導計画の工夫

＜研究内容2＞よりよい人間関係を創造する学級会の工夫

⑴ 発達段階に見合った必然性のある議題設定

⑵ ねらいに向かった教師の指導･援助の工夫

3　授業実践

1年生　学級活動「なかよし集会をしよう」

＜研究内容1-⑴・⑵＞

限られた個と個とのかかわりの強さや自己中心的な思考が見られる児童の実態を踏まえ，低学年におけるよりよい仲間関係を,『仲よく活動する中で，互いのよさを見つけ合える仲間関係』と捉えた。このような児童には，多くの児童と楽しく触れ合うことで，かかわりを広げていくことが大切であると考え，集団遊びを学級づくりの核となる活動に設定した。この『なかよし集会』は，学級遊びを中心にした集会で，学級全員で計画・実行するものである。

本題材では，目指す姿に向かうことができるようにするために，活動を下記のステップで行い，各活動の中で児童の意識がどう変容していくかを明確にした。振り返りをもとに，さらに計画をする場面は，仲間関係を深めていく重要な話合いの場であると考えた。

計画・準備（P）→ 実行（D）→ 振り返り（C）

＜研究内容2-⑴＞

遊びは，児童にとってとても身近で，楽しさを実感できるものである。『みんなで遊ぶことの楽しさ』を全員で共感することで，学級の宝になり，『もっと楽しく』という思いにつながることを願い，学級遊びを行った日には，帰りの会で振り返りを位置付けた。楽しかったこと，問題点を全員で確認することで,『自分だけが楽しく』ではなく『みんなで楽しく』という願いが生まれてきた。そして，２学期の『なかよし集会』の遊びを決める学級会に向けて,『みんなが楽しい集会にしたい』という願いにつながった。

＜研究内容2-⑵＞

学級会では，『みんなが楽しめる遊びを決めよう』という議題で話し合った。事前アンケートでは，児童の思いや意識，その遊びを選んだ理由を把握した。１学期は自分がやりたい遊びが中心だったが，今回は，仲間関係を意識した遊びのよさをつかんでいる児童もいた。

本時は，２つの遊びから１つに決める話合いになった。多数決ではなく，それぞれの遊びのよさを確認し,『みんなが楽しく』できるための具体策を話し合った。「けいどろは，たくさんの子を捕まえたり助けたりできるから，みんなが仲よくなれそう」と,『みんなで楽しみたい』という願いにつながる話合いができた。

また,「もっと楽しくするにはどうしたらいい？」と問いかけると，学級遊びで行った時のことを振り返り，遊びのルールを変えるという意見が出てきた。「おにを増やしたらもっと楽しくなりそう」とアイデアをふくらませ，ねらいに向かった話合いを行うことができた。

4　成果と課題

○児童にとって身近な『遊び』を通して，仲間と積極的にかかわる姿が増えた。その中で仲間のよさを発見し，もっとかかわろうとする意識が生まれてきた。

○個の思いをつかみ，様々な思いを引き出すことで，相手の気持ちを考え，ねらいにせまる話合いを行うことにつながった。

△低学年の発達段階をふまえ，実際に２つの遊びをやってみて話し合うような形態の学級会なども考えたい。

学校所員会

研究主題

確かな学力を育てる教科指導のあり方
～小集団を活用した指導･援助の工夫～

土岐市立肥田中学校　杵渕　容子

1　願う生徒の姿

基礎・基本の知識・技能のみならず，自ら学ぶ意欲や学習習慣を身に付けるとともに，考える力や表現する力などを身に付けることができる生徒

2　研究内容

＜研究内容１＞　「つけたい力」と評価
①つけたい力の明確化
②評価規準の明確化
③評価方法の工夫

＜研究内容２＞　個に応じた指導・援助
①個の実態把握の工夫
②Ｃタイプ生徒への指導・援助の工夫
③小集団の活用の工夫

3　授業実践　＜1年生　国語＞

単元名　真実を語る
教材名　未来をひらく微生物　「読むこと」

＜研究内容１＞　「つけたい力」と評価

①　つけたい力と学習活動について

単元を通してつけたい力や単位時間のねらいが達成されるよう，生徒の意識に沿った学習活動を仕組んだ。

―主な学習活動の流れとねらい―

個人追究
↓
ペア交流
↓
全体交流
↓
要点を捉え，キーワードを使い文章にまとめる。

まとめた図を見せながら，自分の読み取りを確かめる。

言葉と言葉を矢印や線で結びながらまとめる。

全体でキーワードを確認する。

②　評価方法の工夫について

ここでは，教師と生徒の評価の共通化を図った。授業の終末に，課題に対して文章で２００字以内にまとめる活動を位置付け，内容や表現方法についての観点に沿って自己評価をさせた。

生徒は自己評価を基に推敲し，同じ観点で次に教師が評価を行った。こうしたことを繰り返すことで，文字数を意識しながら自分の考えをまとめることができるようになってきた。

教科書本文から，キーワードや関連する言葉を抜き出し，ワークシートにまとめる生徒

＜研究内容２＞　個に応じた指導・援助

①　単元に入る前に，文章の構成を理解する能力を生徒がどれくらい身に付けているのかを調査するためのレディネステストを行った。

②　①の結果から，課題に対して予想される反応に応じて，生徒を３つのタイプに分けた。特に，つまずきが予想される生徒をＣタイプとして，指導･援助の仕方を具体的に考えた。本時では，個人追究時にＣタイプの生徒を中心に机間指導を行い，キーワードの確認とワークシートのどこに書いたらよいのかをアドバイスした。

③　個人追究の後にペア交流を位置付けた。自分のノートにまとめた図を指し示しながら，隣の席の仲間に説明することで，自分の読み取りを確かなものにすることができた。また，仲間がまとめた図から，より分かりやすく構造化された図を見ることによって，よりよいまとめ方を学ぶことができた。

4　成果と課題

○どんな観点で評価するのかを明らかにし，同じ形式で評価を繰り返すことにで，生徒が安心して授業に参加し，返ってきた評価を励みに次時に臨めるようになった。

○単元に入る前のレディネステストなどをもとに実態を把握したことで，具体的な手だてをもって指導･援助することができた。

○個人追究，ペア交流，全体交流というステップで学習活動を行うことによって，確実に要点を読み取ることができるようになった。

△本時のねらいを達成するために，より効果的に小集団を活用した学習活動を工夫する。

△Ｃタイプ生徒の捉えを，レベルと捉えるのか，課題に対するアプローチの仕方で捉えるのかを明確にし，研究を進めていきたい。

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会　泉西小学校　土本　晴美

１　はじめに

体育の授業では「生涯にわたって運動に親しんでいく態度と能力」を養うことをめざしている。そのためには、授業の中で、運動そのものの楽しさや仲間と活動する中で上達する喜びを味わうことができるようにする必要がある。

「学ぶ楽しさのある授業」に向け一人一人が自分の目指す姿が分かり、そうなるための方法と、実際にやってみて評価できるような授業を仕組みたいと考える。

２　研究構想

〈土岐市の教育課題〉　学ぶ楽しさのある授業

〈研究主題〉　一人一人が楽しく運動をして、運動技能を身に付ける授業

体育の授業において学ぶ楽しさを次のように捉える。

運動の側面では、「できなかったことができるようになること」、また「勝敗や記録だけではなく自分の願う姿に近づけた、上達した動きができるようになること」である。

集団の側面では「応援や励ましの声をかけ合うこと」更には、「運動のやり方や作戦を教え合うこと」である。

一人一人に「学ぶ楽しさ」を味わわせるために、児童の実態をとらえ、課題となる姿の要因を分析し、身に付けなければならない力と指導内容を明確にしたい。

また、児童の相互援助活動において、それぞれの課題にあった視点で互いの動きを見合い、教え合いができる指導をしたい。

主体的な学習意欲を引き出す単元構成

単元に関わる実態調査を行い、それに児童の欲求を加味し、単元構成やグルーピングの参考にする。

単元の終わりには全体での発表会を位置付け、それに向かって学習を進めていく。技の練習では、単一技を練習しその後できる技を繰り返したり、別の技をつなげたりする練習を入れて一つ一つの技の習熟を確かなものにしていきたい。

単元はじめや１時間のはじめには、一人一人が自分の目指す姿と、それができる方法が分かり、実際にやってみて評価できるような授業を仕組みたいと考えた。

○魅力のある導入

実態を踏まえた上で、ＶＴＲを用いたり教師や児童の代表による示範を見せたりして、児童が、「すごい」「自分もやってみたい」「どうしたらできるのだろう」とあこがれをもつことができるように導入を工夫する。

○広がり・深まりのある追究

相互援助活動の時間と場の確保をする。それにより、全ての児童が自分の今の姿を知り、さらにどのようにすればよいのかが分かり、仲間と一緒に運動をする楽しさを味わうことができるようにする。

相互援助活動をしやすくするため、運動習熟のみちすじや上達のポイントやこつをわかりやすく掲示したり、動きがイメージしやすいような口リズムを工夫したりする。

○自己の変容を自覚させる評価

グループを組織し役割を作り、集団面、技能面を見合う中で、自己評価、相互評価、及び教師の評価を位置付けて自己の変容を自覚させる。そうすることにより、自ら課題を解決しながら運動技能を高めていくことができるようにする。また、自己評価、相互評価をしやすくするために、運動の姿を数値化しておく。

３　授業実践の構想

（領域・単元名　　器械運動・マット運動）

今回は、『マット運動』の実践を通して主題に迫ることにした。

４年生の『Ｃ　器械運動　　ア　マット運動』は、３年生まで基本の運動の中（Ｃ　器械・器具を使っての運動　　ア　マットを使っていろいろなころがる動きなどをする）で扱われている。

マット運動は、日常生活ではほとんど経験しない不安定な体の使い方を取り入れた運動である。非日常的な運動であるため、技の習熟に大きく個人差が出るという特性があり、自分の技能の向上を大きな喜びと感じることができるという特性もある。また、自分の動きを客観的に捉えることが難しいため、仲間との相互援助活動が大きな意味をもつ。仲間からのアドバイスによって「できるようになった」「うまくなった」と実感でき、「仲間と共に活動する楽しさを味わう」ことができる指導をしたい。

単元構想図

教科の本質に迫るための学び方を身に付けた児童の姿
（技　能）　開脚前転、開脚後転を含む組み合わせ技ができる。
（態　度）　見合い、教え合い、お互いの伸びを認め合いながら練習することができる。
（学び方）　自分にあった課題をもち、繰り返し取り組むことができる。

単元出口の児童の意識
○「新しい技ができるようになってうれしい」「もっとうまくできるようになりたいし、他の技に
　も挑戦してみたいな」
○「～さんにアドバイスしてもらってどんどんうまくなれたし、楽しかった」「これからも

学　習　活

まとめ（発表会）
・連続技を全体の場で発表し合い、互いの上達ぶりを認め合う。

展開Ⅱ（連続技練習）
・つなぎを意識して、２種類以上の技を練習する。
・グループごとに連続技の得点会を行

展開Ⅰ（単一技練習）
・開脚前転、開脚後転、前転、後転を単一で練習する。
・グループごとにそれぞれの技の得点会を行う。

計画
・単元の見通しをもつ。
・グループごとに役割分担をする。

評　価　規

【関心・意欲・態度】
○ 技能の上達をめざして、何度も繰り返し技の練習に取り組んでいる。
○ グループやペアと見合って、励まし合いながら運動している。

【思考判断】
○ 自分の課題をもって取り組んでいる。
○ 仲間の姿を見て、教えている。

【技能】
○ 開脚前転、開脚後転を含む組み合わせ技ができる。

単元導入の児童の意識
○ 「開脚前転、開脚後転なんてやったことがないけどできるようになるのかな」
○ 「うまくできるようになるといいな」
○ 「どうしたらうまくできるのかな」

学力対策委員会報告

平成19年度　学力対策委員会の活動より

１　はじめに

学力対策委員会では、「基礎的・基本的な内容の確かな定着」を目指し、学習状況調査等の分析を通して、日々の授業を見直す機会としたいと考えています。

今年度は、「平成１８年度岐阜県における児童生徒の学習状況調査」をはじめ、「平成１９年度全国学力・学習状況調査」の各校における分析を行ってきました。県の学習状況調査では、小学校「国語」「算数」、中学校「国語」「数学」「英語」の教科にわかれ分析を行ってきています。

また学力対策委員会では、調査の結果を分析し、対策を考えるとともに、これまでの指導の在り方を振り返る機会としたいと考えています。詳しくは年度末に発行する「**あすの子どもを育てるために**」に掲載しますが、今回は、その一部を紹介します。

２　分析にかかわって

小学校　５年生「算数」

小学校５年生の「算数」に次のような問題が出題されています。

底辺の長さと面積の変わり方を表に表して調べます。底辺○㎝が４倍になると、面積△ｃ㎡ は何倍になりますか。

底辺○（ｃｍ）	1	2	3	4	
面積△（ｃ㎡）	4	8	12		

平成１７年度の学力対策委員会でも、同じような傾向の問題が取り上げられていましたが、平成１８年度の学力調査の結果からも、この問題の正答率が目を引く結果となりました。

この問題に対する正答率は、次のとおりです。
県正答率　５４．７％
市正答率　５１．９％（無回答６０９人中９人）

２つの数量がともなって変わる関係を学習するのは、４年生からです。４年生では、長方形の横と面積がともなって変わることを、表を使って考え、○と△を使って関係を式に表しています。この問題は、教科書にも取り上げられていますが、平行四辺形の高さと面積の関係を表にして関係を考えるものです。

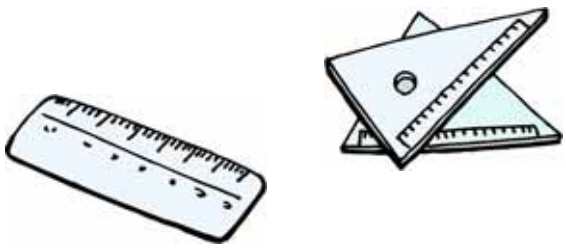
学習の中で、何度も取り上げられてきている割には、50％台という残念な結果になってしまっています。

これは、ともなって変わるという関係が理解しにくいからではないかと考えられます。

授業では、面積の学習の中で扱っていますが、関数の学習として充分に時間を取り、扱っていく必要があります。一方の数量が変わっていくとそれにともなって他の数量が決定されていくことを、多くの問題や例、体験を通して充分に理解させ、数量関係の見方について指導していくことの必要性をあらためて強く感じました。

「数量関係」の領域では、表を縦に見たり横に見たりして、2 つの数量の間にある決まりを見つけ出す体験を、多く取り入れた授業をくり返し行っていきたいと考えています。2 つの数量の間にある関係が分かると、定数を導き出すことができます。そうすることで、ともなって変わる２つの数量を、簡潔に式としてとらえ、一般化できる力がついてくると考えるからです。

ここでは、「数量関係」を例に挙げてみましたが、正答率が全体の 60％に満たない問題に、これからの学習指導のヒントが隠されているように感じられる分析結果となりました。



中学校　１年生「数学」

整数の性質を見いだし、整数の性質を文字を使って説明する力をみる問題として、次のような問題が出題されています。

④一郎さんは、一の位の数が０でない２けたの自然数をA、Aの十の位の数と一の位の数を入れかえてできる自然数をBとするとき、A－Bがどんな数になるか調べました。

・７３－３７＝　３６＝９×４
・１６－６１＝－４５＝９×（－５）

そして、上の具体例から「A－Bは９の倍数になる」と予想し、文字を使って次のように説明しました。

Aの十の位の数をx、一の位の数をyとすると、A＝１０x＋y
B＝１０y＋xと表せる。ただし、x、yは1から９までの整数である。　A－B＝（１０x＋y）－（１０y＋x）
＝１０x＋y－１０y－x
＝９x－９y
＝９（x－y）
x－yは整数だから、９（x－y）は９の倍数である。
したがってA－Bは９の倍数である。

次の各問いに答えなさい。

（１）一郎さんの説明を聞いた花子さんは、「A＋Bは□の倍数になる」と予想しました。□にあてはまる２以上の整数を書きなさい。

（２）花子さんは（１）で予想したことを、文字を使って説明しました。□の中の花子さんの説明を完成させなさい。

Aの十の位の数をx、一の位の数をyとすると、A＝１０x＋y
B＝１０y＋xと表せる。ただし、x、yは1から９までの整数である。　A＋B＝

この問題の県と市の正答率と市無答率は次のとおりです。

県正答率	（１）６６．０％	（２）６５．６％
市正答率	（１）６２．１％	（２）６３．４％
市無答率	（１）１１．２％	（２）２６．２％

ここで、特に問題としてとらえたのは無答率です。市無答率は、（１）１１．９％であったのに対して、（２）は２６．２％であり、ほぼ４分の１の生徒が何も書けなかったという結果になりました。また、この問題の（１）と（２）の正答率の差があまりなかったのに対して、無答率に大きな開きがあったのが特徴です。

（２）については、例示されているA－BをA＋Bにして計算することにより、１１の倍数となることを説明する問題です。この問題で答えるのは、A＋Bが１１の倍数であることを導き出す説明です。すでに問題の中にA－Bが９の倍数になることの説明が示してあるのにもかかわらず、何も書けなかった生徒が多かったという結果になりました。これは、説明するということに対して大きな抵抗感をもっている生徒が多いためだと考えました。

このことから、ただ計算ができればよいとか答が出せればよいなどと思わせるのではなく、

・説明の基本パターンが身に付くように繰り返し書かせる。
・大事なポイントを押さえた発表の仕方を指導する。
・ペアや班などで、正しい用語を使って互いに説明させ合う。

というような、自分の考えを表現することを大切にした指導をする必要があると考えています。また、この単元だけでなく、例えば１年生の方程式の利用において、計算式を残すだけでなく、説明文を入れながら解が問題に合っているかの確かめまでを丁寧に書かせるなど、日頃から考えを表現する練習を積み重ねていく必要があると考えています。

３　分析の観点

授業改善につなげるという意識を大切にして、

・どのような傾向があるのか
・どのような力が優れているのか
・どのような力が弱いのか
・正答率が高ければ問題はないのか
・どのような問題に無回答が多いのか

等の観点から分析を行っています。

４　おわりに

分析の結果が少しでも授業の改善につながり、「基礎的・基本的な内容の確実な定着」が図られることを願っています。

「心にひびく言葉」

信　じ る 心

西陵中学校　岡本　康彦

私が武儀郡武芸川町（現在は関市）の寺尾小学校に勤務していた時、木枯らしが吹く頃になると手にはあかぎれ、足にはしもやけをつくった小学生の集団が毎日登校していたことを思い出します。

寺尾小学校は、全校で５０名足らずで、この学校へ福祉施設の美谷学園から約半数の子どもたちが通って来ました。

この美谷学園は、２歳児ぐらいから高校生までの子どもたちが児童相談所から紹介されて入所し、昼間は各学校へ行き、夜や休日はこの施設で仲間たちや世話をする施設の方々と一緒に生活します。

この美谷学園に入所する子どもたちの理由は様々で、父親と公園で寝泊まりしていた子ども、両親が家出し、子どもばかりで生活していた子どもたち、親の虐待で保護された子どもたち等々。

こんな家庭的に恵まれない子どもたちだから、両親を恨んでいるのではないかと思うのですが、全く違うのです。テニスが上手にならないからと、父親（養父）から熱湯を手や足にかけられた少女でも、また勉強の覚えが悪いからと頭が変形する程殴られた男子でも、親の悪口は言いませんでした。それどころか「親は私のために一生懸命教えてくれた。自分たちの覚えが悪いから、上手にならないから…」と親をかばい、親が面接に来るというと喜ぶのです。公園で父親と一緒に暮らしていた子も、衣食住そろった施設より、父親の元へと施設を抜け出すことも…。

この親を頼らなければ生きていけないという切実な事情があるにせよ、衣食住が足り、施設の方々が子どもたちを平等に扱ってくれても満たされるものがないのでしょう。自分だけが…といったものがないと子どもたちは大事にされているという実感がもてないようです。

学校では、一人の子だけを特別にというわけにはいきませんが、「私は先生に大切にされている」という気持ちをもてるよう接していくことが大切だとこの施設の子どもたちに教えられました。

掲　示　板

おめでとう
ございます

◇第 11 回全国児童生徒地図優秀作品展での活躍

国土交通大臣賞　　妻木小　１年　仙石　芽依

◇第 15 回社会を明るくする運動作文コンテストでの活躍

中央実施委員会委員長賞　　肥田中　３年　増田　愛子

◇創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会へ出場

○Ａ１部門　「ＳＥＩＲＹＯ　ｏｎｅ」　西陵中　１年　加藤　寛喬

○Ａ２部門

「MAXロボ」
- 泉中　３年　中村　圭佑
- 泉中　３年　水野　慎也

「ＫＩＴ」
- 泉中　３年　可知　隆太
- 泉中　３年　今井　雄太
- 泉中　３年　水野　達也

◇教育研究所にある書籍類等について

・購入している月刊誌…初等教育資料，中等教育資料，授業研究 21，教職研修

・小･中学校の教科書，教育関係の辞典，授業改善や評価に関する本，市指定研究発表会の資料，教師の自己啓発に関する本，教育関係の新聞…（参考となる書籍や資料が多数あります）

＊書籍類については，貸し出しをしております。お気軽に教育研究所へおこしください。

土　岐　市　教　育　研　究　所
ＴＥＬ　0572-54-1111　(内281)
ＦＡＸ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４４１
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発行日　平成２１年　２月２８日
題　字　増　田　章　教育長

合唱祭

撮影　肥田中学校　加藤　賢吾先生

「なんで、どうして」を生かす最後のチャンスです。

土岐市教育研究所長　　加藤　紀久朗

早いもので、あと一か月で年度の終わりを迎えます。この時期、学年末を迎え、もう少しがんばろうという思いと何事もなく終わりたいという思いが交錯している毎日ではないでしょうか。このことは、児童・生徒も同じで、特に受験をひかえている者にとっては大きなことであることも確かです。それは、結果に対する不安と期待からくるものもではないでしょうか。しかし、受験生だけでなく、誰もが次の年度や環境の変化に対する心構えのひとつの姿ともいえると思います。こんな時、先生からの一言の持つ意味は決して小さくはないものです。ひとりひとりの児童生徒にどんな声かけができるのか、一年間の集大成の表れともいえるのではないでしょうか。

この一年間を振り返ってみると、大きな流れとして、理解不足や行き違いで摩擦が生じた５月、なかだるみから問題が起こった１０月、今までの指導やそれに対する不満がわき出る２月以降ととらえています。特に２月以降は、大人も子どもも含め我慢には限度があります。個人差は当然ありますが、特に不満に思っていることはこれからの一ヶ月に必ず出ます。そのことは感謝の気持ちも同じですが、表面に出てくることは比べものにならないくらい不満の方が大きくなります。我慢から生まれる不満はうまくいけば先につながりますが、お互いを理解しようとしていない我慢に基づいた不満はなかなか解決できない場合が多く、時として、いつまでも不満や心の傷として残ってしまいます。

残り一か月、全てを解決することは時間的に難しいことも確かですが、児童生徒・保護者・先生も「なんで・どうして」という思いを学校や学級に置き忘れてくることを少なくすることが、わたしたちの役割であり、次年度に向けてのエネルギーになるのではないでしょうか。

「学ぶ楽しさのある授業」

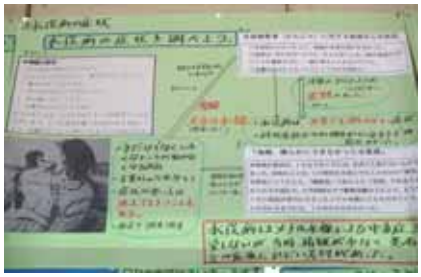
嘱託研修員会　駄知小学校　保母征

之（前号より）

３　実際の授業より　第５学年　社会

単元名　「わたしたちの国土と環境」～水俣病とたたかい続ける人々～

本時のねらい　裁判で認定者と認められた人の少なさや偏見や差別が原因で、長年病気のことをかくしてきたＡさんの姿を話し合う活動を通して、水俣病の問題が今日もまだ続いていることを理解することができる。また、二度とこのようなことが起きないように、次世代に伝えていこうと決意して打ち明けたＡさんの姿をとらえることができる。

	ねらい	学習活動	指導・援助
つかむ	ビデオを見て、自分が思ったこと、考えたことを交流することができる。	Ａさんの写真と経歴を知る。 **１　ビデオ「４０年以上隠し続けた故郷」を見て、感想を話し合う。** 課題　**Ａさんが長年、水俣病であることを話せなかったのはなぜだろう。**	・第２時に出した子どもたちの課題を取り上げ、必然性のある導入を図る。 ・ビデオは内容を精選し、２分程度にまとめたものを見せる。
ふかめる	Ａさんが水俣病であることを話せなかった理由を、資料を活用して調べることができる。 課題について仲間と話し合う活動を通して、水俣病によって苦しんでいる人がまだいることを理解することができる。	**２　課題に対しての予想を立て個人追究する。** **３　課題について全体交流を行う。** 【資料１　長期化する裁判と認定患者の割合】 【資料２　水俣病患者に対する偏見・差別】 資料２から水俣市にすむ人が差別されていることが分かった。だからＡさんは、自分の病気のことを打ち明けられなかったのではないか。 【資料３　水俣市出身者に対する偏見・差別】 母親が病気だった時の苦しみを知っている。Ａさんは、家族に迷惑をかけたくなかったのではないか。だから話せなかったと思う。 	・前時の学習で、裁判をおこせば補償される可能性があったことを指摘する。 ・つまずきが予想される児童を中心に机間指導する。 ・主体的な子ども同士の交流を重視するため、１０分程度の自由交流をする。 ・これまで学習したこととつなげて考えている児童には教室側面の掲示してある資料を活用するよう助言する。 
まとめる	ビデオから、Ａさんが、二度とこのようなことが起きないよう、自分が病気であることを打ち明け水俣病を伝えていこうとしていることが分かる。	**４　ビデオ「４０年隠し続けた故郷」の続きを見て、課題について確認し、５５歳になった時に自分が水俣病であることを告白したＡさんの姿について話し合う。** **５　本時の学習活動のまとめを書く。**	・「終わっていない」というＡさんの言葉を使って発問することで、水俣病が今なお続いていることを理解させる。 評価規準 水俣病の問題が今日もまだ続いていることを理解している。 【思考　判断】ワークシート

４　授業後の考察

○指導計画の工夫

子どもたちが、事象をより実感をもって具体的に調べることができるよう、人の生き方や考えに触れる事象を取り上げた。この事象から、子どもたちは、水俣病の問題が今も続いていることを、「今も病気で苦しんでいる人がいること」「水俣病のことを伝えようと活動している人がいること」の２つの視点で、実感を伴ってとらえる姿が見られた。人物を取り上げ、その人物の行動や想いにふれ、実感を伴いながら追究していくことは、子どもが環境や平和について身近に感じ、公民的資質を向上する上で重要なことであることが分かった。しかし、それが一般化できる教材であることが必要であり、教材をより精選していく必要がある。

○意欲のもてる導入

自分が水俣病であることを隠し通して生活してきたＡさんの姿をビデオで紹介した。ビデオによる導入で子どもたちは、事象に対してイメージをもち、関心をもつ姿が見られた。また、２分程度にビデオの内容を精選したことで、課題化をスムーズに行うことができた。その際、被害者の人たちが裁判により一部が勝訴し損害賠償を受けたという前時の学習を振り返る場を設けることで、より課題意識をもって資料追究に向かう姿が見られた。

○高まりのある追究

ワークシートにおける資料の位置関係を工夫することにより、複数の資料を矢印などを使ってつなげ、考えている姿が見られた。しかし、資料から分かることだけを読み取り、そこから課題につなげて考えを深めていく児童が少なかった。

資料から読み取ったことを交流した後、子どもたちに「Ａさんが数年前に、自分が水俣病患者であることを打ち明けた」事実を伝えた。この事実に子どもたちは深く関心をもつことができた。しかし、前半の交流に時間をかけすぎて、充分な話し合いができなかったため、「二度とこのようなことがおきないため」というＡさんの強い気持ちにせまることができなかった。社会的事象の意味を深く追究していくためには、教師の意図的指名や発問によって子どもの課題意識を高め効率のよい話し合いを仕組むことが必要であると考える。

○自己の変容を自覚させる評価

自分の考えがどのように深まったかを意欲的に書こうとする姿が見られた。しかし、より意図するまとめに迫るためにも、まとめの形やポイントを助言する必要がある。本時の場合、「Ａさんが長年、話さなかった理由と打ち明けた理由を書きましょう。」と助言することで、ねらいに迫るまとめに近づけたのではないかと考える。

児童のまとめ

> Ａさんは、小さい頃、差別を受けて自分自身が苦しい思いをしたから言えなかったと思う。結婚をして新しい家族を守るためにも言わなかったと思う。でも、同じように水俣病になっている人が、正面から人と接しているのを知って、自分もがんばろうと思った。Ａさんは、二度とこのようなことがないように打ち明けたと思う。

５　成果と課題

○導入で人物を紹介したビデオを使用したことは、子どもたちの関心を高め、学習活動への意欲につながった。
○子どもたちが、資料の読み取り、発言などの学び方が定着している姿が見られ、主体的に学ぼうとする姿勢が見られた。
△子どもたちの意見を位置づけ、課題解決をするためにも、特に資料については、読み取らせたい内容を明確に指導者側がもっておく必要がある。
△まとめの方法についても子どもたちに具体的に示し、1時間を通して学んだことを、自分の言葉で書き、自己評価能力を鍛えていく必要がある。

学校研究会

研究主題

仲間とかかわり合って学ぶ子の育成

～「生き生きとした話し合い活動」を求めて（国語科の「読むこと」の指導を核として）～

土岐市立肥田小学校　王田　信次

１　はじめに

本校では、相手を認め励まし、尊重しあう中で仲間と共に様々な思いや考えを交流合ったり（練り合い、学び合いのある学習）、共に力を合わせ協力して活動したりすることで、学ぶ楽しさの中から大きな達成感や充実感を味わうことができると考える。

そこで、昨年度は、「話すこと」「聞くこと」に重点をおき研究を進めてきたが、児童の読解力が弱いという反省点等から、本年度は、特に国語科の「読むこと」の指導を核として、実践を進めている。

２　研究内容

〔研究内容１〕

「話し合い活動」を位置付けた年間・単元指導計画の作成

①学習の進め方の定着

②系統性を考えた低学年における話し合い活動

〔研究内容２〕

単位時間での必然性のある「話し合い活動」のあり方

①話し合い活動の足場となるワークシートの工夫

②動作化を取り入れた学習活動

③自己評価、相互評価の工夫

３　授業実践

１年生　国語科「くじらぐも」

〔研究内容１〕

「話し合い活動」を位置付けた年間・単元指導計画の作成

①学習の進め方の定着

本単元では、一人読み→課題提示→動作化→個人追究→全体交流→ペア音読→振り返りという学習の進め方を子どもたちに伝えた。学習への見通しがもて、児童のつぶやきで課題がつくらたり、自然に動作化に移行できたり、より学習意欲も高まるであろうと考えた。

②系統性を考えた低学年における話し合い活動

低学年では、まず相手意識をもたせるため、話し合いの一つとしてペア交流の場を多く設定しょうと考えた。ペアの子に話すことで、気楽に話せること、誰もが同じ足場に立てることの良さがある。中にはペアの子に話すことで自信がもて、全体交流の場で発言しようとする子も見られる。本時では、学習の終末に学習したことを生かして、ペア音読を行い、お互いの良さを見つけ伝え合う場を設け、全体へも広めていった。

〔研究内容２〕

単位時間での必然性のある「話し合い活動」のあり方

①話し合い活動の足場となるワークシートの工夫

児童が、学習場面の状況をつかみやすくするために、挿絵やふきだしを取り入れたワークシートを作成し、児童自身が登場人物になりきって一人読みをすすめ、どの子も自分の考えがもてる手立てとした。また、自分の考えが発表に結び付けられるよう机間指導では、助言したり認めて自信をもたせたりした。

②動作化を取り入れた学習活動

本時の動作化では、前時の学習のつながりを大事にさせたかったので、やっとくもの背中に飛び乗ることができた所から動作化させ、子どもたちのうれしい気持ちを思い起こさせた。

イスの上をくじらぐもの背中と見立てて実際に乗らせ、空の旅に対する子どもたちのわくわくする気持ちをもたせた。また、空のずっと上、きれいな景色、澄んだ空気等にも、想像させ読み取らせることで、話し合い活動にも生かすことができた。

③自己評価、相互評価の工夫

児童は学習の終末でペア音読を行った。読み取ったことを生かし、それをポイントとしてお互い音読をし合った。聞き手の児童は、ポイントとなる箇所の読み方に着目したり、相手の上手な所を見つけたりしながら聞き、良かった所を一つ伝えることをきまりにした。お互いに聞き合う、伝え合う活動が、「話し合い活動」の一つとも考えた。

友達の良い所を見つけることは自分もポイントを意識し、頑張って音読をしよう、褒めてもらえる嬉しさから次も頑張ろうという意欲にもつながった。

４　成果と課題

○動作化を取り入れたことで、場面の状況がつかめたり、気持ちを読み取ったりすることができるようになってきた。登場人物になりきって素直に感じたことを、交流の場で表現できる児童も増えてきた。

○話型を知ることで、視点をもって友達の考えを聞いたり、関わって話をしようとする子も見られるようになってきた。

△低学年の児童は、自分が書いた文章を読む時、上手く読めないため相手に伝えられないことが多い。書くことによる弊害を考え、書く内容や量等の吟味、書く指導の定着を図る必要がある。

学校所員会

研究主題

自他の命の大切さを感じ、思いやりの心を育む子」を目指して

～実際の事例資料・体験・ロールプレイングを取り入れた授業を通して～

土岐市立駄知中学校　有賀　良子

1　はじめに

人間は人間の温かさ、思いやりによって支えられ励まされながら、自分の存在を肯定し、他者を大切に思うようになっていく。そこで、保育学習の中に、命の大切さや、思いやりの大切さを実感として感じられる場面を設定していくことが大切だと考えた。

本校における全校研究主題は「仲間と共に学びを深める生徒」である。他者の存在と自己の存在をしっかりと見つめていくことで、仲間の存在を大切にし、共に学び合える生徒の育成を目指そうと考えた。

2　研究内容

＜研究内容1＞保育学習大切さを実感させるための導入ユニットの位置づけ

＜研究内容2＞子育て中の親子や乳幼児に生徒が実際に触れ合う機会の設定

＜研究内容3＞疑似体験やロールプレイング学習の導入

3　授業実践

第３学年　家庭科＜保育領域＞
単元名「絵本の読み聞かせ・命のふれあい」

＜研究内容1＞保育学習大切さを実感させるための導入ユニットの位置づけについて

生徒たちは、第１、２時で、生命の誕生の様子や人は人とのコミュニケーションによって人間らしく育っていくことを「オオカミに育てられた子」「サイレントベビー」の資料から学習し、第３時では、自分が家族にどのような願いや思いのもとに育てられてきたのかを学習する。これらの学習の中でキーワードとなる「コミュニケーションの大切さ」が、絵本を読んでもらうことを通して感じられる、心地よさや感動から実感できると考えた。また、第３時では、親の願いや子育て中の苦労や喜びなどを家庭で調査してきたことをもとに、今の自分の成長は周りの人々の思いや支えの上にあることを学んでいる。そこで、生まれてくる命の尊さや今の自分の成長を支えてきてくれたのは家族の無償の愛であることを実感として感じられるような講座となるよう、講師の方と打ち合わせをした。読んで頂いた本は次の３冊である。

☆へんしんトイレ　言葉遊びの楽しさを感じる絵本
（コミュニケーションの大切さ）

☆わたしのいもうと　いじめによって生きる力を失っていく妹の様子を綴った実話の絵本　（命の尊さ）

☆ラブ・ユー・フォーエバー　どんなことがあっても、どんなに子どもが成長しても、母が子を愛する気持ちは変わらないことを伝える絵本　（家族の無償の愛）

生徒の感想

☆一冊の絵本からいろいろな気持ちや感情が生まれてくるので、すごいし、不思議なことだと思いました。絵本で命の大切さ、人への思い、気持ち、いろいろなことが学べるのでいいと思いました。親子の愛を深めたり、心のスキンシップにはとてもいいと感じました。将来自分に子どもができたとしたら、子どもと心のスキンシップをとっていきたいです。

☆絵本を読んでもらって、心がとても感動しました。最初の「へんしんトイレ」では、心から笑いました。次の「わたしの妹」だったと思うけど、いじめの本は、心がじぃ～んとして、せつない気持ちになりました。絵本は、小さい子のためのものだと思っていたけど、中学生の心も動かせるものだと思いました。絵本はすごいなぁと思いました。言ったように、誕生日の時、母に「生んでくれてありがとう。」って言ってみようと思います。

4　成果と課題

○体験することで、絵本を通したコミュニケーションの良さを感じ取ることができた。

○自分の存在も仲間の存在も尊い命であることを感じ、言葉を大切にしようとする感想が多く見られた。

△導入ユニットの最後に乳幼児の親子との交流を位置づけているが、学校と地域の乳幼児学級との連携をとり、継続的な取り組みにしたい。

学校所員会の活動報告

今年度のまとめ　～各校の研究推進の成果～

学校所員は、これまで各校の校内研究を推進する立場で取り組んできました。各所員の実践については、前号までの「教育とき」で紹介してきました。ここでは、本年度の各校で取り組んだ研究の成果の一部について紹介します。

土岐津小学校	○児童とともに、教材との出会いから単元の出口まで見通しをもった学習計画を立てることにより、児童の中に話し合う必然性が生まれ、目標をもって意欲的に取り組む姿につながった。 ○ワークシートの工夫、読み深めの発問の工夫、話型指導や学習形態の工夫により、仲間との交流のよさを理解し、意欲的に伝え合おうとする姿が増えた。
下石小学校	○学習掲示を工夫したり、学習活動を工夫したりすることで、どの児童も自分の考えをもつことができ、進んで話そうとする児童の姿を生んだ。 ○お助けコーナーやメモボードの活用など、個の応じた指導・援助をすることで話すこと・聞くことの基礎・基本が身に付き、主体的に話し合おうとする児童の姿を生んだ。
妻木小学校	○ペープサート、吹き出しを利用したワークシート、実物見本、動作化など、言語活動の指導・援助の在り方を研究実践することで、発達段階に応じた手立てや場面ごとに有効な手立てがどのようなものであるかがはっきりしてきた。 ○「話し方」「聴き方」の段階表を利用したり、意図的に話し合い活動を取り入れたりすることなどにより、より質の高い相互学習ができるようになってきた。また、「～の言葉から」「～の絵から」というような国語科にふさわしい話し方ができるようになってきた。
鶴里小学校	○児童に付けたい力を明らかにし、それに対する学び方を試行錯誤しながら追究してきた結果、教科の本質を捉える学び方が児童に身に付いてきた。 ○着目児を設定し、具体的な児童の見方・考え方を明らかにし、個に応じる指導方法を明確にしてきたこととで、課題に対して自ら考えようとする児童の意識が高まってきた。
曽木小学校	○机列表カルテに一人一人の実態をまとめることで授業のねらいが明確になり、学習活動や指導の手具体的になり、一人一人が力をつけることができた。一人一人の授業の様子を必要に応じてメモし、評価と次の指導に活用することができた。 ○「聞く」観点を明確にしたことで発達段階に合わせた「聞き方」が身に付いてきた。それによって、感想の内容が話し方だけではなく話の内容に関わった感想が増えてきた。さらに、仲間の感想に関わって発言できる児童が増え、質問や感想の内容が深まっていくようになった。
駄知小学校	○追究の目的や方法を明らかにする導入（効果的な資料提示）を工夫したことで、学習活動に見通しをもって取り組むことができた。 ○教科書の例文を詳しく読み取り、ガイドブックの構成を理解したり、レポートの全体の構成を理解したりしたことで、自分で文章を書くときにその構成を意識して書くことができた。文章を書くためには、目的に応じた文章構成の方法を理解させることが大切であることがわかった。
肥田小学校	○教師が願う子どもの姿に近づくために、ペア交流やグループ交流を取り入れる手立てが有効であった。 ○毎時間の地道な取り組みにより、仲間同士の言葉や文中の言葉に着目したり、言葉と言葉をつなげたりする力が育ってきた。

泉小学校	○着目すべき言葉と操作方法を洗い出すことができ、なかなか一人読みができない児童も自分の考えを書けるようになってきた。 ○一人読みでどんな言葉に着目させ、どう読み取らせていくかが明確になり、どの児童も自分の考えをもって授業に参加できるようになった。
泉西小学校	○「ねらいの明確化」「展開のあり方」「本時気づかせたい価値の押さえ方」「終末のあり方」などをはっきりさせることで、道徳の時間の基本パターンを作り上げてきた。 ○発問を３つに精選したことが、児童にとって「何を答えればよいか」がわかる問いかけとなり、思考が途切れることなくつながっていった。また、終末において、教師の説話だけでなく、外部講師、手紙、ＶＴＲ、心のノート、児童作文、絵本の読み聞かせなどの工夫が、児童の心に響いていった。
土岐津中学校	○各教科特有の学習過程を見直し再検討することで、協同学習の足場（課題解決したい意欲、課題解決への見通し、自分の意見など）が確実なものになり、協同学習が効果的なものになった。 ○一人一人の役割や活動のねらい、ゴールが明確になった協同学習では、生徒が意欲的に取り組むことができ、理解や思考を深めるために有効であった。
西陵中学校	○題材を工夫したこと、生徒の疑問や願いを学習課題に反映させたこと、自己選択の場を位置づけたことが生徒の探求意欲の喚起につながった。 ○動の練り合いと静の練り合いを位置づけたことが授業への参加意欲を高め、主体的な学びにつながった。
濃南中学校	○生徒主体の学習形態をパターン化して繰り返し行ったことで、どの教科でも意欲的に学習に取り組むことができ、基礎・基本の学習が定着しつつある。 ○生徒が生き生きと取り組むための指導・援助をすることで、授業への参加意欲や集中度が高まり、考えをまとめて書くことができる生徒が増えてきた。
駄知中学校	○毎時間の授業において、かかわり合いの場の設定とともにかかわりの評価の場を位置づけたことにより、生徒の意識が向上しかかわり合いながら学習を進めていくことへの構えができた。
肥田中学校	○単元の構造化・１時間のねらい・評価規準が明確になった。 ○生徒の実態を事前につかむことで、資料・題材の精選や、つまずきに応じた具体的な手立てを考えることができた。また、年間・単元を通して、同じ場・方法・観点で評価することで、教師は指導・援助を検証し、後の指導に生かすことができた。
泉中学校	○どこまでできるようになったらいいのか、何ができればいいのかをねらいとして指導することで、生徒同士が学び合い、高め合う姿が見られた。 ○教科ごとの課題提示の在り方、ねらいと評価が一体となるような工夫の必要性が共通理解できた。

紙面の都合で、成果の一部を紹介しました。

詳しくは、『研究紀要　№２６０　平成２０年度　学習指導の改善』をご参照ください。

「心にひびく言葉」

「率　先　垂　範」

土岐津小学校　　石垣　寿子

毎朝始業前に運動場を走っている職員がいます。その後を走っている職員と子どもがいます。この姿は、全校持久走の取り組みが始まってから現在も続いている光景です。

若い頃、よく先輩の先生方から「子どもは先生のやっている通りになる。良い姿を見せればそのようになるし、逆に怠けようとすると学級が大変になる。『率先垂範』が大事だよ。」と言われたことを思い出しました。

「走りなさい」というよりも、走っている姿を見せることが子どもたちの意欲につながっていると感じているこの頃です。

では、自分はどんな姿を子どもたちに見せていたのかと自問自答してみると、子ども達と一緒に走ったり、遊んだりと子どもたちを見据えて学級経営をしていた時は、『率先垂範』に近い姿があったと思います。

若い時は、とにかくがむしゃらにいろいろなことにチャレンジし、失敗もしてきました。その都度その姿を子どもたちには見せてきました。

しかし、今の立場として何を「率先垂範」しているのか…悩みながら今を過ごしているような気がします。だから、何も動いた姿としては見せていないことになるかもしれません。若い時のようにがむしゃらに動くことは難しいでしょうが、何か行動に移すことができるはずだと…。

自分が今よりも一歩でも成長できたとき子どもたちも成長できている。そして、自分を成長させてくれるのは、周りの人たちと子どもたちだと思っています。これからも、子どもたちの成長を願いながら私自身も成長していきたいです。

勤務校の職員の走っている姿こそが「率先垂範」。その姿を見て生活している子どもたちは幸せです。

掲　示　板

◇土岐市教育実践論文　　教育実践論文表彰式（２／１２）で以下のように受賞されました。

《優秀賞》

◎加藤　隆史（泉　中）中学校社会科における「生徒による授業評価」の有効性について
◎杵渕　容子（肥田中）読解力を身につけ、内容を的確に表現する能力を高める国語科指導の在り方
○長谷川浩子（駄知中）伝えたい内容をもち、英語で正しく伝えることのできる生徒

《優良賞》

○長田　智子（下石小）つくりだす喜びを味わい、発想豊かに楽しく造形活動ができる子を目指して
○水野智恵子（駄知中）養護教諭として関わる特別支援教育
○小栗　洋之（泉　中）みたもの感じたものを、主体的に色や形にできる生徒の育成
　高木亜緒生（下石小）仲間と共に高め合える子の育成　（平成２０年度　校内研究のまとめ）

《新人賞》

◇三根由佳利（妻木小）運動の楽しさや喜びを味わう体育科「まんぞく授業」を求めて
▽木下　翔太（肥田小）科学的思考力を育てる授業づくりを目指して
▽服部　悦子（肥田小）想像と気づきを生かし、作り続けた「自分だけの作品」を目指して
＜▽安藤　基紀（駄知小）自分の思いを文章にのせて表現し、相手に伝えることができる児童の育成＞

※東教推　　◎　…一般の部，優良賞　　○　…一般の部　入選
　　◇　…新人の部　新人賞　　▽　…新人の部　入選
　　＜▽＞…安藤教諭は東教推枠にて入選

土　岐　市　教　育　研　究　所
ＴＥＬ　0572-54-1111（内281）
ＦＡＸ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ.４３０
発行責任者　所　長　加藤　紀久朗
発行日　平成２０年３月２６日
題　字　白　石　聡　教育長

土岐津小学校
『6年生を送る会』

撮影：土岐津小学校　伊藤策雄　先生

もう少しやってみたいと思う気持ちが意欲につながる

土岐市教育研究所長　**加藤　紀久朗**

一年は早いもので，年度の終わりを迎えますが，早いと思う中には多くの出来事が含まれています。先生方のご指導のお陰で本当に素晴らしい姿で，一人一人が卒業できることに祝福と感謝を感じています。しかし，振り返った時，先生・児童生徒ともに決して満足しているばかりではないと思いますが，それでよいのではないでしょうか。

先生のみならず，生きているからにはよりよい姿を目指し，一生懸命にやってきたわけです。それは子どもも同じかと思います。しかし，結果がついてこないことや逆に落ち込んでしまうことも何度も何度もあったと思います。

私自身，教員として３０数年たちましたが，今も，毎日一喜一憂しているのが現実です。夜中に目が覚めることや，朝仕事に行くのに足が重くなる日もあります。教師としての経験や年齢からすれば，もう少し楽に構えてやればよいのにと自分自身に言い聞かせながらも力の無さにあきれます。それでも，少しでもなんとかしたいという思いが心のどこかにあるようで，なんとかやれているところです。

人間正直なもので，腹一杯の状況の時は，いくらおいしいものでも遠慮します。常に満腹状態では欲する意欲はわきません。逆に空腹時はなんでも食べたくなります。しかし，それでは続きません。年度の終わりを迎え，お腹の状態は「腹八分目」でしょうか。もう少し食べてみたいとか，こんなものが食べたいという状態になっているでしょうか。

一年間の指導を振り返ったとき，当然満足ばかりでなく，反省の方が多いかもしれませんが，必要以上に自分を責めることは意欲につながりません。

子どもも先生も，もう少しやってみたい，やれたとの思いがひとつでも持てた状態で年度末を迎えることが，次年度につながる意欲となりエネルギーになるのではないでしょうか。

学校所員会

研究主題

学び方を身に付け，主体的に学び合う子の育成

土岐市立妻木小学校　保母　征之

1　はじめに

「つけたい力を明確にした指導計画を作成し、学び方を身に付けた学習集団に育て、ねらいに迫る授業展開をすれば、願う子どもの姿が具現できる」という仮説のもと、６回の全校研究会を実施し研究を進めている。

2　研究内容について

＜研究内容1＞　教材研究と指導法の工夫改善

①教科のねらいに迫る指導計画

②実態に応じた指導法の工夫改善

＜研究内容2＞　学び方の育成

①質の高い学習集団づくり

②児童の主体的学習を促す学び方指導

＜研究内容3＞　授業展開力の向上

①考えを深め広げる補助発問

②授業中の評価と指導・援助

3　授業実践より

第６学年　国語科「海の命」５場面（後半）

＜研究内容1＞

①単元の出口につながる指導計画の作成

物語を読み取り、とらえた主題について自分の生き方に迫れるような単元を仕組みたい。そのためには、単元全体の出口における子どもの姿を明確にし、そこから単元全体を見通した１時間１時間の役割を明確にするよう「単元プラン」を作成した。今年度の研究では、授業プランを作成することで、授業のねらいを明確にし、課題・追究・まとめと評価規準を一貫性のあるものにするよう実践してきた。今回は、下記の順序で単元プランを作成した。

（ア）単元の出口でめざす「読みのまとめ」

（イ）単元の「読み」のねらい

（ウ）単元の評価規準

（エ）単元を通しての課題設定

（オ）単元を通しての視点の設定

＜研究内容2＞

①一人読みへの支援となる「手がかりノート」の作成

物語全文を視点別で色分けしたノートを単元のはじめに作成した。前単元「やまなし」でも作成し、子どもの読み取りの足場となった。読み取るポイントを与えることで一人読みを支援し，主題に迫る言葉を見つける手がかりとさせるものである。「海の命」では、太一、父、与吉じいさの言動やクエの描写が重要な叙述になるため、色を分けて捉えやすいようにした。

②一人読みへの支援となる教科通信

一人一人が自分のよい読みに気付いたり、課題に迫るまとめを書いたりすることができるよう、１時間ごとの振り返りを通信で紹介した。また、仲間の読みを考えながら聞くことで、自分の読みを深め広げることができる学び合いの喜びを実感することをねらって、授業後に「かがやき発言」を書くことを位置付け通信でも紹介した。さらに「つなぎ発言」や、深まった読みについても紹介するようにした。

＜研究内容3＞

①話合いを組織化するための意図的指名

話合いを深め，ねらいに迫るために、以下の点を読み取っている児童を意図的に指名した。

○太一がクエを討ちたいけど、討てないと迷い、葛藤する読み

○「こう思うことによって～済んだ」に着目して、クエをおとうと思おうとした読み

②読みを深めるための板書の構造化

本時では、太一の心の変化をとらえることができるよう板書計画をたて、子どもの学びを位置付けた。

4　成果と課題

○単元プランを作成することで、単元を通してのねらいが定まり、１時間ごとのねらいもより明確にすることができた。

○教科通信によって、自分の読みに自信をもち、交流活動を活発にするようになった。

○意図的に指名することにより、児童が読みのずれを修正することができた。

△話合いを深めていく手立てとして、「課題」「発問」をさらに精選、吟味していく必要がある。

土岐市の教育課題

「学ぶ楽しさのある授業」

嘱託研修員会

1　今年度を振り返って

嘱託研修員会では「学ぶ楽しさのある授業」の具現をめざしてきました。１年間の授業研究等を通して、次のように振り返りました。

- ○ 本時のめざす姿とそれに向かうための手だてを明確にすることが、児童・生徒の意欲の向上につながった。
- ○ 児童・生徒に仲間と関わらせる場を意図的に設定することが、授業に広がりや深まりをもたせることにつながった。
- ○ 評価の方法・観点を具体化することで、児童・生徒は自己の変容を自覚することができた。
- ● 目指す姿を明確にするために、教師の深い教材解釈・教材分析が必要である。
- ● 仲間との関わり合いに必然性をもたせるために、さらに個人追究の場や、その時間の確保をする必要がある。
- ● 児童・生徒の発言やノートなどを基にして確かな評価をすることが、児童・生徒の実態把握や次時への意欲へとつながる。このような単位時間を線でつなぐサイクルの継続が肝要である。

今年度の実践で得た成果をもとに、「学ぶ楽しさのある授業」をさらに目指していきます。

2　今年度の嘱託研修を終えて

泉小学校　　清本　直子　教諭（体育）

マット運動が苦手な子が、休み時間に友達と壁倒立の練習をしたり、家で布団をマット代わりに練習したりする姿がありました。また、持久走の時は、朝、自主的に運動場を走る子の姿がありました。どの子も「うまくなりたい」「できるようになりたい」と思っているのだと改めて感じました。今後も、運動そのものの楽しさや上達の喜び、仲間と一緒に活動する楽しさを味わい、夢中に運動に取り組める授業を目指していきたいです。

泉西小学校　　土本　晴美　教諭（体育）

「自分の目指す姿が分かり、そうなるための方法が分かり、実際にやってみて評価ができる授業」になるように実践してきました。意欲をもたせることの大切さ、意欲がある時に出てくる予想を超えるようなすごい力が児童にあることを学びました。それは、私も同じで、意欲がある時は頑張れます。そして、その意欲は生活全てにつながっていると感じます。今後も、いつも目標をもって活動させられるよう、さらに工夫していきたいです。

肥田中学校　小久保　拓哉　教諭（数学）

『数学を学ぶ楽しさとは何か』＝『数学の本質とは何か』ということを改めて勉強させていただきました。非常にシンプルではありますが、やはり『簡潔･明瞭･統合』にこだわることであると痛感しました。今後も、出会う生徒が『より簡単にできないか（簡潔）』『なぜそういえるのか（明瞭）』『いつでもいえるのか（統合）』という視点で臨むことができるよう、教材研究や素材の開発･工夫、発問の精選などに邁進して生徒とともに成長していきたいです。

泉中学校　　西尾　　新　教諭（国語）

文章中の言葉の意味を調べたり、言葉を比較したりすることで、言葉のもつ力に触れさせたいと願ってきました。実践の中で、私が予想もしなかった言葉に着目する生徒や、驚くような新しい考えを発言する生徒の姿を見て、生徒の感性ははかりしれないと実感しました。「学ぶ楽しさのある授業」は、生徒だけでなく、教師も当てはまるということを改めて生徒たちから教えられた気がします。今後も新たな発見や驚き、感動を求めて、さらに努力を続けていきたいです。

『１年間ありがとうございました』

土岐市教職員特別研修の報告（2）

先月号に引き続き、2名の先生に
報告していただきました。

教職員特別研修報告書

土岐市立駄知小学校
後藤　淳

１　研修先　　富山県富山市立堀川小学校
２　日　時　　平成２０年１月２６日（土）
３　研修内容　第７９回教育研究実践発表に向けての授業研修会を参観
（テーマ　　子どもの自己形成と授業）
参観内容　・朝活動・くらしのたしかめ
・Ⅰ部　１年　生活科「ながなわとび」
・Ⅱ部　４年　国語科「今、考えていること」
・Ⅲ部　５年　理科「てこ」
・第Ⅲ部会（理科）授業協議会

４　内容

○朝活動・くらしのたしかめ

朝活動の時間では、児童が掃除に取り組んでいた。参観者が多くいる中、自分のめあてをもち取り組む様子が見られた。それぞれの学級ごとに個人のめあてを掲示する場所があり、どんなことをどのように取り組むことでめあてが達成されるのかを、児童自身が明確にして朝活動を行っていることが分かった。このような指導のくり返しが、掃除に対する意識を高め、工夫を生み出すことにつながる。

くらしのたしかめでは、１年広瀬学級を参観した。１人の児童が、昨日の出来事について話をしていった。１年生であるため、たどたどしくはあるけれど、必ず「いつ、どこで、どうして、どう思った」を話していた。話の中に入れなければいけないことが、くり返し指導され、児童に定着してきたことが推測される。また、担任は話しきるまで、口を挟むことがない。聞くことに徹し、出来事とその時の気持ちを板書していくだけであった。児童がうまく表現できないことを援助するつもりで、「それは、こういうことかな」と、担任が勝手にまとめてしまうことがあるが、これでは表現力は育たない。何とか伝えようと言葉を探させることが、表現力を育てるものであると感じさせられた。

○参観授業より

３つの授業を参観したが、１人の児童の取組や思いについて紹介することで、他の児童がそれに対してどのように思い、自分の取組を見つめていくのかという授業展開であった。研究協議会にも参加したⅢ部　理科「てこ」の授業について紹介する。

Ⅲ部　理科「てこ」（２１／４０時）

・子どもの願いと子どもへの願い

Ａ児は、「てこを使って車を持ち上げたい」という考えを実行し、１輪だけだが持ち上がったことに

喜びと、工夫すれば４輪とも持ち上がるのではないかという期待する気持ちを話す。このことを契機に、自分のてこの見方を見つめ直し、今後の活動への期待を膨らませる。また自分の今までの取組の中で見つけ出してきたり、感じたりしてきた事象を関連付けて考えることで、てこの見方を深めていく。

・児童の様子

Ａ児が前時に、てこを使って車の１輪が持ち上がり、充実した気持ち、これから取り組んでいきたいことを話した。これに対し、Ｂ児は「悔しい。短い棒でも車を持ち上げてみたい」と話す。このＢ児の発言に対し、他の子どもが可能か不可能か発言していった。中には「持ち上げたいという思いがあれば持ち上がる」という発言をするものが現れるが、それを科学的な論理で打ち消す児童は現れなかった。Ｂ児は、仲間の発言を聞きながら「長い棒がいることは分かっている。けれど、短い棒で持ち上げたい」という発言をしたところで、担任が「何か、考えがある？誰か参考にすることは？」と方向付けた。Ｂ児は、「Ｃ児のようなことをするといいと思う」と述べた。Ｃ児が行っていたのは、視点からの力点、作用点の距離とかかる力の大きさの関係を調べることである。数値を使って追究する必要性を感じていたと考えられる。

○研究協議会より

研究協議の前半は、研究部の部員による授業分析を行い、その後、参観者の意見をもらう進め方をしていた。この進め方は、参観者が研究の視点を理解していくのに有効であると感じた。部員による授業分析では、部員一人一人が観察対象児を設定し、児童の発言や今までの記録から、観察対象児がどのように考えているのかをとらえていくものであった。

参観者の意見からは、「理科の授業であることを考えると、数値をあげて説明する児童が出てくることが望まれるのではないか。」という意見があった。確かに、「気持ちで持ち上げるのは無理である。」という意見の児童に理由を問う発問をしていれば、今まで実測している児童であれば、数値を上げて説明してくる児童もいたのではないかと考えられる。しかし「Ｂ児に実測していく必然を感じ始めているところであるから、本人に測定させ納得をさせていきたい」という担任の思いがあり、この考え方には共感することができた。

堀川小学校での研修を終えて、感じたことは、教師の指導・援助の在り方についてである。児童は一人一人、自分の考えや思いを相手に伝えるためにとうとうと述べている。このような姿にするためには、話すために必要な要素を児童に指導した上で、教師は言葉を挟まず、話しきるまで聞くことに徹すること、また、できたことに対して評価をすることを繰り返し行ってみえたことが推測できる。

授業でも同じように、教師が言葉を挟むことなく話合いが進んでいったが、単位時間の中での教科の本質に迫るための教師の指導・援助の必要はないのかという疑問が残っている。教科の本質に迫るために教師が強引に授業を展開したり、逆に教師の指導・援助がなく、這い回るだけの授業になったりすることがある。この研究でも、授業の中でどのような指導・援助をしていくことが、児童にとってよりよい自己形成につながっていくのかが問題となっているようであった。しかし、生活歴や学習歴からより深い児童理解を行った上で、意図的な発問をしたり指名発言をさせたりして、授業を組み立てていってみえるスタイルは参考となるものであった。今後の授業構想に生かしていきたい。

子どもの自己形成と授業～富山市立堀川小学校 授業研修会より～

土岐市立土岐津中学校　長瀬久美子

1　はじめに

学力対策委員として、県・市の学力状況調査を分析する機会があった。土岐市の中学生は、英語では単語を並べかえるなど正しい語順で文章を書くことよりも、「自分の考えや思い、伝えたい内容のつながりや内容が正しく伝わることを意識して書く」という点で弱さが見られ、国語においても「伝えたい事実や事柄と自分の考えや気持ちを明確にして、目的や意図を意識しながら、決められた字数や構成で適切に書く」指導が今後も必要であると分析した。また、平成１９年８月１６日には、今年度中に改定される小中高校の学習指導要領について、中央教育審議会が、基本方針を「ゆとり教育」から「確かな学力の向上」に転換した上で『自分の考えを文章や言葉で表現する「言語力」を全教科で育成していく』方針を固めたことが、ニュースにもなった。

堀川小学校では「子どもの自己形成と授業」を研究主題とし、自分の考えをつくる「ひとり追究」が学習の本質であると考えている。そこで、研修を通して「言語力」を育成するヒントを得たいと考えた。

2　授業研修会より

(1) 他者との係わりをもたせて自らの考えを広げる場 ～「くらしのたしかめ」の時間より～

挨拶運動をしている児童たちに迎えられ受付を済ませると、「朝活動」が始まっていた。児童が活動の場所や内容を自分で決め、身の回りを整えていく時間である。堀川小学校には「清掃活動」の時間がないどころか、清掃分担場所すら決められていない。１年生から６年生までの児童一人一人が、身の回りの環境を見つめ、自らの手で整えていくのである。頭に三角巾を結んだ１年生と５年生の児童が水でぬらした雑巾を使って階段を磨いたり、２年生の児童が教室のストーブの後ろに回ってほこりを集めたりするのである。

堀川小学校ではチャイムが鳴らない。「朝活動」を終えた児童たちが続々と教室に戻ってきて、時計を見ながらそれぞれの席に着くと「くらしのたしかめ」が始まる。２年生の教室で「お話したいことがある人はいますか」という担任の問いに、多くの児童が真っ直ぐ手を挙げる。一人の女子児童が指名され、鉄棒の逆上がりがなかなか上手くできないことについて、丁寧な言葉遣いで、長いまとまりのある文章でゆっくりと約１５分間も話し続けた。この児童は、上手くできる友達に憧れて練習を始めたこと、放課後一人で練習していること、家族からアドバイスを受けたことなど、時には体を使って足の蹴り方を説明するなどして話し続けた。この児童が話している途中に話をしたい児童は、話を聞きながら黙って手を挙げて教師に指名されるのを待つ。次に指名された児童は、一輪車に乗ることができるようになった時の喜び、あきらめないことの素晴らしさ、仲間からの励ましがあったことなど、自分の成功体験をこの女子児童の鉄棒の話に係わらせて、自分の考えを話し始めた。教師はほんの数

回「お母さんはなんて言ったの？」「お友達の〇〇くんはその時どうしたの？」など、自分だけでなく他者との係わりをもたせて話すことができるよう支援する。また、児童たちは途中で話につまってしまっても決してあきらめて座ることはしない。教師も他の児童たちも黙って待ち、その児童が自己と誠実に向き合って考える時間が流れた。

他者との係わりをもたせて自分の考えを述べるためには、誠実に待つという姿勢が必要である。子どもが自己と誠実に向き合って考える余裕、他の子どもが話していることを奥の奥まで聴くことができる余裕をつくる。つまりは、教師が時間的な余裕を生み出す、待つということが大切である。

(2) 追究が深まる話し合い ～国語科「今、考えていること」(4年生)の授業より～

４年生では、国語科を核とした総合的な学習の時間において「今、考えていること」として、子どもたちが書いた作文を、作文集として年間１０冊発行する。子どもたちは「自分の作文を書く、仲間の作文を読む、自分の作文が読まれる」ことを繰り返していくのである。

本時は「カメは冬眠、猫は寝る」という男子児童の作文について、学級全員で話し合う。作文を書くことが苦手なこの児童は、妹の世話をする仲間の作文からその児童が兄弟思いであるという人柄を感じ取ったのを機に、自分が大切にしているペットについて作文の下書きを仕上げ、仲間に読んでもらうのだ。全員でこの作文を読んだ後、仲間からの意見を聞いた。初めのうちは「なぜカメ吉という名前がついたかが分かった」「カメについて詳しく書いてあって、冬眠が必要な理由を知ることができた」など、この作文のよさやこの児童の伸びを認める発言が続いた。しかし、この作文で「動物を大切にする優しさをもっている自分」のことを仲間に伝えたかった児童は、どうすればそれが伝わるか、仲間にアドバイスを求めた。すると児童たちが「いつもどんなふうに世話をしているの」「どんな時にかわいいなぁって思うの」「もし、いなくなったらどう思うの」と次々に質問し、それに答えていくうちに、だんだんと書き足すとよい文章が明確になっていく。つまり、書き手の思いが読み手に伝わる作文にするための工夫が、生み出されていったのである。このように、読み手を意識した文章を書く活動を通して、全員が書き手にも読み手にもなることで、作文を書く対象を選定し、文章表現も洗練されていく。また、仲間からの評価を自ら求め、逆に仲間の作文を読む視点を明らかにしていくのである。

3 終わりに

堀川小学校の授業において追究が深まる場面では、児童たちの間でギブアンドテイクが成立している。一人一人が個別に課題をもって臨む「ひとり追究」があるからこその姿である。また、教師の都合のよい展開になっていないか、子どもが係わりにくい授業ではないか、教師の支援が曖昧になっていないかなど、常に学びの主体である子どもの側からとらえている教師の姿があるからでもあると感じた。

コミュニケーションにおいて、言語を知っているだけでなくどのように運用するかが重要であり、より適切な言葉を選んで話したり書いたりする力が必要となる。まずは、聞き手や読み手が誰であるかを明確にすることから始めたい。そして、自分自身が、その聞き手や読み手を意識した話し手であり書き手であることを意識させたうえで指導したいと考える。

「私の教育実践」

2年目・3年目を終えて

教育実践論文で、新人賞をとられた先生から原稿をいただきましたので紹介します。

◇◇◇音楽科の実践を通して学んだこと◇◇◇

濃南中学校　　加藤　祥子（２年目）

本校の研究主題「生徒が生き生きと取り組み、確かな学力を身に付ける授業づくり」を受け、音楽の授業における「生き生きとした姿」を「表現に対する願いをもち、仲間と共に主体的に取り組む姿」だと考えました。そして、「こんなふうに歌いたい」という願いや憧れをもって主体的に取り組み、願う表現を達成できた時の感動や、そのような表現を仲間と共に創り上げることができた喜びを味わわせたいと思い、実践を進めてきました。

「表現に対する願いを引き出す」ためには、『曲の構成表』や『強弱表現のイメージ図』などの教具を工夫しました。さまざまな学習プリントに「書くこと」を通して、生徒の感じ取ったことや表現への願いを引き出すことができました。また、視覚に訴える掲示物を工夫したことによって、楽譜を見ることに慣れていない生徒、音楽に苦手意識を持つ生徒も、曲へのイメージや表現に対する願いをもつことができました。

また、「主体的な取組」については、『パート練習進行表』をパートリーダーに渡してリーダーの指示を支えたり、聴き合い活動がより効果的で深まりのあるものになることをねらって『聴き合いチェックカード』を使った練習を工夫したりしました。このような活動によって、パート練習を自分たちで進めていこうという意識が高まり、「先生何やればいいの？」から「ここができないから教えて下さい」と前向きな姿に変わってきました。

本校に赴任して２年が過ぎようとしていますが、生徒たちが見せてくれる姿に学び、励まされる毎日だったと感じています。今後も、生徒が「生き生きと取り組む」音楽の授業を目指し、努力していきたいと思います。

◇◇「目的意識をもって探究活動に取り組み、合理的・実証的に探究する生徒の育成」◇◇

泉中学校　　味田　幸代（４年目）

理科における教育の営みとは、「自然を探究する能力や態度」を育成することです。平成１８年度県の学習状況調査の結果をみると、次の２点の課題が推察されます。

１．各単元での既習事項が日常生活の自然の事物現象と関連付けて理解できていないこと

２．授業の実験や観察活動の中で、生徒一人一人が確実に実験技能を身に付けられていないこと

そこから、以下のような研究仮説を立てました。

・学習内容を日常生活と関連付けることで、生徒の興味・関心を高める。

・個別指導の場を継続的に設けて、一人一人の技能を高める。

「静電気と電流」の単元では、授業の終末に本時の学習内容を実社会や実生活と関連させて考えることができる事象を提示したり、活動を行ったりしました。実際に、自分が生活している家にある電気器具を調べたことで、電圧や電力などが生活の中に位置付いていることを実感できた生徒が多くいました。また、電気料金の明細表を見たり、100V―60W と 100V―100W の電球の明るさを比べたりして、学習したことを生かして生活を見直そうという意識をもつこともできました。

その他、事前アンケートを実施し生徒の実態や意識を把握することで、重点的に指導するポイントを探ることができたこと。クラスの実態に応じた単元構成にすることで、生徒の意識に連続性が見られ、主体的な課題解決につながったこと。振り返りの時間を位置付けることで、学習する前の自分の自然に対する見方や考え方が、どう変容したのかを自覚させ、学んだことの価値をつかめたことなどが成果として得られました。今後の課題として、個別指導を繰り返しても、基礎・基本の定着が弱い生徒への関わり方や指導はどうであったかを振り返り、机間指導の手順や補助教材の改善などを図ること。単元で付けたい見方や考え方を生徒に意識させ、段階ごとにその見方や考え方に迫る考察ができるように継続的に指導することで、さらなる自己の変容を自覚できるように、学習意欲の向上につなげるための実践をしていきます。

◇◇◇仲間と共に思考と認識を深め合う授業の在り方◇◇◇

～資料を自ら選択し、活用することを通して～

泉中学校　梅村　亮介（３年目）

本当のおもしろさとは生徒が「わかった！」や「なるほど」と思える授業ではないかと考えました。次に、「わかった！」とか「なるほど」と思える授業をつくるにはどうすればよいのか考えました。これが、授業を考える時のスタートです。

このことを踏まえて、授業を行う上で大切にしていきたいと考えていることは以下の３つのことです。

①自分がなぜだろうと疑問をもつこと

「わかった！」と思うには、「わからない」ことが必要となってきます。そのわからないことも、「わからない」だけではなく、「わからないけど興味がある」でなくては意味がありません。自分自身がその「わからない」ことに興味・関心をもつからこそ追究しようという意欲がわいてくるのです。

②その疑問に対して自分の力で解決していくこと

「わからないことに興味をもった」はいいが、その疑問に対して何の手がかりも、追究手段もなければ疑問を解決することができません。解決するためには、疑問を解決するための力と材料が必要となってきます。その力が資料活用能力であり、材料が資料です。これができれば、おもしろいと思う授業ができると思います。

③仲間とともに考えていくことで、自分の考えがより深まっていくこと

自分の力だけで解決して「おもしろい」と感じても自己満足に過ぎません。自分だけでは、考えもしなかった仲間の考えを受け入れることで「なるほど」と思えることができ、自分の考えを深めることができるのです。これが仲間と共に「おもしろい」と思える授業ではないでしょうか。

多くの資料には、たくさんの答えや考えのもとが詰まっています。自分では見つけられなかった事象、予想さえもしなかったような考えを仲間はもっています。もちろん、同じような考えをもっている仲間もいます。仲間と交流することによって、共感し合ったり、考えが深まったりし、「なるほど」と思うことができます。これらを授業で大切にし、これからも実践を行っていきたいと思います。

学校所員会の活動報告

今年度のまとめ　～各校の研究推進の成果～

学校所員は、各学校の校内研究を推進するという立場で取り組んできました。各所員の実践については、これまでの「教育とき」で紹介してきました。ここでは、本年度の各学校で取り組んできた研究の成果について紹介します。特に、「学ぶ楽しさのある授業」を生み出すための手だてなどを中心に取り上げました。

土岐津小学校	○各学年における「つけたい力」を明らかにしたことにより、指導案を作成する際に、この単元ではどんな力をつけることができるのかを考えることができた。そして、手立てや指導・援助を具体的に示そうと努めた結果、児童は学ぶことの面白さや楽しさを体感しながら、活動に取り組もうとする姿が見られた。 ○単元を通して児童に立ち止まらせたい言葉や叙述（キーワード）を明らかにしたため、追究場面において、文章表現の仕方に目を向け、意味や根拠をもとに自分と仲間の考えを比べ合おうとする姿が見られるようになってきた。
下石小学校	○動作化や一人称で自分の考えを発表する役割演技を取り入れたことで、登場人物の気持ちが読み取りやすくなり、ねらいに迫る話し合い活動につなげることができた。 ○発表者を立てることで、共通の足場をもって話合いをすることができ、そのことが主体的に学ぶ児童の姿を生んだ。また、児童は共通点や相違点に気付き、自分の考えを再構築することができた。
妻木小学校	○教材分析図をつくることは、キーワードとなる言葉を点と点でではなく、線としてとらえることができるようになり、教材を理解するのに有効であった。また、教師がとらえた「主題」を指導案にのせることで、教師の願いが鮮明になり、子どもの読みに生かすことができた。 ○授業の終末に自分の活動を振り返り、仲間の考えのよさを見つける場を設定したことは、仲間と学び合う喜びや、学習をより確かなものにしていく手段として有効であった。また、本校の柱の一つ「満足授業」について、自ら願いをもち取り組んだことで、児童が主体的に学習に取り組む姿が向上した。

鶴里小学校	○各段階（導入・展開・終末）における学び方を明確にするすることで、各教科の学び方を身に付けることができ、たくましく学ぶ姿が育ってきた。 ○児童一人一人のものの見方や考え方、学び方の傾向などを把握し、本時に期待する個々のたくましく学ぶ姿を明らかにすることで、個々に応じた指導・援助を具体的に描くことができ、たくましく学ぶ姿が育ってきた。
曽木小学校	○指導計画に５つの言語意識を位置付けることで、児童にとって必然性のある学習活動を仕組むことができ、意欲的に取り組み、やる気が持続する姿が見られた。 ○つけたい力を効果的に付けるために、児童の思考の流れに合うワークシートを工夫したことにより、児童が学習の進め方を理解し、意欲が持続し生き生きと取り組む姿となった。
駄知小学校	○例文提示を工夫することなどにより、見通しをもって書き進める児童が増えてきた。 ○つまずきのある子への焦点を当てた援助や、早く書くことができる子への発展学習などの細やかな指導を工夫することにより、どの子も時間いっぱい集中して書くことができるようになってきた。
肥田小学校	○「話すこと・聞くこと」の領域では、題材を工夫することで、子どもが生き生きと話したり聞いたりすることができた。 ○どのクラスもペア交流やグループ交流を繰り返し行うことで、小集団で話し合う力がついてきた。
泉小学校	○願いを明確にし、意図的に活動を仕組むことで、自治力が大きく伸びた。教師が引っ張らなくても、問題点に気付き、声に出し広めていく動きが見られるようになった。 ○自分たちで問題を見付け、仲間とともに考え合い、解決しようとする自主的・自治的な姿が見られるようになった。児童の思いをつかみ、学級会で様々な思いを引き出すことが、相手の気持ちに気付くところにつながり、話し合いが深まったり、互いのよさを発見したりすることができ、ねらいに迫る話合いができた。
泉西小学校	○特に、生命尊重の授業では、大切にしなければならないことが明らかになった。 ○「板書計画」をきちんともつことで、授業の流れをイメージし、本時気付かせたい価値をきちんととらえ、ねらいに迫ることができることがわかった。
土岐津中学校	○各教科で研究構想をまとめたことは、“学び合いの中で基礎・基本が身に付く”協同学習の在り方について、各教科が具体的な生徒の姿でイメージすることにつながった。 ○ねらいに迫る学習課題を明確にし、「協同学習」を意図的に位置付けたことが、生徒の課題追究への意欲化につながった。
西陵中学校	○教材教具を工夫し、一人一人の活動の場を設けることで、生徒が積極的に課題解決に取り組む、一人一人に学び方（学習のすすめ方）を身に付けることに有効である。 ○思考のすすめ方を提示することで、課題解決の視点を与え、進んで課題解決に取り組む姿を導き出すことができた。
濃南中学校	○課題解決の見通しをもたせることで、生徒が課題意識をもって意欲的に学習活動を行う姿が見られるようになってきた。 ○学習展開を工夫して、授業の中で生き生き場面をつくることによって、授業への参加意欲や集中度が高まり、グループやペアで自分の考えを述べたり、考えをまとめて書いたりすることができる生徒が増えてきた。
駄知中学校	○生徒の実態から生徒一人一人の課題を予測し、いくつかの指導・援助をしたことにより、意欲的に課題を追究することができるようになってきた。 ○かかわり合いの場を意図的に設定したことにより、仲間の考え方や活動のよさを自分に取り入れようとしたり、積極的に仲間とかかわろうとしたりすることができるようになってきた。
肥田中学校	○生徒の実態を３つのタイプに分けてとらえ、特に C タイプの生徒にはきめ細かな指導・援助を工夫することができ、C タイプの生徒の主体的な学びを促すことができた。 ○多くは生活班を単位とした等質集団を活用することで、自然な形での教え合いの姿が多く見られ、B、C タイプの生徒については、学習内容の理解を確かにすることができた。
泉中学校	○学習ルールが定着してきたことや学習展開を工夫したことなどで、生徒同士でやることがわかり、見通しをもって活動に入ることができた。「仲間と共に…」の具現ができつつある。 ○生徒同士で活動する時間をできるだけ多くとることで、課題解決の達成感を味わうことのできる生徒が増えてきている。

紙面の都合で、成果の一部を紹介しました。
詳しくは、『研究紀要　No.２５６　平成１９年度　学習指導の改善』をご参照ください。

「土岐市幼稚園、小・中学校教育の方針と重点」

平成 19 年度の具現状況及び平成 20 年度の策定の方向、配慮事項について

土岐市教育研究所

平成１９年度の学校評価等から把握した成果

・　幼稚園において、心身の健康に関する領域「健康」及び感性と表現に関する領域「表現」のねらいの達成や内容の充実に成果が見られる。土岐市教育課題研究推進指定園発表等を通じて、園児の姿で具体的な具現が図られた。

常に園児、児童生徒の姿で教育の成果を求めていく姿勢のよさ

・　園、学校において自己や自校の課題を意識した主体的な研修の充実が図られ、指導力の向上に資することができた。

土岐市の教職員の資質や能力の高さ

・　小・中学校において、家庭や地域社会と一体となった豊かな体験を通した道徳教育が推進された。また、要としての道徳の時間の指導が充実した。

豊かな人間性を育む土岐市の教育のよさ

平成１９年度の学校評価等から把握した課題

・　幼稚園、小・中学校において、土岐市の教育方針の具現及び教育課題の解決は総合的に見て発展途上にある。来年度もその趣旨を十分に踏まえ、継続と発展のある指導が必要である。

・　幼稚園、小・中学校において、学校評価（学校関係者評価の実施）に基づき、学校経営の改善、開かれた学校づくりの推進及び教育の質の向上に一層努める。

・　中学校において、基礎的な知識・技能が身に付き、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てるために指導目標や評価規準を一層明確にする。

・　小学校において、問題行動や不登校問題、いじめ問題等についての全校体制による指導の充実を図る。

・　小・中学校において、現行学習指導要領の趣旨を踏まえた総合的な学習の時間の指導の充実を図る。

・　幼稚園、小・中学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の一層の充実と校内支援体制の整備を図る。

・　幼稚園、小・中学校において、いじめ問題等の解決に向けた積極的な人権同和教育の推進を図る。

来年度の方向や配慮したポイント

『方針』：長期的な見地から土岐市の幼稚園、小・中学校教育がこれから進むべき方向

『重点』：短期的な見地から方針具現のために最も大切にすべき点

『教育課題』：各校の「学校課題」と同様、土岐市内の各地域、各学校、幼児・児童生徒の実態、地域や保護者の願い等を踏まえて、土岐市の学校教育が一丸となって解決すべき課題。一方で、『方針』や『重点』の具現状況を見極める上でのいわゆる到達目標としての性格も併せ持つ

策定にあたっては、各幼稚園、小・中学校における評価結果や市教育委員会による訪問時の状況、国・県・市における学校教育の今日的な課題等を総合的に判断し、かつ、岐阜県の学校教育の方針と重点の趣旨を踏まえつつ、以下の点を大切にした。

① 個性を伸ばす教育の充実（県：一層充実を図りたい教育理念）
② 自己評価と学校関係者評価（外部評価）による開かれた学校づくり、学校経営の改善及び教育の質の向上
③ 基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度など「確かな学力」の育成を図る指導の充実
④ 個々の課題に応じた主体的な研修の充実（児童生徒のＩＣＴ活用能力や情報モラル育成のための指導）
⑤ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実（校内支援体制の整備、個別の教育支援計画や指導計画の活用）
⑥ 現行学習指導要領の趣旨を踏まえた総合的な学習の時間における学習活動の充実
⑦ 人間尊重の精神に基づき、その気風がみなぎる学校づくり、学級経営の一層の充実
⑧ 「夢中で遊ぶ保育」「学ぶ楽しさのある授業」具現のための不断の授業（保育）改善
⑨ 生徒指導の一層の充実（問題行動や不登校問題、いじめ問題等　「早期対応」のみならず「未然防止」の視点の強化）
⑩ 教育研究所の研修事業（所員・学対・嘱託の三委員会）と指定校の見直し

「心にひびく言葉」

「あのときの一言」～子どものよさを見逃すな～

泉小学校　長谷川　昇児

指導案の裏側に「Mさん」と書かれた大きな字。それを見て，私は，その子を指名。

忘れもしません。５年担任のときの地区道研の授業での出来事です。内容項目３－(2)「勇気ある退却」という資料。主人公の隊長は，隊員らと共にエベレスト登頂をめざすが，あと数百mという所で，危険を感じて断念するという話です。この資料を読み終えた後，殆どの子どもたちは，「命のことを考えて登頂を断念したことはすごい」と感想を話してきました。そんな中で，Mさんは「命が大切であるといってもあと少しで登頂できるのにどうして諦めるのかわからない」と，疑問を投げかけたのです。その後，隊長がどんな気持ちから登頂を断念したかを，学習適性（書く・役割演技・話合い）に応じて自己選択した方法で考えさせ，全体交流をしました。私は，子どもたちの様々な考えを一生懸命聞いていましたが，Mさんのことは頭から消え去っていました。

そのときです。冒頭に掲げたことが起きたのは。教科主任の先生が必至に私にアピールをしているのです。ようやく気がついた私は，Mさんを指名しました。「隊員の命だけではなく，隊員の家族や隊員のかかわる人々のことまで考えると退却をせざるを得ない」と，すっきりした顔つきで話をしました。

この授業を終えた後，教科主任の先生は，「あのとき，Mさんを指名しなければ，あの子のよさは生かされないぞ」と，言われました。

６年生で「ベートーベン」という道徳の授業を行ったときも，「音を聴こうと必至に耳を傾けようとする動作化」を子ども自らやっている姿に着目し，「なぜ，あのとき，子どもたちに気持ちを聴いてやらないんだ」と，言われました。

２年生の道徳の授業の展開の後段でも「自分たちが育てていたベゴニアの鉢植えを見たときの子どもの表情にどうして着目しないのか」と，言われました。

「子どもたちの変化に敏感に気付き，よさを見逃すな」私には，この３度の指摘がそんなふうに聞こえてきます。

掲　示　板

◇「卒園・卒業　おめでとうございます」

＊幼稚園卒園児　４０３名　　＊小学校卒業生　６１９名　　＊中学校卒業生　６１８名

◇東教推教育実践研究奨励賞【教材・教具の部】　　入選　おめでとうございます

土岐津小　纐纈貴美子（特支）…各種ソフトを使用して作成したデジタル教材
土岐津小　西尾克彦，鶴本祥子（特支）…デジタル絵本，自作教材
下石小　　長田　智子（図工）…ペットボトルで造形遊び
妻木小　　三根由佳利（体育）…さかあがり補助具
鶴里小　　水野　和正（理科）…「サーキットで勝負」
濃南中　　渡邉　宏彦（数学）…五角形の内角の和が３６０度であることを確認する教具
駄知中　　有賀　良子（技家）…まつり縫い見本
肥田中　　小久保拓哉（数学）…相似と比の導入教具
泉　中　　小栗　洋之（美術）…おしゃれな敷物見本
泉　中　　加藤　明覚（技家）…ぱったんゴロゴロ２００７Ａ１部門試作機

◇教育文化賞　おめでとうございます

２月２４日、土岐市文化プラザ・ルナホールにおいて、土岐市内の教育・文化の向上やスポーツ・音楽などの分野で優秀な成績を収めた人に送られる教育文化賞の授賞式が行われました。

教育功労賞　　２名　　優秀学校賞　　１校　　善　行　賞　　１名
文　化　賞　１１名と２団体　　学　習　賞　１１名　　スポーツ賞　２２名と１団体

◇お詫びと訂正

前号（教育とき NO.429 号）１ページ目の写真と撮影者の学校名を曽木小学校とし発送したところがありましたが，正しくは鶴里小学校です。訂正してお詫びします。

◇「教育とき」のご愛読、ありがとうございました。